

| | | | | | | | | | | |
|--|--|-------|---------|---------|---|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツ科学概論(含、研究倫理) | | | | 担当教員 | 森本吉謙/荒井龍弥/柴山一仁/栗木一博/小池和幸/ 内丸仁/早川公康/田中智仁/永田秀隆/金賢植 | | | | |
| | Sport Science(L.) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| <p>・2年コースの9領域(保健体育科教育/スポーツコーチング/トレーナー/スポーツマネジメント/健康福祉/運動・スポーツ栄養/スポーツ情報戦略・マスメディア/現代武道/子ども運動教育)について、各分野の最新の学術的動向等について講義する。 ・科学研究の健全な発展のため、研究活動における「誠実な研究者の心得(研究倫理)」は大切となる。大学院での研究活動に先駆け、その要点について解説する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| <p>・2年コースの9領域(保健体育科教育/スポーツコーチング/トレーナー/スポーツマネジメント/健康福祉/運動・スポーツ栄養/スポーツ情報戦略・マスメディア/現代武道/子ども運動教育)について、各分野の最新の学術的動向等について理解し、さらに自分の意見を付帯しながら説明することができる。 ・「研究倫理とは」について理解し、さらに自分の意見を付帯しながら説明することができる。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツ科学について各分野の学術的動向等および「研究倫理」について理解し、関連して自分の意見を深めることができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | スポーツ科学および「研究倫理」について強い関心を持ち、関連する事項について積極的に調べようとする事ができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 学んだことや調べたことをわかりやすくまとめことができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| ①スポーツ科学における専門領域(9領域)の最新の学術的動向等について、②科学研究の健全な発展のために大切となる「研究倫理」について、この2つの課題について講義を行う。なお、それらの内容を理解できるだけでなく、さらに自分の意見を付帯しながら説明できるようにできるように討論する機会も設ける。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容]担当教員の紹介、講義の進め方、成績評価等について説明をする。 | | | | 9 | [テーマ]健康福祉領域について考える [内容]健康福祉領域の学術的動向等について解説する。 | | | | |
| 担当 (森本) | [授業外学修](240分)シラバスにて授業全体で扱う内容について確認する。また、授業に必要な準備物を揃えておく。 | | | | 担当 (小池) | [授業外学修](240分)本時で扱う「領域」について、事前に調べておくこと、事後には授業で得られた情報をまとめること。 | | | | |
| 2 | [テーマ]保健体育科教育領域について考える [内容]保健体育科教育領域の学術的動向等について解説する。 | | | | 10 | [テーマ]子ども運動教育領域について考える [内容]子ども運動教育領域の学術的動向等について解説する。 | | | | |
| 担当 (荒井) | [授業外学修](240分)本時で扱う「領域」について、事前に調べておくこと、事後には授業で得られた情報をまとめること。 | | | | 担当 (金) | [授業外学修](240分)討論の際、自分の意見が述べられるように事前に情報収集をしておくこと、事後には、今後の研究活動に活かせるようにまとめること。 | | | | |
| 3 | [テーマ]現代武道領域について考える [内容]現代武道領域の学術的動向等について解説する。 | | | | 11 | [テーマ]スポーツ科学の専門領域について考える [内容]これまでの授業にて学修したスポーツ科学における専門領域(8領域)の学術的動向等を課題に討論をする。 | | | | |
| 担当 (田中) | [授業外学修](240分)本時で扱う「領域」について、事前に調べておくこと、さらに事後には授業で得られた情報をまとめること。 | | | | 担当 (柴山) | [授業外学修](240分)討論の際、自分の意見が述べられるように事前に情報収集をしておくこと、事後には、今後の研究活動に活かせるようにまとめること。 | | | | |
| 4 | [テーマ]スポーツマネジメント領域について考える [内容]スポーツマネジメント領域の学術的動向等について解説する。 | | | | 12 | [テーマ]責任ある研究活動について考える① [内容]「研究倫理」について解説する。 | | | | |
| 担当 (永田) | [授業外学修](240分)本時で扱う「領域」について、事前に調べておくこと、事後には授業で得られた情報をまとめること。 | | | | 担当 (荒井) | [授業外学修](240分)本時で扱う「研究倫理」について、事前に調べておくこと、さらに事後には授業で得られた情報をまとめること。 | | | | |
| 5 | [テーマ]スポーツコーチング領域について考える [内容]スポーツコーチング領域の学術的動向等について解説する。 | | | | 13 | [テーマ]責任ある研究活動について考える② [内容]「研究倫理」について解説する。 | | | | |
| 担当 (柴山) | [授業外学修](240分)本時で扱う「領域」について、事前に調べておくこと、事後には授業で得られた情報をまとめること。 | | | | 担当 (荒井) | [授業外学修](240分)本時で扱う「研究倫理」について、事前に調べておくこと、さらに事後には授業で得られた情報をまとめること。 | | | | |
| 6 | [テーマ]スポーツ情報戦略・マスメディア領域について考える [内容]スポーツ情報戦略・マスメディア領域の学術的動向等について解説する。 | | | | 14 | [テーマ]責任ある研究活動について考える③ [内容]これまでの授業にて学修した「研究倫理」を課題に討論をする。 | | | | |
| 担当 (栗木) | [授業外学修](240分)本時で扱う「領域」について、事前に調べておくこと、事後には授業で得られた情報をまとめること。 | | | | 担当 (荒井) | [授業外学修](240分)討論の際、自分の意見が述べられるように事前に情報収集をしておくこと、事後には、今後の研究活動に活かせるようにまとめること。 | | | | |
| 7 | [テーマ]トレーナー領域について考える [内容]トレーナーの学術的動向等について解説する。 | | | | 15 | [テーマ]まとめ [内容]これまでに学修してきたスポーツ科学について各分野の学術的動向等および「研究倫理」についてまとめる。 | | | | |
| 担当 (内丸) | [授業外学修](240分)本時で扱う「領域」について、事前に調べておくこと、さらに事後には授業で得られた情報をまとめること。 | | | | 担当 (森本) | [授業外学修](240分)授業の振り返って内容をまとめる。 | | | | |
| 8 | [テーマ]運動・スポーツ栄養学領域について考える [内容]運動・スポーツ栄養学領域の学術的動向等について解説する。 | | | | 16 | [試験または課題] [方法] | | | | |
| 担当 (早川) | [授業外学修](240分)本時で扱う「領域」について、事前に調べておくこと、事後には授業で得られた情報をまとめること。 | | | | 担当 (森本) | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 討論、授業内・授業外レポートおよびポートフォリオを総合的に評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 成績評価方法 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・大学院設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行なうこと。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。 | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ◎ | ○ | 40 | | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 40 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| ポートフォリオ | ○ | ◎ | ○ | 20 | 授業毎、その内容について各授業担当者から評価・解説する。 | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | スポーツ科学指導研究 | | | | | | | | | |
| 教科書 | 特になし | | | | 参考書・参考資料等 | 『日本学術振興会『科学の健全な発展のために』編集委員会編『科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー』丸善出版株式会社、2015(平成27)年』 | | | | |
| 連絡先 | | | | | オフィスアワー | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---------|---------|---|--|------------------------|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツ科学指導研究 | | | | 担当教員 | 荒井龍弥 | | | | |
| | Teaching Method of Sport Science(S) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 必修 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| <p>本大学院の教育目標は、スポーツ・体育、健康分野における高度な専門的指導者として、その発展に寄与しうる有能な人材を育成することにある。そこで、ここでは、現場において、スポーツ科学の知識・技能を教授するための適切な内容・水準・方法(教授技法)を、特に実践を通して獲得することを目指す。なお、本授業は、1・2年コース合同で運営されることも大きな特色である。1年コースの学生にとっては、これまで現場で実践してきた教授技法のステップアップに、一方2年コースの学生にとっては、その教授を体験することにより良き鑑となることを期待している。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツ科学の高度な専門的指導者として求められる教授技法を獲得することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツ科学を教授するために最適な内容や方法を体験し、適切な教授技法の留意点を理解することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 他と共同しながら与えられた課題を積極的に解決しようと努力することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 調べたことをわかりやすくまとめることができ、さらに他に伝えることができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| まずは、(講義)教授技法の基礎的なことを知る。その後、(演習)個人またはグループに分かれて、所定の課題について指導計画の立案等の準備、そして実践という流れで授業を進める。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | <p>[テーマ] オリエンテーション [内容]担当教員の紹介、授業の進め方、成績評価等について説明をする。</p> <p>[授業外学修](240分)シラバスにて授業全体で扱う内容について確認する。また、授業に必要な準備物を揃えておく。</p> | | | | 9 | <p>[テーマ] 集団技法やシンキングツールの教育方法上の位置づけ [内容] 教育方法上の分類を行ってみることを通じ、ここまで紹介・試行してきた集団技法およびシンキングツールの位置づけ並びに特徴を考える。</p> <p>[授業外学修](240分)「自分として指導場面に活かせることは何か」という視点からまとめておく。</p> | | | | |
| 2 | <p>[テーマ] グループワーク・参加型授業の目的と実際 [内容] アクティブ・ラーニングの一例として、グループワークを実際に行ってみることを通じ、指導計画上必要な事項について確かめる(特に課題内容の重要性について知る)。</p> <p>[授業外学修](240分)授業の進行の流れをまとめ、さらに自分自身の視点からその内容を深める。</p> | | | | 10 | <p>[テーマ]指導計画の実践① [内容] 他グループに対する指導計画および進行計画を作成する。</p> <p>[授業外学修](240分) 実践可能な形となるよう、計画を完成させるとともに、評価計画も考えること</p> | | | | |
| 3 | <p>[テーマ] グループワーク・参加型授業の構成①:アイスブレイキング [内容] グループワーク等の参加型授業の導入としてしばしば用いられるアイスブレイキングについて実際に経験しながらその意義や目的について検討する。</p> <p>[授業外学修](240分) 自分なりのアイスブレイク方法を案出してみること</p> | | | | 11 | <p>[テーマ]指導計画の実践① [内容]指導計画に基づき、指導を実践する。</p> <p>[授業外学修](240分)実践をふりかえり、特に、「自分として活かせることは何か」という視点からまとめる。</p> | | | | |
| 4 | <p>[テーマ] グループワーク・参加型授業の構成②:ジグソー法その1 [内容] 指導計画の展開時に用いられる集団技法を形態面から検討する。その一例としてアロンソンの「ジグソー法」による課題解決に取り組み、その方法上の留意点を考える。</p> <p>[授業外学修](240分) ジグソー法による課題への取り組みを完成させ、エキスパートにふさわしいよう準備しておく</p> | | | | 12 | <p>[テーマ]指導計画の実践② [内容]指導計画に基づき、指導を実践する。</p> <p>[授業外学修](240分)実践をふりかえり、特に、「自分として活かせることは何か」という視点からまとめる。</p> | | | | |
| 5 | <p>[テーマ] グループワーク・参加型授業の構成②:ジグソー法その2 [内容] 指導計画の展開時に用いられる集団技法を形態面から検討する。その一例としてアロンソンの「ジグソー法」によるリグループ局面を試行し、その方法上の留意点を考える。</p> <p>[授業外学修](240分) ジグソー法の得失について検討すること</p> | | | | 13 | <p>[テーマ]指導計画の実践③ [内容]指導計画に基づき、指導を実践する。</p> <p>[授業外学修](240分)実践をふりかえり、特に、「自分として活かせることは何か」という視点からまとめる。</p> | | | | |
| 6 | <p>[テーマ] グループワーク・参加型授業の構成③:ワールドカフェ [内容] 指導計画の展開時に用いられる集団技法を形態面から検討する。その一例としてワールドカフェ方式を試行し、方法上の留意点を考える。</p> <p>[授業外学修](240分) ワールドカフェの得失について検討すること</p> | | | | 14 | <p>[テーマ]指導計画の実践まとめ [内容] 実践してみた指導計画の修正および改善案を考えてみる</p> <p>[授業外学修](240分) 評価計画に照らし、追加すべき情報や進行内容を検討すること。</p> | | | | |
| 7 | <p>[テーマ] グループワーク・参加型授業の構成④:シンキングツールその1 [内容] 指導計画の展開時に用いられるシンキングツールについて紹介するとともに、グループで代表例について試行し検討する。</p> <p>[授業外学修](240分) 扱ったシンキングツールを用い、自分なりに課題内容を修正・完成させてみる。</p> | | | | 15 | <p>[テーマ]まとめ [内容]これまで実践してきた指導についてまとめる。</p> <p>[授業外学修](240分)授業全体を振り返って内容をまとめる。</p> | | | | |
| 8 | <p>[テーマ] グループワーク・参加型授業の構成④:シンキングツールその2 [内容] シンキングツールの選択を行う段階からグループで検討し、試行してその留意点を検討する。</p> <p>[授業外学修](240分) 他のシンキングツールではどうなるか、自分なりに取り組んでみる。</p> | | | | 16 | <p>[試験または課題] [方法]</p> | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 発表、討論、授業内・授業外レポートおよびポートフォリオを総合的に評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | ・大学院設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行なうこと。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ◎ | ◎ | 40 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ◎ | 40 | | | | | | |
| ポートフォリオ | ○ | ◎ | ◎ | 20 | 授業毎の取り組み内容について授業担当者から評価・解説する。 | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | スポーツ科学概論(含、研究倫理) | | | | 参考書・参考資料等 | | 授業中に指示する | | | |
| 教科書 | 特になし | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 荒井:A棟3F309(tt-arai@sendai-u.ac.jp) | | | | オフィスアワー | | 荒井:前期・月曜日4時限、後期・水曜日2時限 | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|-------|---------|---------|---|--|---|------|---|
| 授業科目名 | 情報リテラシー | | | | 担当教員 | 粟木一博/荒井龍弥 | | | | |
| | Information Literacy | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| <p>先行研究・調査・実験等を通じ得られる情報は得てして大量なものとなる。これらの情報はそのままでは有効なものとはならない。必要に応じ、取捨選択・加工していくことが必要である。本講では情報リテラシーのうち、とくにデータの加工・読み取り・表現に焦点をあて、受講者の基本的スキルの向上を目指す。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| <p>所与のデータに対し、基本的統計情報を算出することができる。また、それらの統計情報をわかりやすく表現することができる。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 表計算ソフトを用い、基本的な関数操作や標準偏差、検定、相関等の基本的記述統計値の算出・解釈に習熟することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 統計的なデータの取り扱いに対して抵抗なく取り組むことができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 基本的統計情報を算出・表現できる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 主に表計算アプリケーション(EXCEL)を用いた関数操作やデータ処理の方法を実習するとともに、基本的記述統計値の算出やその解釈、検討上の留意点等について検討する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容]担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 担当 (粟木・荒井) [授業外学習](120分) シラバスを熟読しておく。 | | | | 9 | [テーマ] 関数の操作② [内容]条件分岐を扱う関数を利用して、効率的にデータを処理する方法を解説する。 担当 (荒井) [授業外学習](120分) Excel関数の条件分岐に関する考え方について予習・復習しておく。 | | | | |
| 2 | [テーマ] プレゼンテーションソフトウェアpowerpointの概要・発表実習① [内容]プレゼンテーションソフトの代表であるpowerpointを用いた情報伝達の方法について確認するとともに、発表の実習を行う。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) パワーポイントの操作方法について予習するとともに発表資料を作成する。 | | | | 10 | [テーマ] 関数の操作③ [内容]データベース関数などやや高度な内容の関数の使用方法を解説する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) データベースについての知識を整理しておく。 | | | | |
| 3 | [テーマ] プレゼンテーションソフトウェアpowerpointの概要・発表実習② [内容]プレゼンテーションソフトの代表であるpowerpointを用いた情報伝達の方法について確認するとともに、発表の実習を行う。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) 他者の発表を参考に、自らの発表資料をさらにブラッシュアップしてみる。 | | | | 11 | [テーマ] 関数の操作④ [内容]統計処理の実務上よく用いる関数を紹介し、その利用法を学ぶことにより、効率的にデータを処理する方法に習熟する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) 紹介した関数を用いてさまざまなデータ処理を行ってみる。 | | | | |
| 4 | [テーマ] 表計算ソフトウェアExcelの概要 [内容]表計算ソフトウェアExcelの基本的な操作方法、入力ために知っておくと便利な機能などについて解説する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) 表計算ソフトウェアの操作方法について予習しておく。 | | | | 12 | [テーマ] ピボットテーブルの利用① [内容]ピボットテーブルの使用方法について解説し、クロス集計やその分析方法について説明する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) クロス集計に関して予習しておく。 | | | | |
| 5 | [テーマ] 関数の操作① [内容]一次的な関数についての考え方とExcelにあらかじめ組み込まれている基本的な関数の使用方法を解説する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) Excel関数の操作方法について予習しておく。 | | | | 13 | [テーマ] ピボットテーブルの利用② [内容]ピボットテーブルを実際に使用し、クロス集計やその分析方法・出力結果の読み方等について検討する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) クロス集計の意義と実際の利用についてまとめておくこと | | | | |
| 6 | [テーマ] 関数による算出数値と記述統計① [内容]Excelにあらかじめ組み込まれている基本的な記述統計値の性質や利用方法を解説する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) Excel関数の操作方法に習熟するため、身近なデータをもとに関数操作を復習する。 | | | | 14 | [テーマ] 「分析ツール」の使用方法① [内容]「分析ツール」を利用して度数分布表を作成する方法を解説する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) 基本的な統計量に関して予習しておく。 | | | | |
| 7 | [テーマ] 関数の操作② [内容]二次的な関数についての考え方とExcelにあらかじめ組み込まれている基本的な関数の使用方法を解説する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) Excel関数の操作方法について予習しておく。 | | | | 15 | [テーマ] 「分析ツール」の使用方法② [内容]「分析ツール」を利用して記述統計量を算出したり、シミュレーションを行なう方法を解説する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) 前回の授業で得た知識や技能を整理するとともに、記述統計に関してまとめておく | | | | |
| 8 | [テーマ] 関数による算出数値と記述統計② [内容]Excelにあらかじめ組み込まれている2次元的記述統計値(相関・相関係数)の特徴や性質、利用方法を解説する。 担当 (粟木) [授業外学習](120分) Excel関数の操作方法に習熟するため、身近なデータをもとに関数操作を復習する。 | | | | 16 | [試験または課題] [方法] 状況により、最終課題として対面試験またはレポート課題を行う。 | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| <p>正確かつ迅速にデータの処理が可能か、また処理結果の解釈は妥当かどうかという観点から評価する。</p> | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | ◎ | | ◎ | 40 | 積み重ね的内容が多いので、なるべく欠席しないこと。また、欠席した場合には内容を問い合わせ、自学して補うこと。 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 習熟度別クラス編成を行うことがある。 試験、小テスト等の回答は原則として実施回の次に解説・論評を加える。 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | ○ | ○ | ○ | 40 | | | | | |
| 授業外レポート | | | ◎ | ○ | 10 | | | | | |
| ポートフォリオ | | ○ | | ◎ | 10 | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | 参考書・参考資料等 | 特に指定しない | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 粟木:E棟2F(2z-awaki@sendai-u.ac.jp)／荒井:A棟3F309(tt-arai@sendai-u.ac.jp) | | | | | オフィスアワー | 粟木:前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限 荒井:前期・月曜日4時限、後期・水曜日2時限 | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|---|---------|--|-------------------------------------|-----|---|------|------|
| 授業科目名 | キャリアマネジメント演習 | | | | 担当教員 | 奥田寛司 | | | | |
| | Carrier Management (S.) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | キャリア |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツ・健康関連分野に求められる高度な職能開発のための有効な理念・目的を明確化し、目的・目標設定の仕方、長期的および短期的な学修・生活設計の仕方、そのための実践的な理論や方法について教授研究する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツ・健康関連分野を担う高度な職能開発のための有効な施策に関する理論や方法について理解する。そのうえで、各自のキャリア目標等を設定し、生涯にわたるキャリアデザインを設計することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 自らに必要な社会人基礎力と自・他に目を向けたキャリアマネジメント方法について解説することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | キャリアにかかわる社会動向、公の施策、自らの人生設計に関心に向け、職能開発に取り組もうとする意欲を高める。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 社会的自己実現に向けた目的・目標を設定することができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| キャリアにかかわる主要概念と現状を整理し、また各界で活躍している職業人を考察し、社会人基礎力についての理解を深めながら、今後の人生を設計し、それを規定のシートにまとめて提出する。さらに、社会的自己実現につながる職能開発に向けた理論と方法について、高等教育の最前線で用いられている教育手法を実際に体験することにより更なる理解を深める。それらの総括として、規定のシートに、目的を反映させた目標を設定し、その達成に向けた下位目標・取り組みをまとめて提出する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ]導入(キャリアマネジメントに関する基礎理論) [内容]キャリアマネジメントに関する基礎理論について、興味・価値観、能力という観点から理解する。 [授業外学習](0分) | 9 | [テーマ]自己分析・適職発見② [内容]自己分析・適職発見診断テストの結果を読み、自らのキャリアマネジメントに向けて考える。 [授業外学習](0分) | | | | | | | |
| 2 | [テーマ]スポーツ健康関連分野で求められる能力とは [内容]スポーツ健康関連分野で働かれている人たちの仕事をケース事例として、その中で求められる能力を考察する。 [授業外学習](0分) | 10 | [テーマ]能力開発の振り返り [内容]7で作成した行動計画の実施状況や自己の能力を振り返り、この間の能力変化を理解する。 [授業外学習](0分) | | | | | | | |
| 3 | [テーマ]能力の伸ばし方を考える① [内容]2で把握したスポーツ健康関連分野で求められる能力(特に、社会人基礎力)の伸ばし方を理解するため、グループワークを行う。 [授業外学習](0分) | 11 | [テーマ]能力開発の再計画 [内容]10の振り返りを踏まえ、7で作成した行動計画を修正し、再度目標設定・行動計画作成を行う。 [授業外学習](720分) 自己の能力開発に向けて立てた行動計画を毎週振り返り、翌週に向けた対策を考え、実践する。 | | | | | | | |
| 4 | [テーマ]能力の伸ばし方を考える② [内容]2で把握したスポーツ健康関連分野で求められる能力(特に、社会人基礎力)の伸ばし方を理解するため、グループワークを行う。 [授業外学習](180分) スポーツ健康関連分野で求められる能力を伸ばす授業を考えるため、情報収集と企画立案を行う。 | 12 | [テーマ]成果発表会① [内容]11で作成した行動計画を踏まえ、11以来頑張ってきたことや自らの成長ぶりについて、プレゼンテーションを行う。 [授業外学習](240分) 11以来頑張ってきたことや自らの成長ぶりについて、まとめたプレゼンテーション資料を作成し、発表準備を行う。 | | | | | | | |
| 5 | [テーマ]能力の伸ばし方を考える③ [内容]3、4で行ったグループワークの結果をまとめ、グループ毎にプレゼンテーションを行う。 [授業外学習](0分) | 13 | [テーマ]成果発表会② [内容]11で作成した行動計画を踏まえ、11以来頑張ってきたことや自らの成長ぶりについて、プレゼンテーションを行う。 [授業外学習](0分) | | | | | | | |
| 6 | [テーマ]能力の育成方法を知る [内容]他者の能力(社会人基礎力)を育成する方法(教育手法)を理解する。 [授業外学習](0分) | 14 | [テーマ]成果発表会 [内容]成果発表会③ [授業外学習](0分) | | | | | | | |
| 7 | [テーマ]能力の開発方法を知る [内容]自己の能力(社会人基礎力)を開発する方法として、目標設定・行動計画作成を実践し、理解する。 [授業外学習](240分) 自己の能力開発に向けて立てた行動計画を毎週振り返り、翌週に向けた対策を考え、実践する。 | 15 | [テーマ]成果発表会④ [内容]内容11で作成した行動計画を踏まえ、11以来頑張ってきたことや自らの成長ぶりについて、プレゼンテーションを行う。また、講師から全体講評の後、今後の自らのキャリアマネジメント計画を作成する。 [授業外学習](0分) | | | | | | | |
| 8 | [テーマ]自己分析・適職発見① [内容]自らのキャリアマネジメントに向けて、自己分析・適職発見診断テストを受検する。 [授業外学習](0分) | 16 | [試験または課題] [方法] | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 個人課題(授業内及び授業外)、グループ課題、成果発表で70点、授業中の各種ワークへの参加態度で30点、合計100点満点。 ※各課題については、記述内容(質)と記述文字数(量)を評価。グループ課題については、発表内容と協働状況(質)を評価 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | 注意事項 ①4回以上の欠席者には、単位を与えない。 ②全ての課題を提出していない者には、単位を与えない。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | ○ | ◎ | 50 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 20 | | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | 授業外レポートとして、自己の成長に向けた活動の成果報告を行った後、講師より各自に口頭で講評をフィードバックする。 | | | | | |
| その他 | ○ | ◎ | ○ | 30 | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | 参考書・参考資料等 | 経済産業省「今日から始める 社会人基礎力の育成と評価」(角川学芸出版) | | | | |
| 教科書 | 自己分析・適職発見プログラム「R-CAP」 | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 森本A棟4F | | | | オフィスアワー | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---------|----------|--|---|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 国際スポーツ概論 | | | | 担当教員 | 馬佳謙/金賢植 | | | | |
| | Introduction to International Sports | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツは国際的な地位の向上、国際相互理解の増進、社会的・文化的・経済的な役割を果たす。この講義では、スポーツを通じた国民の心身の健全な発達とともに、国際的競技力の向上の事を再確認しつつ、国際社会の中でこれまでに果たしてきたスポーツの役割を科学的に学び、今後のスポーツの可能性を考えていく。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 人文科学から自然科学まで、アジア諸国中心として国際社会におけるスポーツの事を知り、スポーツ・健康科学を学ぶことができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 国際的な視点からスポーツを考えることができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | グローバル社会への関心を持つようになる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | スポーツ・健康に対する地政学的理解を深めることができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 授業テーマに沿って基本概要を説明し、学習内容をめぐって議論する。海外の研究動向を把握したうえ、各自研究内容の立案や発表を行う。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ]オリエンテーション [内容]授業の目標と進め方、シラバス説明、授業紹介 | | | | 9 | [テーマ]国際生涯スポーツ事情① [内容]国際的ヘルスプロモーション戦略について概説する。 | | | | |
| 担当 (馬) | [授業外学修] (120) シラバスを熟読し、授業内容を把握する。 | | | | 担当 (馬) | [授業外学修] (120) 国際的ヘルスプロモーション戦略についてまとめる。 | | | | |
| 2 | [テーマ]なぜスポーツを学ぶのか [内容]スポーツは世界共通の文化の一つであることを理解し、現代社会におけるスポーツの意義と効果を考える。 | | | | 10 | [テーマ]国際生涯スポーツ事情② [内容]諸外国の健康増進の取り組み事例を紹介する。 | | | | |
| 担当 (金) | [授業外学修] (120) スポーツの社会的・文化的意味について復習する。 | | | | 担当 (馬) | [授業外学修] (120) 各国の健康増進の取り組み事例をまとめる。 | | | | |
| 3 | [テーマ]スポーツ文化 [内容]アジアの伝統・国技スポーツ種目の特徴から、文化の違いによるスポーツに対する捉え方の違いについて概説する。 | | | | 11 | [テーマ]地域スポーツクラブ [内容]日本の新しい公共施設としてスポーツ環境づくりを理解する。 | | | | |
| 担当 (馬) | [授業外学修] (120) アジアの伝統・国際スポーツ種目についてまとめる。 | | | | 担当 (金) | [授業外学修] (120) 日本の地域スポーツクラブについて復習する。 | | | | |
| 4 | [テーマ]オリンピックとスポーツ [内容]オリンピックとスポーツの歴史的背景や現在の取り巻く環境を理解し、スポーツビジネスとしてのオリンピックを考える。 | | | | 12 | [テーマ]スポーツと武道 [内容]武道がスポーツとしてどう発展していったのかについて解説する。またオリンピック正式種目となったテコンドー、空手、柔道のオリンピック種目の事例を知る。 | | | | |
| 担当 (金) | [授業外学修] (120) スポーツビジネスとしてのオリンピックについて復習する。 | | | | 担当 (金) | [授業外学修] (120) オリンピック正式種目となった武道について復習する。 | | | | |
| 5 | [テーマ]スポーツナショナリズム [内容]スポーツとナショナリズムを問うことについて解説し、人種主義やジェンダー、セクシュアリティ、貧困などの現代的諸課題を知る。 | | | | 13 | [テーマ]高齢者の健康科学 [内容]高齢者の健康増進分野における欧米、アジアの研究動向を知る。 | | | | |
| 担当 (金) | [授業外学修] (120) スポーツナショナリズムについて復習する。 | | | | 担当 (馬) | [授業外学修] (120) 高齢者の健康増進分野のトピックスを調べる。 | | | | |
| 6 | [テーマ]国際競技スポーツ事情① [内容]中国および日本の競技力の向上戦略を概観し、スポーツ選手育成システムの違いを説明する。 | | | | 14 | [テーマ]成人の健康科学 [内容]成人の健康増進分野における欧米、アジアの研究動向を知る。 | | | | |
| 担当 (馬) | [授業外学修] (120) 各国のプロスポーツ事情について調べる。 | | | | 担当 (馬) | [授業外学修] (120) 成人の健康増進分野のトピックスを調べる。 | | | | |
| 7 | [テーマ]国際競技スポーツ事情② [内容]プロスポーツとスポーツ産業について概説する。 | | | | 15 | [テーマ]子どもの健康科学 [内容]子どもの体力低下、メディア視聴時間の急増に伴う欧米、アジアの研究動向を知る。また、子どものスポーツ環境について理解する。 | | | | |
| 担当 (馬) | [授業外学修] (120) 各国のプロスポーツについてまとめる。 | | | | 担当 (金) | [授業外学修] (120) 子どもの健康増進分野のトピックスを調べる。 | | | | |
| 8 | [テーマ]国際スポーツとメディア [内容]メガスポートとプロスポーツとメディアの緊密な関係について理解し、問題点を開設する。 | | | | 16 | [試験または課題]レポート課題を提出する。 [方法]担当教員からの指示に従う。 | | | | |
| 担当 (金) | [授業外学修] (120) プロスポーツとメディアの問題点について復習する。 | | | | 担当 (金) | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 授業内討論、発表内容、授業内・授業外の課題内容を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 成績評価方法 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合 (%) | ・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することができない。 ・受講者等により授業計画には変更する場合がある。 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 レポート・発表内容について、事後フィードバックおよび授業時に解説・評価を行う。 | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ○ | ◎ | 50 | | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 50 | | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | 参考書・参考資料等 | 特に指定しない | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 馬研究室：第5体育館F2 (jm-ma@sendai-u.ac.jp) 金研究室：LC棟F2 (hs-kim@sendai-u.ac.jp) | | | | オフィスアワー | 馬：火曜日10:20～11:50 金：水曜日14:20～16:00 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---------|---------|---|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 統計・データ解析の実践 | | | | 担当教員 | 荒井龍弥/栗木一博 | | | | |
| | Practical Use of Statistical Analysis | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 調査・実験等を通じ得られた情報は、その特徴に応じた適当な統計的処理を通じ結果の解釈がなされる。本講では基礎となる統計的理論と実際の研究に即した統計解析の紹介・検討を行う。このことにより、受講者の統計処理に対する理解の深化をはかり、各自の研究での適切な統計処理の使用を目指す。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 各種のデータに対し、データの得失に応じた統計処理を行うことができる。また、文献中の統計情報を理解し、わかりやすく表現することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 統計処理の考えかたや計算方法をふまえ、文献中の統計情報を理解することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 統計アプリケーションの操作や結果の読み取りに抵抗なく取り組むことができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 統計アプリケーションを用いて、各種統計処理を行うことができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 代表的な推測統計法である検定や有意確率の算出法について学ぶ。また、統計アプリケーション(SPSSやR)を用いたデータ処理の方法をもちい、統計値の算出やその解釈、検定上の留意点等について検討する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容]担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習] (120分) シラバスを熟読しておく。 | | | | 9 | [テーマ] 因子分析 [内容]SPSSによる因子分析の方法とその考えかた、結果出力の見かた等について解説する。 [授業外学習] (120分) 因子抽出や回転方法など、さまざまなバリエーションでの結果を検討してみる | | | | |
| 2 | [テーマ] 母集団と標本 [内容] 推測統計学の基本的な枠組み、母集団と標本の関係について解説するとともに、サンプリングの技法について学ぶ。 [授業外学習] (120分) 実証研究にあたり、母集団と標本、サンプリング方法を検討してみる | | | | 10 | [テーマ] クロス集計とカイニ乗分析 [内容]SPSSによるクロス集計方法と検定の考えかた、残差や結果の出力の見かた等について解説する。 [授業外学習] (120分) 別のデータでクロス集計を行い、結果を検討してみる | | | | |
| 3 | [テーマ] 検定とは [内容] 検定の考えかたと流れについて、正規検定を代表として用いて説明する。 [授業外学習] (120分) 検定の流れ(帰無仮説・有意確率・2種のエラー等)について復習すること | | | | 11 | [テーマ] HADによる分析① [内容] EXCELのマクロウェア「HAD」の利用方法と、HADを用いたt検定や一元配置の分散分析を行ってみる。 [授業外学習] (120分) HADを自分のPCでも利活用可能なようにセットアップしておく | | | | |
| 4 | [テーマ] 統計処理アプリケーションSPSSの操作① [内容] 推測統計学の基本的な枠組み、母集団と標本の関係について紹介するとともに、基本的操作(データ操作・記述統計結果出力の見かた等)を学ぶ [授業外学習] (120分) SPSSのデータ定義について復習すること | | | | 12 | [テーマ] HADによる分析② [内容] 多元配置や繰り返しのある分散分析について、HADを用いて検討してみる。 [授業外学習] (120分) さまざまな分散分析モデルを試行してみる | | | | |
| 5 | [テーマ] 平均の差の検定① [内容] SPSSによるt検定の方法、結果の出力の見かた等について解説する。 [授業外学習] (120分) t検定の基本的考えかたと結果の見かたについて復習すること | | | | 13 | [テーマ] HADによる分析③ [内容] 単回帰や重回帰分析をHADを用いて行ってみる。 [授業外学習] (120分) SPSSでの結果と比較してみる | | | | |
| 6 | [テーマ] 平均の差の検定② [内容] SPSSによる分散分析(一次元)の方法、結果の出力の見かた等について解説する。 [授業外学習] (120分) 分散分析の考えかたと結果の見かたについて復習すること | | | | 14 | [テーマ] HADによる分析④ [内容] 因子分析やクラスター分析についてHADを用いて行ってみる。 [授業外学習] (120分) SPSSでの結果と比較してみる | | | | |
| 7 | [テーマ] 平均の差の検定③ [内容] SPSSによる分散分析(多次元)の方法、結果の出力の見かた等について解説する。 [授業外学習] (120分) 文献等でさまざまな実験計画と分散分析の関係について検討してみる | | | | 15 | [テーマ] HADによる分析⑤・まとめ [内容] クロス集計やカイニ乗検定をHADを用いてやってみる。また、データの特徴に応じた統計処理の方法やその誤用例について解説する。 [授業外学習] (120分) 自らのデータにふさわしいデータ処理の方法について考えてみる | | | | |
| 8 | [テーマ] 回帰分析(線形) [内容] SPSSによる単回帰・重回帰分析の方法と考え方、結果の出力の見かた等について解説する。 [授業外学習] (120分) 別のデータで回帰分析を行い、結果を検討してみる | | | | 16 | [試験または課題] [方法] 状況により、最終課題として対面試験またはレポート課題を行う。 | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 正確かつ迅速にデータの処理が可能か、また処理結果の解釈は妥当かどうかという観点から評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | ◎ | | ◎ | 40 | 積み重ねの内容が多いので、なるべく欠席しないこと。また、欠席した場合には内容を問い合わせ、自学で補うこと。 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 試験、小テスト等の回答は原則として実施回の次に解説・論評を加える。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 40 | | | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ○ | 10 | | | | | | |
| ポートフォリオ | ○ | | ◎ | 10 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | 参考書・参考資料等 | 特に指定しない | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 栗木: E棟2F(kz-awaki@sendai-u.ac.jp) / 荒井: A棟3F309(tt-arai@sendai-u.ac.jp) | | | | オフィスアワー | 栗木: 前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限 荒井: 前期・月曜日4時限、後期・水曜日2時限 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---|---|--|---------|---|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 保健体育科教育学特講 | | | | 担当教員 | 小浜明/郡山孝幸/入澤裕樹/川戸湧也 | | | | |
| | 英語表記 | Pedagogy of Health and Physical Education | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 1)保健科教育および体育科教育の研究領域で議論されている課題について解説する。2)保健授業の診断、処方、方策について検討する。3)体育授業の授業づくりの考え方、進め方について検討する。4)すぐれた保健授業実践および体育授業実践を観察し、授業分析の方法を理解する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| すぐれた保健授業および体育授業の授業づくりの考え方と進め方について、主に講義を通して理論的に理解できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 保健科および体育科の授業づくりの方法と研究方法が分かる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 保健科および体育科の授業づくりのおもしろさを感じ、意欲が高まる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 他の受講生と保健科および体育科の授業改善について議論することができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 教室での講義形式の授業、体育館や運動場での模擬授業、教育現場での授業観察、以上の3点を組み合わせながら進めることを基本とする。ただし、本授業は特講の位置づけであることから講義形式の授業の割合が多くなる。なお、以下の授業計画の展開過程で順番を変更したり追加する場合がある。詳細については初回ガイダンス時に説明する。(なお、感染症の流行などの状況によってはオンラインやオンデマンドで実施することもある。) | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] 授業を進める上でのガイダンス [内容]授業テーマ、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、教科書・参考書、準備物などについてガイダンスを行う。 | 9 | [テーマ]保健科学習指導要領について [内容]保健科学習指導要領のポイントについて解説する。 | | | | | | | |
| 担当(全員) | [授業外学修](240分)事前に授業に必要な準備物や資料を揃える。授業のテーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行う。 | 担当(小浜) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 2 | [テーマ] 体育科学習指導要領について① [内容]体育科学習指導要領のプロセスについて解説する。テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | 10 | [テーマ]保健授業の成立するとはにか [内容]保健授業検討の視点と方法 | | | | | | | |
| 担当(郡山) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | 担当(小浜) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] 体育科学習指導要領について② [内容]体育科学習指導要領の改訂のポイントについて解説する。 | 11 | [テーマ]保健授業の研究 [内容]これまでの保健授業研究の検討 | | | | | | | |
| 担当(郡山) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | 担当(小浜) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 新学習指導要領と体育授業① [内容]「ボール運動・球技領域」の授業づくりのポイントについて解説する。 | 12 | [テーマ]保健授業づくりの構想① [内容]授業に対する信念と問題意識 | | | | | | | |
| 担当(郡山) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | 担当(小浜) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 新学習指導要領と体育授業② [内容]個人スポーツ領域(陸上運動・競技、器械運動、水泳など)の授業づくりのポイントについて解説する。 | 13 | [テーマ]保健授業づくりの構想② [内容]指導計画(指導案)を書く意味 | | | | | | | |
| 担当(川戸) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | 担当(入澤) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] 新学習指導要領と体育授業③ [内容]「体づくり運動、武道及びダンス」の授業づくりのポイントについて解説する。 | 14 | [テーマ]保健授業の分析方法① [内容]保健授業の分析方法、活用方法などについて具体例を紹介して解説する。 | | | | | | | |
| 担当(川戸) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | 担当(入澤) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] 体育授業の分析方法① [内容]体育授業の分析方法、活用方法などについて具体例を紹介して解説する。 | 15 | [テーマ]保健授業の分析方法② [内容]保健授業の分析方法の幾つかを実際の模擬授業を通して実践する。 | | | | | | | |
| 担当(川戸) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | 担当(入澤) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] 体育授業の分析方法② [内容]体育授業の分析方法の幾つかを実際の模擬授業を通して実践する。 | 16 | [試験または課題] [方法]レポート作成およびレポート提出 | | | | | | | |
| 担当(川戸) | [授業外学修](240分)テーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行い授業への理解を深めるようにする。 | 担当(全員) | | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 講義でのテーマに関する質疑応答、提出した課題、模擬授業や授業分析への取り組み等を総合的に判断して評価をする。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | 授業の参加者としてではなく、授業創出者の一人としての意識で受講することを望む。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | ○ | 60 | レポート内容について、適切な内容例を解説する。 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | | | | | |
| その他 | ○ | ○ | ○ | 20 | | | | | | |
| 関連科目 | 保健体育科教育学演習 | | | | 参考書・参考資料等 | 中学校学習指導要領解説・保健体育編、高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて授業内で指示 | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 郡山:G棟2階/小浜、入澤:A棟3階/川戸:第2体育館2階 | | | | オフィスアワー | 郡山:前火3・後火2、小浜:前後火4、入澤:前木3・後木4、川戸:前後水2 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|--|---------|-----------------------------------|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 教育・学校ガバナンス論特講 | | | | 担当教員 | 頼昇延/松本文弘/白幡真紀/三谷高史/金井里弥 | | | | |
| | Governance of Education and School | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 教育は教育を受ける人の成長を目指して行われる。例えば学校では教員は生徒の成長発達を願い、さまざまな教育活動を行う。このために教員と生徒の関係性の構築および発展は欠かせない。しかしながら当事者のみならず、関係性に影響する要因群は多数存在する。本講ではこれらの要因群のうち、例えば教育および学校に関わる政策的側面、国際的側面、社会的側面や持続可能な環境の教育といった事項などについて検討し、理解を深めようとするものである。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 学校において行われる教育・指導に関する最新の考え方を論述できる。また、我が国の学校教育の特徴ならびに学校と社会のとかかわりを説明できる。さらに、学校における持続可能性について考えを述べることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 学校教育を支え、動かす諸要因、学校における地域の役割、世界各地の教育動向等を理解できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 児童生徒との関係性を左右する諸条件を踏まえ、指導場面に創意工夫して計画することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 用語の検索、整理を行いながら教育に関わる専門的概念を使用し、かつ表現できる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 授業は、担当者別に教育時事、教育行政(松本・頼)、教育と社会(白幡)、環境教育(三谷)、教育と宗教(金井)を主たるテーマとし、講義およびディスカッションを行う。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | <p>[テーマ] オリエンテーション</p> <p>[内容]担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法</p> <p>[授業外学修](240分) シラバスを熟読し、スムーズに授業を受けらるよう必要は準備をしておく。</p> | 9 | <p>[テーマ] 新自由主義下の教育改革</p> <p>[内容]主に1980年代から先進国で起こった新自由主義的改革の課程とその結果について概観し、これらの改革が学校教育に与える影響を「包摂」と「排除」の文脈から考察する。</p> <p>[授業外学修](240分) 事前に新公共管理(NPM)、アカウントビリティなど指定する重要用語について調べておくこと。</p> | | | | | | | |
| 2 | <p>[テーマ] 学校教育を考える(1)</p> <p>[内容]社会的背景を踏まえながら、2000年前後に提起された「生きる力」、「総合的な学習の時間」などの教育改革について概説するとともに、現代における教育課題とその解決策について考察する。</p> <p>[授業外学修](240分) 自分の「気になる教育問題」を取り上げて調べてみる。</p> | 10 | <p>[テーマ] 学校運営のステークホルダー(1)</p> <p>[内容] 学校は、学校だけで存立するものではない。学校設置者、教員、生徒・保護者、地域の4者が、学校運営にどのように関わっているか理解し、考察する。</p> <p>[授業外学修](240分) 学校に関係する各者の学校運営に関する要望について調べ、発表する。</p> | | | | | | | |
| 3 | <p>[テーマ] 学校教育を考える(2)</p> <p>[内容] 「いい先生」とは？教員はどう評価すべきか？教員に求められる資質能力を考えながら、日本の教員評価制度を概観し、学校の教育力に鍵を握っている教員の資質向上と人事管理のあり方について検討する。</p> <p>[授業外学修](240分) 「いい先生」の要件、それらを評価できる方法について自分の考えをまとめておくこと。</p> | 11 | <p>[テーマ] 学校運営のステークホルダー(2)</p> <p>[内容] 学校設置者、教員、生徒・保護者、地域の4者が、学校運営に関してどのような要望を持っているか、様々な意見を参考にしながら考察を深める。</p> <p>[授業外学修](240分) 学校に関係する各者が、どのような学校運営を望んでいるか調べ、発表する。</p> | | | | | | | |
| 4 | <p>[テーマ] 比較教育(1) 公教育における宗教教育</p> <p>[内容] 日本および諸外国の公教育における宗教教育を概観し、その特徴について考える。</p> <p>[授業外学修](240分) 自分自身が受けた学校教育において宗教がどのように教えられてきたかを振り返る。</p> | 12 | <p>[テーマ] 学校運営のステークホルダー(3)</p> <p>[内容] 学校設置者、教員、生徒・保護者、地域の4者が、どのように関係すればより良い学校運営が可能となるか、様々な意見を参考にしながら考察を深める。</p> <p>[授業外学修](240分) 理想的な学校運営について自分の意見をまとめ、発表する。</p> | | | | | | | |
| 5 | <p>[テーマ] 比較教育(2) 諸外国における市民性教育としての宗教教育</p> <p>[内容] 市民性教育としての宗教教育が諸外国においてどのように展開されているのかを理解する。</p> <p>[授業外学修](240分) 特にシンガポールの歴史、教育制度を調べる。</p> | 13 | <p>[テーマ] 地域教育計画論(1)「地域教育計画とは何か」</p> <p>[内容] 終戦直後のいくつかの地域で策定・実践された「地域教育計画」の背景・理論について学習する。</p> <p>[授業外学修](240分)自分の住んでいる/住んでいた地域で、学校と地域との連携がどのようなかたちで実施されているか調べ、まとめる。</p> | | | | | | | |
| 6 | <p>[テーマ] 比較教育(3) 多宗教社会における学校教育の役割</p> <p>[内容] これまでの学習内容を総括し、それらを踏まえた上で日本の多宗教社会において学校教育が果たし得る役割を考える。</p> <p>[授業外学修](240分) 事前に日本人の宗教性や、日本史における政治と宗教の関わりを整理しておく。</p> | 14 | <p>[テーマ] 地域教育計画論(2)「地域教育計画の実際」</p> <p>[内容] 「川口プラン」「本郷プラン」「西多摩プラン」といった戦後改革期の地域教育計画の実際について学習する。</p> <p>[授業外学修](240分) 前回授業で配布された予習用の資料に目を通し、自分の考えを整理する。</p> | | | | | | | |
| 7 | <p>[テーマ] 学校に行けない子どもたちへのオルタナティブな学習支援システム</p> <p>[内容] オルタナティブ・スクールやフリースクールの史的展開の国際比較およびその運営の仕組みについて検討する。また、不登校をめぐる支援の実態や問題点について検討する。</p> <p>[授業外学修](240分) 地域社会の不登校支援と学校の対応について調べる。</p> | 15 | <p>[テーマ] 地域教育計画論(3)「地域教育計画のこれから」</p> <p>[内容] 宮城県内の震災復興のプロセスでみられた(復興教育)の実践を素材に、今後の「地域教育計画論」について考える。</p> <p>[授業外学修](240分) 前回授業で配布された予習用の資料に目を通し、自分の考えを整理する。</p> | | | | | | | |
| 8 | <p>[テーマ]学校と労働・社会との関係</p> <p>[内容]労働と学歴の関係、キャリア教育の意義と歴史的展開を学び、働くことと学ぶことの接続システムにおける問題点やその対応策を検討する。</p> <p>[授業外学修](240分) これまで自分に掛かった教育費総額について調べてみる。</p> | 16 | <p>[試験または課題] レポート課題を提出すること</p> <p>[方法] 各担当者からの指示に従うこと。</p> | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 授業中のディスカッションやレポート課題を通じ各テーマについて自らの考えを明確に示せるかを評価する。レポートの事後返却等により履修者にフィードバックする。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | 0 | 集中で行うので、全日程に出席することを基本とする。日程調整のこと。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 90 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | | | | 0 | レポート等を返すことを通してでフィードバックする。 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | 0 | | | | | | |
| その他 | ○ | ○ | ○ | 10 | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | 参考書・参考資料等 | 各講義担当者から適宜紹介する。 | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 頼 yt-lai@sendai-u.ac.jp | | | | オフィスアワー | 頼:木曜日12時00分～13時00分 ※ほかの時間帯も相談により可能、事前にアポイントメントを取ることがお勧め。 | | | | |

| 授業科目名 | 保健体育科教育学演習 | | | | 担当教員 | 小浜明/郡山孝幸/井上雅勝/入澤裕樹/川戸湧也 | | | | |
|--|---|--|---|---------|--|--|-----|---|------|---|
| | 英語表記 | Seminar of Pedagogy of Health and Physical Education | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 1) 保健授業実践および体育授業実践を観察し、授業分析の方法を身に付ける。2) 保健および体育の授業づくりの考え方、進め方を身に付ける。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| すぐれた保健授業および体育授業の授業づくりの考え方と進め方について、主に模擬授業と授業観察を通して実践的に理解できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 保健科教育および体育科教育の課題と授業づくりの方法、研究の進め方がわかる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 自主的に課題を進めることができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 他の受講生と保健科および体育科の授業改善について議論し、合意形成を図ることができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 教室での講義形式の授業、体育館や運動場での模擬授業、教育現場での授業観察、以上の3点を組み合わせながら進めることを基本とする。ただし、本授業は演習の位置づけであることから模擬授業および授業観察の割合が多くなる。なお、以下の授業計画の展開過程で順番を変更したり追加する場合がある。詳細については初回ガイダンス時に説明する。(なお、感染症の流行などの状況によってはオンラインやオンデマンドで実施することもある。) | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] 授業を進める上でのガイダンス [内容] 授業テーマ、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、教科書・参考書、準備物などについてガイダンスを行う。 | 9 | [テーマ] 体育授業の観察・分析③ [内容] 中学校・高等学校の教育現場で行われている授業を対象に体育授業の分析方法を用いて分析を行う。 | | | | | | | |
| 担当(全員) | [授業外学修] (240分) 事前に授業に必要な準備物や資料を揃える。授業のテーマに関する資料等の検索や先行文献の調査を行う。 | 担当(川戸) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 2 | [テーマ] 体育授業づくり① [内容] 「ボール運動・球技領域」の指導案、教材を作成する。 | 10 | [テーマ] 保健と体育の関連 [内容] 保健と体育の関連について議論して検討する。 | | | | | | | |
| 担当(郡山) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | 担当(川戸) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] 体育授業づくり② [内容] 個人スポーツ領域(陸上運動・競技、器械運動、水泳など)の指導案、教材を作成する。 | 11 | [テーマ] 保健授業の観察・分析① [内容] 保健授業の映像を見ながら授業の分析方法を用いて分析を行う。 | | | | | | | |
| 担当(郡山) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | 担当(小浜) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 体育の模擬授業の実践① [内容] 「ボール運動・球技領域」に関する模擬授業を実践する。 | 12 | [テーマ] 保健授業の観察・分析② [内容] 保健の模擬授業を対象に授業の分析方法を用いて分析を行う。 | | | | | | | |
| 担当(郡山) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | 担当(小浜) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 体育の模擬授業の実践② [内容] 個人スポーツ領域(陸上運動・競技、器械運動、水泳など)に関する模擬授業を実践する。 | 13 | [テーマ] 保健授業の観察・分析③ [内容] 中学校・高等学校の教育現場で行われている授業を対象に保健授業の分析方法を用いて分析を行う。 | | | | | | | |
| 担当(井上) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | 担当(小浜) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] 体育授業の分析方法 [内容] 体育の授業分析に関する先行研究を収集し、内容について議論・検討する。 | 14 | [テーマ] 保健授業づくり [内容] 保健の授業の指導案、教材を作成する。 | | | | | | | |
| 担当(井上) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | 担当(入澤) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] 体育授業の観察・分析① [内容] 体育授業の映像を見ながら授業の分析方法を用いて分析を行う。 | 15 | [テーマ] 保健の模擬授業の実践 [内容] 保健に関する模擬授業を実践する。 | | | | | | | |
| 担当(井上) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | 担当(入澤) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] 体育授業の観察・分析② [内容] 体育の模擬授業を対象に授業の分析方法を用いて分析を行う。 | 16 | [試験または課題] [方法] レポート作成およびレポート提出 | | | | | | | |
| 担当(川戸) | [授業外学修] (240分) テーマに関する資料等の検索や先行研究の調査を行い、授業への理解を深めるようにする。 | 担当(全員) | | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 模擬授業や授業分析への取り組み、作成した教材、提出した課題等を総合的に判断して評価をする。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | これからの保健科および体育科の授業のあり方を自ら創造していくという立場から、常に問題意識を強く持ちながら積極的に参加することを望む。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20 | | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ◎ | 60 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | レポート発表や模擬授業の振り返りの検討会等で適時フィードバックする。 | | | | | |
| その他 | ○ | ○ | ○ | 20 | | | | | | |
| 関連科目 | 保健体育科教育学特講 | | | | 参考書・参考資料等 | 中学校学習指導要領解説・保健体育編、高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて授業内で指示 | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 郡山: 井上: LC棟2階、小浜、入澤: A棟3階、川戸: 第2体育館2階 | | | | オフィスアワー | 郡山: 前火3・後火2、井上: 前後水2、小浜: 前後火4、入澤: 前木3・後木4、川戸: 前後水2 | | | | |

| 授業科目名 | 部活動指導論特論 | | | | | 担当教員 | 井上雅勝/末永精悦/荒井龍弥 | | | |
|--|---|--|---|------------|---|--|--|---|------|---|
| | 英語表記 | Special lecture of club activities in school | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 今日の学校教育において大きな役割を果たしている部活動について、その意義や役割を理解するとともに、部活動を取り巻く諸課題の改善策や、よりよい部活動の運営や指導に活用できる実践的な取り組み方等について解説していく。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 部活動についての意義や役割を理解し、これから必要とされる部活動の在り方を考えることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 部活動の役割や意義を理解するとともに、課題等を認識し解決策を検討できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 部活動の課題解決に積極的に取り組むことができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 現状の部活動と求められる部活動の違いを意識し改善策などについて議論することができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 部活動に関する内容を解説し、それに基づき討論などを行ない理解を深める。主体的な学習スタイルで授業を進めていくので、自ら問題等を見だし課題解決に努めなければならない。なお、以下の授業計画により展開していくが、場合により展開過程を変更したり追加もありうる。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要、進め方、担当教員紹介、成績評価方法等の説明 部活動が現在どのように認識されているか全体像を紹介するとともに、これまで各自が経験してきた部活動の実態について論じる。 | 9 | [テーマ] 中学校における部活動指導4 [内容] テーマ5～7の解説を踏まえて、部活動の将来像について展望する。 | 担当 (未永) | [授業外学修] (240分) 学校経営を念頭におき、組織としての部活動の在り方を具体的に考えてみる。 | | | | | |
| 2 | [テーマ] 部活動とは何か [内容] 部活動とは中学校や高校の教科外活動で行なわれるスポーツ・芸術文化活動をさしている。したがって、部活動の現状を踏まえて、学校現場ではどのような実態で実施されているのかを解説し、現状について様々な視点から論じる。 | 10 | [テーマ] 中学校における部活動指導5 [内容] 社会は部活動についてどのように考え、どのような思いを持っているのかを新聞記事等を参考に考察する。 | 担当 (未永) | [授業外学修] (240分) 関連する記事・書籍等を精読し、部活動に対する見識を深める。 | | | | | |
| 3 | [テーマ] 部活動の位置付けと役割 [内容] 学習指導要領などにおける部活動の位置付けや役割の変遷について把握し、現在の課題などを考察していく。 | 11 | [テーマ] 部活動に対する教員の関わり [内容] 部活動に対しては、教員によりさまざまな関わり方があることをまとめ、それぞれの関わり方の長短について考える。 | 担当 (荒井) | [授業外学修] (240分) 自分が教員だった場合の関わりと、それ以外の関わり方をして他の教員へのアドバイスを考える。 | | | | | |
| 4 | [テーマ] 部活動における現在の問題点1(教員側から) [内容] 部活動は学校教育の一環として、中高生の生活や将来の社会にとっても、様々な意義や役割が認められている。しかし「教員の多忙化」などと批判されているように課題もある。そこで、教員側からは、どのような問題があるのかを検討していく。 | 12 | [テーマ] 部活動がもたらす生徒への心理的効果 [内容] 部活動が生徒にもたらす成長・発達上の効果について検討する。 | 担当 (荒井) | [授業外学修] (240分) 生徒の望ましい部活動への関わり方について検討する。 | | | | | |
| 5 | [テーマ] 部活動における現在の問題点2(生徒側から) [内容] 部活動は学校教育の一環として、中高生の生活や将来の社会にとっても、さまざまな意義や役割が認められている。しかし「学業と部活動の両立」などの課題もある。そこで、生徒側からは、どのような問題があるのかを検討していく。 | 13 | [テーマ] 指導者側の部活動の目的 [内容] 部活動における指導者の目的と生徒にもたらす副次的効果についてまとめる。 | 担当 (荒井) | [授業外学修] (240分) 自分の体験してきた部活動について、指導者側に立った場合の効果をもとめる。 | | | | | |
| 6 | [テーマ] 中学校における部活動1 [内容] 部活動の学校組織上の位置付けと学校規模に応じた部活動編成について解説する。 | 14 | [テーマ] 部活動の取り組み状況把握の具体例 [内容] 部活動における指導者・生徒の取り組み状況を把握する方法について、具体例をもとに考える。 | 担当 (荒井) | [授業外学修] (240分) 自分なりに把握の方法をさらに考える。 | | | | | |
| 7 | [テーマ] 中学校における部活動2 [内容] 部活動顧問教師の実態及びその苦労と悩みについて解説する。 | 15 | [テーマ] 部活動の取り組み調査計画の作成と検討 [内容] 指導者・生徒の部活動への取り組み様子の調査を計画してみる。 | 担当 (荒井) | [授業外学修] (240分) 周囲の者に自作した調査を試してみる。 | | | | | |
| 8 | [テーマ] 中学校における部活動3 [内容] 外部指導者との連携について事例を基に解説する。 | 16 | [試験または課題] [方法] レポート作成及びレポート提出、ポートフォリオ提出 | 担当 (井上) | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 講義のテーマに関する理解度や質疑応答、及び提出したレポート並びにポートフォリオ等を総合的に判断して評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | 部活動の課題等を把握した上で、今後求められる部活動の在り方を検討していくことになるので、常に問題意識を持ち積極的かつ自主的な態度で授業に臨むことを期待している。 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | ○ | | ◎ | 60 | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | ◎ | 20 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | |
| ポートフォリオ | ○ | ○ | | ○ | 20 | 講義内での質疑、議論の中で適宜、レポート・発表内容についてフィードバックを行なう。 | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて授業内で提示する | | | | | 参考書・参考資料等 | 運動活動の理論と実践 友添秀則編 運動部活動の教育学入門 神谷拓著 運動部活動の在り方に対する調査報告書 文部科学省2013 | | | |
| 連絡先 | 井上:LC棟2F/末永、荒井:A棟3F | | | | | オフィスアワー | 井上:火3限(前・後期)/末永:月4限(前・後期)/荒井:月4(前)月3(後) | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---------|---------|--|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツ心理学特講 | | | | 担当教員 | 粟木一博/菊地直子 | | | | |
| | Sports Psychology (L.) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人々の間で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツにおける心理学的な諸問題の具体的な事例や研究事例を取り上げそれについて解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツ指導のために応用する方法について解説する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握することができる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができるようになる。簡単な研究調査を行なうことができるようになる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツ心理学の基礎的に事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | スポーツ心理学において用いられている研究方法を理解し、自ら調査研究を行うことができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| スポーツ心理学の基礎的な知識についての解説を行う。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように具体的な事例の提示したり、これまでどのような方法で研究が行われてきたのかを研究論文を用いて解説する。自分で計画した研究調査を実際に行い、理解度や到達度を評価する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容]授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方 | | | | 9 | [テーマ] スポーツ心理学と社会心理学② [内容]スポーツ心理学における社会心理学に関する具体的な研究事例(研究論文)を取り上げ解説を加える。さらに今後の研究に関する展望について解説する。 | | | | |
| 担当 (粟木) | [授業外学修](120分) シラバスを熟読しておく。 | | | | 担当 (粟木) | [授業外学修](120分) 提示された研究論文をあらかじめ熟読しておく。 | | | | |
| 2 | [テーマ] スポーツ心理学と動機づけ① [内容]動機づけ理論を概観し、そのスポーツ心理学への応用事例について解説する。 | | | | 10 | [テーマ] スポーツ心理学と社会心理学③ [内容]スポーツ心理学における社会心理学に関する具体的な研究事例(研究論文)を取り上げ解説を加える。さらにスポーツの現場への応用事例について討論する。 | | | | |
| 担当 (粟木) | [授業外学修](120分) 心理学と動機づけ理論について自分の知識を整理しておく。 | | | | 担当 (粟木) | [授業外学修](120分) 前回の研究論文を読み直し、理解を深めておく。 | | | | |
| 3 | [テーマ] スポーツ心理学と動機づけ② [内容]スポーツ心理学における動機づけに関する具体的な研究事例(研究論文)を取り上げ解説を加える。さらに今後の研究に関する展望について解説する。 | | | | 11 | [テーマ] スポーツ心理学と指導①(ボトムアップ理論) [内容]これからの育成には、主体性や判断力の向上が欠かせない。近年注目されるボトムアップ理論の源流であるAppreciative Inquiryアプローチを探り、具体的な指導方法を考える。 | | | | |
| 担当 (粟木) | [授業外学修](120分) 提示された研究論文をあらかじめ熟読しておく。 | | | | 担当 (菊地) | [授業外学修](120分) 配布された資料を基に、指導事例を考案する。 | | | | |
| 4 | [テーマ] スポーツ心理学と動機づけ③ [内容]スポーツ心理学における動機づけに関する具体的な研究事例(研究論文)を取り上げ解説を加える。さらにスポーツの現場への応用事例について討論する。 | | | | 12 | [テーマ] スポーツ心理学と指導②(kolbの体験学習サイクル) [内容]Kolbは、学習を最大限引き出すのは、経験を一般化できるまでの4つのプロセスを企画することであるといっている。ここでは、体験学習サイクルとそれを基にしたカウセリングについて考える。 | | | | |
| 担当 (粟木) | [授業外学修](120分) 前回の研究論文を読み直し、理解を深めておく。 | | | | 担当 (菊地) | [授業外学修](120分) 配布された資料を基に、指導事例を考案する。 | | | | |
| 5 | [テーマ] スポーツ心理学と運動学習① [内容]運動学習および運動制御理論研究を概観し、そのスポーツ心理学への応用事例について解説する。 | | | | 13 | [テーマ] スポーツ指導現場における体罰やハラスメントとその防止 [内容]H23年以降、体罰問題が社会問題化した。しかし、体罰とはなにか、現場では明確な線引きは今もできておらず、また根絶される様子もない。ここでは、体罰が生まれる背景、指導者が抱える問題等の視点から対策を考える。 | | | | |
| 担当 (粟木) | [授業外学修](120分) 運動学習理論について自分の知識を整理しておく。 | | | | 担当 (菊地) | [授業外学修](120分) 現在の体罰事例の様相から、防止の取り組みについて整理しておく。 | | | | |
| 6 | [テーマ] スポーツ心理学と運動学習② [内容]スポーツ心理学における運動学習および運動制御に関する具体的な研究事例(研究論文)を取り上げ解説を加える。さらに今後の研究に関する展望について解説する。 | | | | 14 | [テーマ]スポーツにおける臨床① [内容]スポーツ選手が抱える問題や課題について援助する際、必要となる理解について、深層心理学的視点から解説する。 | | | | |
| 担当 (粟木) | [授業外学修](120分) 提示された研究論文をあらかじめ熟読しておく。 | | | | 担当 (菊地) | [授業外学修](120分) 提示された研究論文を予め熟読しておく。 | | | | |
| 7 | [テーマ] スポーツ心理学と運動学習③ [内容]スポーツ心理学における運動学習および運動制御に関する具体的な研究事例(研究論文)を取り上げ解説を加える。さらにスポーツの現場への応用事例について討論する。 | | | | 15 | [テーマ]スポーツにおける臨床② [内容]心理的アセスメントの実践について、演習を用いながら解説する。 | | | | |
| 担当 (粟木) | [授業外学修](120分) 前回の研究論文を読み直し、理解を深めておく。 | | | | 担当 (菊地) | [授業外学修](120分) 提示されたアセスメント法について事前に学習し理解しておく。 | | | | |
| 8 | [テーマ] スポーツ心理学と社会心理学① [内容]社会心理学研究を(リーダシップ理論を中心に)概観し、そのスポーツ心理学への応用事例について解説する。 | | | | 16 | [試験または課題]テスト [方法]テストを実施し、解説も行う。 | | | | |
| 担当 (粟木) | [授業外学修](120分) 社会心理学とはどのような研究分野かということについて自分の知識を整理しておく。 | | | | 担当 (菊地) | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 提出された、研究レポートを評価するとともに、最終回にはテストを実施、それをもとに評価を行なう。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | ◎ | | | 50 | ・2/3以上の出席がない場合は期末試験を欠席したと同様の扱いをする(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席と同等の扱いをする。 ・授業計画は授業の進度により若干前後することがある。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | ○ | ○ | 50 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | レポートおよびテストに関しては授業内に解説を実施する。 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | 参考書・参考資料等 | よくわかるスポーツ心理学、中込四郎、伊藤豊彦、山本裕二編著、ミネルヴァ書房 | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 粟木研究室:E棟2階(tel 0224-55-5079、e.mail kz-awaki@sendai-u.ac.jp) / 菊地研究室:4体1階(no-kikuchi@sendai-u.ac.jp) | | | | オフィスアワー | 粟木:前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限 菊地:前期・月曜日2時限、後期・木曜日3時限 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---|--------|---|---------|---|--------------|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 授業実践演習 | | | | 担当教員 | 荒井龍弥・針生弘 | | | | |
| | Classroom Practice | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 実際に学校で行われている授業を題材に、担当教員の指導助言のもと履修者自身が授業実践研究を行うことが中心となる。授業の計画・準備・実施・振り返りという、教師にとっての本来の教育評価の流れを踏まえ、各々の段階でどのようなことがらが問題となるか、検討の観点も含めて学究を深める。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 1時間または数時間にわたる授業を計画、準備できる。自他の授業実践について検討すべき観点を把握する。授業改善のための手立てを検討できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 授業目標に応じた授業の計画、検討、改善案が検討できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 授業内容に関する知識技能ならびに学習者の状況を積極的に探究することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 授業中の学習者の様子をくみとり、教育者側の適切な対応を考えることができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 本科目は3つのフェーズからなる。第1フェーズ:学校における授業実践報告をレビューし、検討事項や課題の発見、検討を行う。第2フェーズ:担当教員もしくは履修者が依頼した学校において1〜数時間の授業を参観するとともに、実践記録作成を行う。第3フェーズ:授業実践記録をもとに担当教員および履修者全員で振り返り検討を行う。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション:本授業の進めかた [内容] 本科目の3フェーズについて説明する。この3フェーズは一般の授業実践研究の進めかたと同様であることを理解する。 | 9 | [テーマ] 記録映像の整理、実践記録の作成(1) [内容] 授業の映像を再度確認するとともに、記録作成の手順を検討する。 | | | | | | | |
| 担当(全員) | [授業外学修](240分) 授業実践研究を探索し、少なくとも1本を精読すること。また、その研究についてレジュメを作成すること。 | 担当(全員) | [授業外学修](480分) 分担された授業の記録を作成すること | | | | | | | |
| 2 | [テーマ] 授業実践研究の検討(1) [内容] 履修者を2グループに分け、第1グループの履修者がとりあげた実践研究(もしくは論文)について検討を行う。 | 10 | [テーマ] 記録映像の整理、実践記録の作成(2) [内容] 授業の映像を再度確認するとともに、記録作成の手順を検討する。 | | | | | | | |
| 担当(全員) | [授業外学修](240分) とりあげられた実践研究について振り返り、参考にしたい点や疑問点等を整理しておくこと。 | 担当(全員) | [授業外学修](480分) 分担された授業の記録を作成すること | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] 授業実践研究の検討(2) [内容] 第2グループの履修者がとりあげた実践研究(もしくは論文)について検討を行う。 | 11 | [テーマ] 実践記録の検討(1) [内容] 分担で文章化した実践記録第1グループ分の読み合わせ、検討を行う。 | | | | | | | |
| 担当(全員) | [授業外学修](240分) 自分の専門とする教科について、実践したい単元・授業内容を絞り込むこと | 担当(全員) | [授業外学修](240分) 授業の改善案を作成すること。 | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 授業実践研究の検討(3) [内容] 第3グループの履修者がとりあげた実践研究(もしくは論文)について検討を行う。 | 12 | [テーマ] 実践記録の検討(2) [内容] 分担で文章化した実践記録第2グループ分の読み合わせ、検討を行う。 | | | | | | | |
| 担当(全員) | [授業外学修](240分) 自分の専門とする教科について、実践したい単元・授業内容を絞り込むこと | 担当(全員) | [授業外学修](240分) 授業の改善案を作成すること。 | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 授業実践記録とは・実践記録による授業の検討(1) [内容] 実践記録の諸様式と実際例を紹介し、実際にその一部について検討を行う。 | 13 | [テーマ] 授業改善案の提案 [内容] 持ち寄った改善案を各々検討し、全体として実践者に報告する原案を作成する。 | | | | | | | |
| 担当(全員) | [授業外学修](240分) 検討内容について、自分なりに修正案を考えること | 担当(全員) | [授業外学修](240分) 改善案の決定稿を作成すること。 | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] 実践記録による授業の検討(2)・実践記録作成準備 [内容] 実践記録をもとに、授業の検討・議論を行う。実践記録を作成するため、履修者間で日程と内容の調整を行う。 | 14 | [テーマ] 評価課題の検討(1) [内容] 評価課題の作成目的や留意事項を紹介し、それに基づき、授業改善案による評価課題を各自作成する。 | | | | | | | |
| 担当(全員) | [授業外学修](240分) 議論を受け、自分なりの改善案をさらに修正すること。 | 担当(全員) | [授業外学修](240分) 評価課題の改善修正について検討すること | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] 授業の参観と記録(1) [内容] 実際に学校へ行き、授業を参観しつつ映像等で記録する。 | 15 | [テーマ] 評価課題の検討(2) [内容] 全体として評価課題を完成する | | | | | | | |
| 担当(全員) | [授業外学修](240分) 授業の様子をメモ等により記録・整理しておくこと。 | 担当(全員) | [授業外学修](240分) 報告・評価課題を再度まとめておくこと | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] 授業の参観と記録(2) [内容] 実際に学校へ行き、授業を参観しつつ映像等で記録する。 | 16 | [試験または課題] 授業実践研究報告の作成 [方法] これまでの検討内容をまとめること | | | | | | | |
| 担当(全員) | [授業外学修](240分) 授業の様子をメモ等により記録・整理しておくこと。 | 担当(全員) | | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 個々の発表内容、準備内容ならびに授業実践のようすのみならず、他者の授業や発表への議論参加等、授業への貢献度もあわせて総合的に評定を行う。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | ◎ | ○ | ○ | 20 | 授業を参観する学校の選定、依頼については、担当教員と予め相談の上行うこと。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | | | 40 | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| ポートフォリオ | ○ | ○ | ○ | 20 | 作成した授業実践研究は、実践者への報告を行い、そのコメントを再度フィードバックする | | | | | |
| その他(実践記録作成) | | ◎ | ◎ | 20 | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | 参考書・参考資料等 | 授業中に指示する | | | | |
| 教科書 | 特に定めない | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 荒井:tt-arai@sendai-u.ac.jp | | | | オフィスアワー | 荒井:前月4限 後月3限 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---------|---------|-------------------------------|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 教職教育論演習 | | | | 担当教員 | 荒井龍弥/針生弘/江尻雅彦 | | | | |
| | Theory and Practice of Teacher Education (S.) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 教師には、教育内容の深い理解のみならず、学級その他の児童・生徒集団をまとめていくことが求められる。このため、児童生徒の理解をふまえた集団活動を見る眼、集団介入の方法などのスキルアップが必要となる。本演習では履修者が本学「教採塾」に参加しつつ、ファシリテーターとして参加学生に関わることで、生徒の詳細な把握に基づく生徒指導力や学習集団のコーディネート力、マネジメント力といった基礎的実践的指導力の向上を図る。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 望ましい集団づくりの実践をめざした集団把握・ファシリテートに対する実践的・専門的技術の向上ならびに先輩教師(メンター)との協同作業に習熟する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 集団学習場面におけるファシリテーター(促進者)の役割を理解し、実践することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 集団学習場面において、参加者の積極的関与を促すことができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | メンターチームの一員としての協同性を意識することができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 本学「教採塾」に参加しつつ、「先発隊」として参加者(学部学生)の把握とファシリテートを行いながら、望ましい集団づくりに向けた課題の把握とその改善について考えてゆく。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容]担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習](120分) シラバスを熟読しておく。 | | | | 9 | [テーマ] ファシリテート実践③ [内容] 学習集団(教採塾)の準備補助も含めて参加し、今後の集団の予定や計画、取りくみ等について希望事項を聞き取る。 [授業外学習](120分) 実施内容の確認、個々の参加者の提案内容の反応等について整理しておくこと | | | | |
| 2 | [テーマ]ファシリテーターの仕事とスキル [内容] ファシリテーターとしての仕事の流れと必要なスキルについての考えかたを踏まえ、教採塾での自らの取り組みを考える。 [授業外学習](120分) 教採塾での自身の取り組みについて、「決意表明」を考えること | | | | 10 | [テーマ] ファシリテートまとめ2:学習状況の進行把握とスーパーバイズ [内容] 集団の今後の計画や参加者の学習進捗状況をもとに、取り組みについて振り返り、より積極的にかかわることができる計画を検討する。 [授業外学習](120分) 今後の集団活動での重点事項や取り組みについての提案事項をまとめること | | | | |
| 3 | [テーマ] 学習集団の把握① [内容] 学習集団(教採塾)の準備補助も含めて参加し、集団の学習進行計画や予定について把握する。 [授業外学習](120分) 実施内容の確認、個々の参加者の取り組み状況について整理しておくこと | | | | 11 | [テーマ] ファシリテート実践④ [内容] 教採塾(個人面接)の準備補助も含めて参加し、参加者個々に対するアドバイスを行う。 [授業外学習](120分) 実施内容の確認、個々の参加者の取り組み状況について整理しておくこと | | | | |
| 4 | [テーマ] 学習集団の把握② [内容] 学習集団(教採塾)の準備補助も含めて参加し、参加者個々の学習状況の把握を行う。 [授業外学習](120分) 実施内容の確認、個々の参加者の取り組み状況について整理しておくこと | | | | 12 | [テーマ] ファシリテート実践⑤ [内容] 教採塾(集団面接)の準備補助も含めて参加し、集団の課題に対する解決策の提案を行う。 [授業外学習](120分) 実施内容の確認、提案した解決策に対する反応について整理しておくこと | | | | |
| 5 | [テーマ] 学習集団の把握③ [内容] 学習集団(教採塾)の準備補助も含めて参加し、集団としての性質や課題の把握を行う。 [授業外学習](120分) 実施内容の確認、集団の特徴について整理しておくこと | | | | 13 | [テーマ] ファシリテート実践⑥ [内容] 教採塾(模擬授業)の準備補助も含めて参加し、今後の集団としての学習計画や予定について提案する。 [授業外学習](120分) 実施内容の確認、個々の参加者の取り組み状況について整理しておくこと | | | | |
| 6 | [テーマ] 集団把握まとめ1:学習者のニーズと実態把握 [内容] 参加メンバーの個々の目標や学習状況を確認し、目標達成のために必要なアドバイスを作成検討する。また、集団の課題とその解決策について話し合う。 [授業外学習](120分) 参加者に対するメッセージとして、学習状況のフィードバック内容を考えること | | | | 14 | [テーマ] ファシリテートまとめ3:学習状況の進行把握とスーパーバイズ [内容] 参加者の面接等への対応をもとに、教採塾での取り組みや各種アドバイスについてまとめ、参加者に提供する資料を作成する。 [授業外学習](120分) 「面接等対応の注意点:先発隊からの報告」資料を作成・配付すること | | | | |
| 7 | [テーマ] ファシリテート実践① [内容] 学習集団(教採塾)の準備補助も含めて参加し、メンバー個々へのアドバイスの効果を検討するとともに、参加者個々の考えや希望を聞き取る。 [授業外学習](120分) 実施内容の確認、個々の参加者の取り組み状況について整理しておくこと | | | | 15 | [テーマ] 全体まとめ [内容] 本科目での取り組み内容について振り返り、ファシリテーターとして必要な資質・スキル等について検討する。 [授業外学習] 自らにさらに必要な資質・能力について言語化しようとしてみること | | | | |
| 8 | [テーマ] ファシリテート実践② [内容] 学習集団(教採塾)の準備補助も含めて参加し、集団の特徴と課題について集団内で話し合い、集団としての方向性や課題を把握する。 [授業外学習](120分) 実施内容の確認、参加者の反応について整理しておくこと | | | | 16 | [試験または課題] [方法] 状況により、最終課題として対面試験またはレポート課題を行う。 | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 教採塾への参加状況や取り組み状況ポートフォリオ(60%)とその振り返り授業での提出物(20%)、最終課題(20%)による。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | ◎ | | ◎ | 20 | 教採塾の進行にあわせ、日程および内容を変更することがある。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 20 | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| ポートフォリオ | ○ | ○ | ◎ | 60 | 提出物はコメントを付し、フィードバックする。 | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | 参考書・参考資料等 | 授業内で紹介する。 | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 荒井A棟309室(tt-arai)・針生A棟306室(hr-hariu)・江尻A棟311室(ms-ejiri) ※アドレスは個々のアルファベットの後に@sendai-u.ac.jpをつけてください。 | | | | オフィスアワー | 荒井:前期・月曜日4時限、後期・水曜日2時限 針生:月曜日3時限 江尻:前期・月曜日2時限、後期・水曜日2時限 | | | | |

| 授業科目名 | 犯罪学特講 | | | | 担当教員 | 田中智仁 | | | | |
|--|--|-------|--|---------|---|---|-----|---|------|---|
| | Criminology (L.) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 犯罪の原因および犯罪が起こりやすい機会を網羅的に解説する。犯罪学は生物学、社会学、心理学等の総合体系であるが、個々の学問の予備知識が無くとも理解できるように順々にテーマを展開する。また、学校教育現場で発生する非行、いじめ、校内暴力、性的嫌がらせ、校内侵入事案などの教育問題についても犯罪学の見地から解説する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| ①犯罪発生メカニズムと対策を理解し、有効的な防犯の方策(警備計画)を具体的に提言・実践できる思考力を習得する。 ②各種の教育問題が発生するメカニズムと対策を犯罪学的に理解し、有効的な生徒指導および学校安全管理の方策を具体的に提言・実践できる思考力を習得する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 犯罪および教育問題が何故発生し、どのように防止すればよいかを理論に基づいて説明できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 警備計画、生徒指導および学校安全管理への応用に興味を持って犯罪対策を実践できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 防犯の方策を具体的に提言し、有効な警備計画、生徒指導要領、学校安全管理要領を立案することができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 配布資料、板書を中心に講義を進める。必要に応じて、映像資料等も交えて解説する。犯罪社会学、犯罪心理学、環境犯罪学の理論に関する講話が主要となるが、随所に実務的観点を盛り込み、創造力と思考力の開拓と実務へ応用実践できる能力の開拓を目指す講義を行う。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] 犯罪学とは何か [内容]「人はなぜ罪を犯すか」(原因論)、「どのように犯罪・非行を防止するか」(機会論)といった立場の違いを踏まえ、犯罪学の全体像を説明する。 [授業外学修]近年の重大事件(学校侵入事案を含む)や非行事案を調べておくこと。(240分) | 9 | [テーマ]目撃証言の妥当性 [内容]犯罪捜査では目撃証言が決め手になることが多いが、目撃証言の正確性について実例を踏まえながら概説するとともに、証言の有効性と限界性を検討する。 [授業外学修]日本で冤罪となった事例について調べ、当該事例が具体的にどのような状況下で発生していたのかを調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 2 | [テーマ]「犯罪・非行」という概念と犯罪統計の実際 [内容]私たちが抱く「犯罪・非行」のイメージがどのように形成され、どこまで実態を反映しているのかを、統計のトリックなどを解説しながら明らかにする。 [授業外学修]マスコミによる犯罪統計報道と、『犯罪白書』および『警察白書』を調べておくこと。(240分) | 10 | [テーマ]社会構築主義の現状と課題 [内容]犯罪者や非行少年は「悪人」なのか否かについて、ラベリング論を含む社会構築主義の観点から、構築される犯罪について概説する。 [授業外学修]本質主義と構築主義の違いを調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] 古典的な犯罪学 [内容]急激な都市化をみせたシカゴで深刻な貧困等の社会病理現象が蔓延したことを踏まえ、犯罪学の古典的研究を概説しながら、文化葛藤などの概念を基軸として現在の社会病理現象を明らかにするための方法を検討する。 [授業外学修]シカゴ学派社会学に関する資料・文献を調べておくこと。(240分) | 11 | [テーマ]犯罪被害者への着目 [内容]犯罪原因論は犯罪加害者に注目するが、犯罪や非行によって被害を受けた「被害者」の存在も重要であることから、被害者学の観点から犯罪被害者について概説する。 [授業外学修]犯罪被害者支援団体の活動を調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 犯罪原因の社会的要因① [内容]いわゆる「不健全」な人間関係や帰属集団が犯罪者を生み出すのかかについて、社会的要因に着目しながら犯罪者生成のメカニズムを概説する。 [授業外学修]シカゴ学派社会学のモノグラフを読んでおくこと。(240分) | 12 | [テーマ]犯罪を防止する① [内容]犯罪原因論は必ずしも防犯に役立つ知見ではないことを踏まえ、環境犯罪学の観点から犯罪および非行の機会と防止について概説する。 [授業外学修]CPTEDの実用例について調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 犯罪原因の社会的要因② [内容]凶悪犯および非行少年が存在する半面、なぜ多くの人は凶悪犯罪に手を染めず、非行少年にならないのかという着眼点から、「社会的絆」に着目して犯罪・非行を概説する。 [授業外学修]トラビス・ハーシの「バンド理論」について調べておくこと。(240分) | 13 | [テーマ]犯罪を防止する② [内容]合理的選択理論、日常活動理論、割れ窓理論を中心として、日常的に発生する犯罪や非行の要因と防止策を犯罪機会論にもとづいて概説する。 [授業外学修]アメリカで実践されたゼロ・トレランス政策について調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] 犯罪原因の心理的要因① [内容]凶悪犯の心理とはどのようなものか、どのような人が凶悪犯になるのかについて、DSM-5の診断基準などを踏まえながら、犯罪心理学の観点から概説する。 [授業外学修]DSM-5の内容を確認しておくこと。(240分) | 14 | [テーマ]「安全・安心まちづくり」という政策の実状 [内容]環境犯罪学が多くの社会安全政策の基礎となっていることを前提として、「安全・安心まちづくり」の事例を取り上げ、政策の課題を踏まえたうえで、犯罪・非行の防止に資する政策を考える。 [授業外学修]「安全・安心まちづくり」に関する条例を調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] 犯罪原因の心理的要因② [内容]私たちの身近では、凶悪犯罪ではなく軽犯罪が大多数を占めているが、その中にはストレスコーピングに由来するものがあることを前提として、身近な犯行の心理状態を概説する。 [授業外学修]ストレスコーピングの実践例について調べておくこと。(240分) | 15 | [テーマ]過剰防犯の課題 [内容]環境犯罪学は、過度な監視や過剰な防犯対策を促す危険性も孕むことから、平和的かつ有効な実務運用を考える。あわせて、子どもの安全(生徒指導、学校安全管理等)の在り方を考える。 [授業外学修]防犯パトロール活動の功罪について、身近な事例を調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] 学校における「いじめ」の構造 [内容]森田洋司らが提唱した「いじめの四層構造論」に依拠しながら、学校において発生する「いじめ」や「暴力」の発生要因を検討し、再発防止に向けた方策を検討する。 [授業外学修]「いじめの四層構造論」について調べておくこと。(240分) | 16 | [試験または課題]レポート [方法]講義内容を踏まえ、警備計画、生徒指導要領、学校安全管理要領のいずれかを立案し、レポートにまとめる。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| ①起承転結の論理構造、②犯罪学的な説明の正当性、③実務への応用思考等を基準に評価する。既存の理論および実務要領を要約するだけでなく、創造力と思考力に重点を置いた論理的記述を求める。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | — | — | — | — | 1. 刑法学、刑事政策、法医学も犯罪学の領域だが、本講義では犯罪・非行等を社会的現象として扱うため、確認程度にとどめる。 2. 時事的な事例を挙げて説明することがあるため、日々のニュース(主に社会面記事)をチェックしておくこと。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | ○ | ○ | 50 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 50 | レポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に解答と併せて複写・返却する。 | | | | | |
| ポートフォリオ | — | — | — | — | | | | | | |
| その他 | — | — | — | — | | | | | | |
| 関連科目 | スポーツセキュリティ論演習 | | | | 参考書・参考資料等 | 岡邊健福2020『犯罪・非行の社会学(補訂版)』有斐閣 松浦直己2015『非行・犯罪心理学』明石書店 | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 田中智仁研究室:第5体育館3階33号室/tm-tanaka@sendai-u.ac.jp | | | | オフィスアワー | 水曜日 10:30～12:00 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---|---------|---------|--|---|---|------|---|
| 授業科目名 | 武道指導法演習 | | | | 担当教員 | 齋藤浩二/南條充寿 | | | | |
| | Budo(Judo&Kendo) coaching Method | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習・実技 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 武道(柔道・剣道)の初心者指導方法を取り上げて、技術の指導構成を基にした内容を実践的に展開していく。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 武道(柔道・剣道)の初心者指導の内容や順序が理解できるようになる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 武道(柔道・剣道)の指導の手順が説明できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 武道(柔道・剣道)の技術に理論的な思考をもつことができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 武道(柔道・剣道)の模範的な基本動作を身に付けることができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 武道の中の柔道と剣道を取り上げ、特に初心者指導の手順を考えて、理想のおよび効率的な技術の習得と指導方法についてを展開していく。(授業は実技形式で実施する) | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ]柔道の道具と授業の導入 [内容]基礎知識として武道(柔道)の道具について取り上げ、その使用における留意事項について解説する。 学校体育の柔道における導入時の留意点について解説する。 [授業外学修](240分) テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | 9 | [テーマ]武道(剣道)について、刀剣・竹刀の説明 [内容]基礎知識として武道(剣道)と刀剣や竹刀について取り上げる。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | | | | | | | |
| 2 | [テーマ]柔道の基本動作① [内容]基本動作である礼法、姿勢、組み方、進退動作の内容を説明し、その伝達における留意点について解説する。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | 10 | [テーマ]剣道の技術構成 [内容]技の構成から指導内容を考える。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | | | | | | | |
| 3 | [テーマ]柔道の基本動作② [内容]基本動作である受身(後ろ、横、前方回転)の内容を説明し、その伝達における留意点について解説する。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | 11 | [テーマ]剣道の基本動作 [内容]礼法、構え、振り方、足さばき、素振りの内容を説明し、指導の手順と留意点について解説する。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | | | | | | | |
| 4 | [テーマ]柔道の基本動作 [内容]基本動作(礼法、姿勢、組み方、進退動作、受け身)を用いた、授業における展開例などを示し、その伝達における留意点について解説する。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | 12 | [テーマ]剣道の基本打突 [内容]面、胴、小手の基本的な打ち方と指導の手順と留意点を解説する。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | | | | | | | |
| 5 | [テーマ]柔道の固技 [内容]固技(抑込技、絞技、関節技)における技術的構造を解説し、実際の進行例などを挙げ、その留意点について解説する。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | 13 | [テーマ]剣道具着装と打ち方 [内容]剣道具の着装の指導の仕方と用具着装後の打たせ方の手順について解説する。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | | | | | | | |
| 6 | [テーマ]柔道の投技① [内容]足技の技術的構造を説明し、指導における実際の進行例などを挙げ、その留意点について解説する。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | 14 | [テーマ]しかけ技と稽古法① [内容]一本打ちの技、連続技の代表的な技を取り上げて指導の留意点を解説する。さらに、打ち込み稽古と互格稽古を行う。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | | | | | | | |
| 7 | [テーマ]柔道の投技②/ふりかえり [内容]手技、腰技の技術的構造を説明し、指導における実際の進行例などを挙げ、その留意点について解説する。 これまでの内容についてふりかえる。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | 15 | [テーマ]しかけ技と稽古法② [内容]払い技、引き技の代表的な技を取り上げて指導の留意点を解説する。その後、打ち込み稽古と互格稽古を行う。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | | | | | | | |
| 8 | [テーマ]柔道実技の復習(試験) [内容]これまでの授業内容についての復習を行い、理解度を確認する。 [授業外学修](240分)テーマに関する専門用語や技等について調べて、授業への理解を深めること。 | 16 | [試験または課題]剣道実技の復習(試験) [方法]これまでの授業内容についての復習を行い、理解度を確認する。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 試験(50%)、その他(授業時の実技内容・態度50%)を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | ○ | | ◎ | 50% | 節度ある態度で受講してください。ふさわしくない場合は、厳しく指導します。柔道衣が必要となります。 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | | | | 評価対象外 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | |
| 授業外レポート | | | | | 評価対象外 | 試験は技能表現を主としますので、できない場合は再度指導を行います。 | | | | |
| ポートフォリオ | | | | ◎ | 50% | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | 参考書・参考資料等 | 『中学校武道必修化指導書-柔道編-』、『中学校武道必修化指導書-剣道編-』日本武道協会発行 平成29年 | | | |
| 教科書 | | | | | | オフィスアワー | 木曜日 11:00~12:30(齋藤) 金曜日 10:30~11:20(南條) | | | |
| 連絡先 | 齋藤研究室:第三体育館3階剣道場横 南條研究室:第三体育館3階柔道場横 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---|---------|--|---|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツセキュリティ論演習 | | | | 担当教員 | 田中智仁 | | | | |
| | Security for Sports | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 大型のスポーツイベントにおいて実施される警備に着目し、その歴史、法制度、事例等を体系的に学ぶ。その上で、スポーツイベントのセキュリティのあり方を考える。授業は演習形式であり、受講生の発表および発言を尊重する。ただし、警備に関する予備知識がない受講生も含まれることを想定し、教員が必要に応じて解説しながら授業を進行する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 警備に関する歴史的かつ法的な側面を理解し、現代社会における警備の意義と課題を学術的な観点から捉えた上で、スポーツイベントのセキュリティについて具体的な警備計画を立案することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 現代社会における警備の意義と課題を、学術的な観点から説明することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | スポーツイベント以外の興行や祭事等にも目を向け、応用的に警備体制の妥当性を考えることができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | スポーツイベントの安全管理を警備の観点から考え、警備計画を立案することができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 日本の警備業を基軸として、警察制度も視野に入れながら、スポーツイベントのセキュリティについて考える。現行の警備業の概況と警備業務の種類、警備業および警察の歴史、警備業法と警察法、各種のスポーツイベントと雑踏警備の事例を概観した上で、警備に起因する監視社会の負の側面にも着目し、スポーツセキュリティのあり方を考える。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] イントロダクション [内容] 授業計画および授業の到達目標について説明するとともに、日本の警察制度および警備業の概況等について確認する。 [授業外学修] 日本の警備業の概況について調べておくこと。(240分) | 9 | [テーマ] 東京オリンピック(1964年)のスポーツセキュリティ [内容] 1964年に開催された東京オリンピックにおいて、日本の警備業がどのように関与し、どのような社会的意義が見出されたのかを検討する。 [授業外学修] 東京オリンピック(1964年)に関する資料を調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 2 | [テーマ] 警備業務の種類とスポーツセキュリティ [内容] 日本の警備業が展開する各種業務の内容を概観し、スポーツイベントのセキュリティを担う分野について概説する。 [授業外学修] 日本の警備業務の種類と警備業法について調べておくこと。(240分) | 10 | [テーマ] 大阪万博の雑踏警備 [内容] 1970年の日本万国博覧会(大阪万博)において、日本の警備業がどのように関与し、どのような社会的意義が見出されたのかを確認するとともに、雑踏警備の観点からスポーツセキュリティを考える。 [授業外学修] NHKプロジェクトX「大阪万博史上最大の警備作戦」を観ておくこと(DVDは本学図書館に所蔵)。(240分) | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] 警備の歴史とスポーツセキュリティ① [内容] 日本の警備業の歴史を概観し、スポーツイベントと警備業の関与について確認する。また、公的権限のない民間人によるスポーツセキュリティについて考える。 [授業外学修] 日本で開催された大規模なスポーツイベントについて調べておくこと。(240分) | 11 | [テーマ] マラソンのスポーツセキュリティ [内容] 主にボストンマラソン爆弾テロ事件に着目し、東京マラソンなどと比較検討しながらマラソンの警備体制を考える。 [授業外学修] ボストンマラソン爆弾テロ事件について調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 警備の歴史とスポーツセキュリティ② [内容] 世界の警備業の歴史を概観し、スポーツイベントと警備業の関与について国際的な視野で考える。 [授業外学修] テロ等の国際情勢について調べておくこと。(240分) | 12 | [テーマ] サッカーのスポーツセキュリティ [内容] サッカー欧州リーグの「フーリガン」とリーグにおけるサポーター同士の衝突に着目し、サッカーの警備体制について考える。 [授業外学修] フーリガンに関する資料・文献を調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 施設警備業務とスポーツセキュリティ [内容] 主に体育館や競技場などの施設内で実施されるスポーツイベントの警備について、施設警備業務の観点から具体的な実施方法や課題解決策を検討する。 [授業外学修] 2015年に発生したパリ同時多発テロについて調べておくこと。(240分) | 13 | [テーマ] プロ野球のスポーツセキュリティ [内容] 日本のプロ野球にみられるトラブルや球場周辺の混雑等に着目し、プロ野球の警備体制について考える。 [授業外学修] ドーム球場と屋外球場の違いについて調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] 雑踏警備業務とスポーツセキュリティ [内容] 主にマラソンなどの街路や野外で実施されるスポーツイベントの警備について、施設警備業務の観点から具体的な実施方法や課題解決策を検討する。 [授業外学修] 2011年に発生した明石花火大会歩道橋事故について調べておくこと。(240分) | 14 | [テーマ] スポーツセキュリティの功罪 [内容] 警備体制の強化に由来する各種のトラブルに着目し、監視社会論の観点から「統制」のあり方について考える。 [授業外学修] 警備体制の強化によるトラブル事案を調べておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] 身辺警備業務とスポーツセキュリティ [内容] プロスポーツ選手や五輪メダリストなどの身辺の安全確保について、身辺警備業務の観点から具体的な実施方法や課題解決策を検討する。 [授業外学修] アスリートが襲撃された事例を調べておくこと。(240分) | 15 | [テーマ] スポーツセキュリティの展望 [内容] 第14回までの授業内容を総括するとともに、警備の正負の両側面を踏まえながら、スポーツセキュリティのあり方を考える。 [授業外学修] 第14回までの授業内容を復習しておくこと。(240分) | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] 警備業法とスポーツセキュリティ [内容] 警備業法の条文および制定・改正の社会的背景を確認するとともに、スポーツセキュリティの法的側面について考える。 [授業外学修] 警備業法の条文を調べておくこと。(240分) | 16 | [試験または課題] 授業外レポート [方法] 全15回の授業を通じて調べ、考察した内容をレポートにまとめる。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 毎回の授業における発言および発表資料、授業外レポートに基づいて成績を評価する。レポートでは、①各種警備業務に関する知識の妥当性、②警備計画の実現可能性を重視する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | — | — | — | — | 1.警備業の実務経験の有無は問わない。 2.社会学の基本的な考え方や理論を理解する姿勢を求める。 3.受講生一同が関連に議論できる雰囲気を目指す。 4.受講生の希望に応じて、内容を変更することができる。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | ○ | ○ | 50 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 50 | レポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に採点済みのレポートを複写して返却する。 | | | | | |
| ポートフォリオ | — | — | — | — | | | | | | |
| その他 | — | — | — | — | | | | | | |
| 関連科目 | 犯罪学特講 | | | | 参考書・参考資料等 | 田中智仁2018『警備ビジネスで読み解く日本』光文社 田中智仁2012『警備業の分析視角』明石書店 田中智仁2009『警備業の社会学』明石書店 | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 田中智仁研究室:第5体育館3階33号室/tm-tanaka@sendai-u.ac.jp | | | | オフィスアワー | 木曜日 14:00~15:30 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|---------|---------|--|--|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント論特講 | | | | 担当教員 | 弓田恵里香 | | | | |
| | Sport Management | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツマネジメントとはどのような領域なのかを理解するため、多様な視点から概説する。「スポーツのマネジメント」や「スポーツによるマネジメント」という観点を通じて、スポーツマネジメントの特性、課題、可能性について検討していく。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツマネジメントに関する基本的な理解を深めるとともに、多様なスポーツマネジメント領域における課題に目を向け、それらの解決に向けた取り組みや方策について考察する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツマネジメントに関する基本的な枠組みや理論、スポーツマネジメント領域における課題について理解することができる | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | スポーツマネジメント領域における課題に興味・関心を持ち、それらについて考察することができる | | | | | | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 前半はスポーツマネジメントの基本的枠組について解説する。その後、様々なスポーツマネジメント領域に細分化し、各領域におけるマネジメントについて解説する。基本的には配布資料を用いて講義を進めるが、事前に資料を読み授業内で討議する機会や簡単な発表を行ってもらう機会もある。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | <p>[テーマ]オリエンテーション</p> <p>[内容]授業のアウトライン・進め方を説明する。受講者がこれまで経験してきたスポーツ関連現場における問題意識・関心などについて議論、共有する。</p> <p>[授業外学修] (60分)これまで各自が経験してきたスポーツ関連現場における課題等について整理しておく。</p> | 9 | <p>[テーマ]プロスポーツのマネジメント</p> <p>[内容]プロスポーツチーム、リーグ、ファンマネジメントなどにおける現状、重要となる点、課題、可能性について解説する。</p> <p>[授業外学修] (90分)関心あるプロスポーツチームやリーグを設定し、そこにおける課題と解決策について考察する。</p> | | | | | | | |
| 2 | <p>[テーマ]スポーツマネジメントの歴史的發展</p> <p>[内容]スポーツマネジメントの意味や必要性について、研究領域として発展してきた歴史的發展を踏まえながら解説する。</p> <p>[授業外学修] (120分)スポーツマネジメントの概念の再検討(松岡, 2010)に目を通し、国内でのスポーツマネジメントの発展経緯について整理する。</p> | 10 | <p>[テーマ]地域スポーツのマネジメント</p> <p>[内容]地域スポーツ振興の指針となるスポーツ推進計画を踏まえ、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域スポーツ振興に関するマネジメントについて解説する。</p> <p>[授業外学修] (90分)地元のスポーツ推進計画や総合型地域スポーツクラブについて調べ、どのような課題があるか整理する。</p> | | | | | | | |
| 3 | <p>[テーマ]マネジメントの基本的枠組み</p> <p>[内容]ドラッカーのマネジメント論を中心に、マネジメントに関する基礎的知識について解説する。</p> <p>[授業外学修] (90分)マネジメント論の枠組み、理論について整理する。</p> | 11 | <p>[テーマ]フィットネスクラブのマネジメント</p> <p>[内容]国内におけるフィットネスクラブの発展経緯、現状、課題を紹介し、重要となるマネジメント的視点について解説する。</p> <p>[授業外学修] (90分)注目するフィットネスクラブについて調べ、どのような経営戦略を立てているか考察する。</p> | | | | | | | |
| 4 | <p>[テーマ]スポーツプロダクト</p> <p>[内容]スポーツプロダクトの種類、特性、ベネフィットなどに着目し、その特異性について解説する。</p> <p>[授業外学修] (90分)スポーツプロダクトが他プロダクトとどのように異なるのか整理する。</p> | 12 | <p>[テーマ]スポーツファシリティのマネジメント</p> <p>[内容]スポーツ施設の現状を把握し、課題解決に関わるマネジメントの視点や理論について解説する。</p> <p>[授業外学修] (90分)注目するスポーツ施設について調べ、どのような課題があるか考察する。</p> | | | | | | | |
| 5 | <p>[テーマ]スポーツ消費者</p> <p>[内容]スポーツをする人や見る人に限らず、メディアやスポンサー、自治体などの多様なスポーツ消費者に目を向け解説する。</p> <p>[授業外学修] (90分)特に関心を持ったスポーツ消費者について、どのようなマネジメントが重要となるか整理する。</p> | 13 | <p>[テーマ]スポーツ統括団体のマネジメント</p> <p>[内容]国際競技連盟や国内のスポーツ統括団体に焦点を当て、それら統括団体の役割、現状、課題などについて解説する。</p> <p>[授業外学修] (90分)国際競技連盟や国内のスポーツ統括団体の役割について整理し、どのような課題があるか考察する。</p> | | | | | | | |
| 6 | <p>[テーマ]スポーツマーケティング</p> <p>[内容]スポーツマーケティングの枠組み、どのような目的や方法があるか、いくつかの事例に着目しながら解説する。</p> <p>[授業外学修] (60分)身近なスポーツ現場において、どのようなスポーツマーケティングの戦略が存在するか整理する。</p> | 14 | <p>[テーマ]スポーツを通じたマネジメント</p> <p>[内容]スポーツツーリズム、スポーツとまちづくりなど、スポーツを活用したスポーツマネジメントの領域について解説する。</p> <p>[授業外学修] (120分)地元を「スポーツで活性化する場合、どのような課題があり取り組みができるか考察する。</p> | | | | | | | |
| 7 | <p>[テーマ]スポーツ組織</p> <p>[内容]スポーツ組織の多様性を紹介した上で、組織におけるモチベーション、コミュニケーションや意思決定プロセス、リーダーシップなどについて解説する。</p> <p>[授業外学修] (120分)関心あるスポーツ組織を選び、その組織における課題と解決策について考えをまとめ、次回発表できるように準備する。</p> | 15 | <p>[テーマ]スポーツマネジメントの未来</p> <p>[内容]ニューメディア、ITやテクノロジー、ダイバーシティといった分野との関連性に目を向け、今後のスポーツマネジメントの課題や可能性について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)最終レポートを作成する。</p> | | | | | | | |
| 8 | <p>[テーマ]スポーツガバナンス</p> <p>[内容]スポーツ組織におけるガバナンスやコンプライアンスの重要性について議論する。</p> <p>[授業外学修] (90分)スポーツガバナンスの必要性や果たす役割について整理する。</p> | 16 | <p>[試験または課題]レポート課題</p> <p>[方法]スポーツマネジメントの概念の再検討(松岡, 2010)を読んだうえで、各自の関心に応じたスポーツマネジメント領域の課題と今後の可能性についてレポート作成する。</p> | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 授業外レポート(50%)、討議への関与の仕方・内容(50%)により評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | ・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することができない。 ・受講者の状況等により授業計画が変更となる可能性がある。 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | | | | | | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ○ | | 50 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | 発表やレポートに関しては、授業時に解説や評価を行うことでフィードバックとする。 | | | | |
| その他 | | ○ | ◎ | | 50 | | | | | |
| 関連科目 | スポーツマネジメント論演習、地域スポーツ論特講 | | | | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | 参考書・参考資料等 | 原田・小笠原編著(2008)『スポーツマネジメント』大修館書店 畑・小野里(2017)『基本スポーツマネジメント』大修館書店 山下ら編著(2016)『新しいスポーツマネジメント』大修館書店 | | | |
| 連絡先 | 弓田恵里香・A棟5階(er-yumita@sendai-u.ac.jp) | | | | | オフィスアワー | 弓田:火曜2コマ(10:20~11:50) | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|-------|---------|-----------|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント論演習 | | | | 担当教員 | 弓田恵里香 | | | | |
| | Seminar on Sport Management | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| <p>する・見る・支えるなど幅広いスポーツ関連分野におけるスポーツマネジメントの実際に関心をもち、研究等における理論や枠組み、方法論について検討する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| <p>「スポーツマネジメント」の基礎を理解した上で、各自の研究テーマにおけるスポーツマネジメントの視点に立った課題を発見し、それらの解決に向けた方法を検討、提示する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツマネジメント領域における理論、枠組み、方法論について理解できる | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | スポーツマネジメントの視点に立った課題に関心をもち、解決に向けた方策について考察できる | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | スポーツマネジメントの視点に立った課題の解決に向けた方法を提示することができる | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| <p>配布資料等を用いて概説する他、事前に読み込んだ研究資料に関して議論する機会も設ける。また、後半には具体的なケースに関して課題解決を行う実践形式の演習も行い、最後は受講者から発表してもらうこととなる。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | <p>[テーマ]オリエンテーション [内容]授業のアウトライン・進め方を説明する。受講者の問題意識・関心を共有する。</p> <p>[授業外学修] (60分)これまで各自が経験してきたスポーツ関連現場における課題等について整理しておく。</p> | | | | 9 | <p>[テーマ]スポーツ参加者に関する研究 [内容]スポーツ参加者に関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | |
| 2 | <p>[テーマ]スポーツマネジメント領域における調査研究方(量的研究) [内容]スポーツマネジメント領域ではどのような研究課題が存在し、どのような調査研究方法によってアプローチされているか、量的研究に焦点を当て検討する。</p> <p>[授業外学修] (60分)量的研究に関する留意点などについて整理する。</p> | | | | 10 | <p>[テーマ]スポーツ施設に関する研究 [内容]スポーツ施設に関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | |
| 3 | <p>[テーマ]スポーツマネジメント領域における調査研究方(質的研究) [内容]前回は引き続き、スポーツマネジメント領域に存在する課題、そしてそれらに対する調査研究方法について、今回は質的研究について理解を深める。</p> <p>[授業外学修] (180分)質的研究に関する留意点などについて整理する。次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | 11 | <p>[テーマ]地域スポーツに関する研究 [内容]地域スポーツに関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | |
| 4 | <p>[テーマ]プロスポーツ経営に関する研究 [内容]プロスポーツ経営に関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | 12 | <p>[テーマ]スポーツ組織に関する研究 [内容]スポーツ組織に関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | |
| 5 | <p>[テーマ]スポーツファンに関する研究 [内容]スポーツファンに関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | 13 | <p>[テーマ]スポーツメディアに関する研究 [内容]スポーツメディアに関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | |
| 6 | <p>[テーマ]スポーツイベントに関する研究 [内容]スポーツイベントに関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | 14 | <p>[テーマ]スポーツツーリズムに関する研究 [内容]スポーツツーリズムに関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (180分)次週のプレゼンテーションに向けて、文献を探索し、発表内容について検討、作成する。</p> | | | | |
| 7 | <p>[テーマ]スポーツスポンサーシップに関する研究 [内容]スポーツスポンサーシップに関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | 15 | <p>[テーマ]プレゼンテーション [内容]これまでの授業内容を踏まえ、自身の研究テーマに即した研究方法について調べ、実施するにあたりどのような課題があるかなどについて発表する。</p> <p>[授業外学修] (120分)授業内容やプレゼンテーションを踏まえ、最終レポートを提出する。</p> | | | | |
| 8 | <p>[テーマ]スポーツにおけるブランド研究 [内容]スポーツにおけるブランド研究に関する論文を用いて、その研究方法について議論する。</p> <p>[授業外学修] (120分)次週に向けて、指定された論文を読み研究方法について整理しておく。</p> | | | | 16 | <p>[試験または課題] [方法]授業外レポート</p> | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| <p>討議への関与の仕方・内容(50%)、プレゼンテーション(30%)授業外レポート(20%)により総合的に評価する。</p> | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することができない。 ・受講者の状況等により授業計画変更となることもある。 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | ◎ | ◎ | ○ | 20 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ◎ | ○ | 30 | 授業外レポートや発表に関しては、授業時に解説や評価を行うことでフィードバックとする。 | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | | | | | |
| その他 | | ○ | ◎ | | 50 | | | | | |
| 関連科目 | スポーツマネジメント論特講、地域スポーツ論特講 | | | | 参考書・参考資料等 | 「スポーツマネジメント研究」等の学術誌やケーススタディ資料(授業時に指示) | | | | |
| 教科書 | | | | | オフィスアワー | 弓田：火曜2コマ(10:20～11:50) | | | | |
| 連絡先 | 弓田恵里香：A棟5階(er-yumita@sendai-u.ac.jp) | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|--|---------|--|---|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 地域スポーツ論特講 | | | | 担当教員 | 永田秀隆 | | | | |
| | Sport in community | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。講義では、まず地域スポーツとも関連するスポーツ政策の現状について概説する。次に、わが国の地域の現状および地域の活性化の方法を解説した後、総合型地域スポーツクラブやスポーツイベントの意義や課題について考察する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツ政策、地域および地域の活性化、また地域スポーツの意義や課題等について理解できるようになる。さらに総合型地域スポーツクラブやスポーツイベントといったスポーツ事業が企画できる位の能力を身につける。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツ政策、地域の現状や地域活性化の方法、および地域スポーツの意義や課題について説明できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 地域と地域スポーツに興味・関心をもち、積極的に地域のスポーツイベント等に関与できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 総合型地域スポーツクラブやスポーツイベントといったスポーツ事業の企画ができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 授業テーマに沿った資料を用いた講義を中心とするが、より理解を深めるために視聴覚機材も用いる。また論文を輪読したり、各自地元や関心のある総合型地域スポーツクラブ等について調査し、発表を行う。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ]オリエンテーションおよび地域の概念 [内容]ガイダンス 地域社会あるいはコミュニティの概念、および日本のその現状や課題について解説する。 [授業外学習] (240分)事前にシラバスを熟読し、地域とは何か考えておくこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | 9 | [テーマ]総合型地域スポーツクラブの現状と課題(1) [内容]総合型地域スポーツクラブに関する論文等を通して、その現状や課題について解説する。 [授業外学習] (240分)事前に総合型地域スポーツクラブに関する論文を収集し、目を通しておくこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | | | | | | | |
| 2 | [テーマ]日本人のスポーツ参加の実態 [内容]日本人、特に成人のスポーツ参加の実態と課題について解説する。 [授業外学習] (240分)事前に日本におけるスポーツ参加に関するデータを収集し目を通しておくこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | 10 | [テーマ]総合型地域スポーツクラブの現状と課題(2) [内容]総合型地域スポーツクラブに関する論文等を通して、その現状や課題について議論する。 [授業外学習] (240分)事前に総合型地域スポーツクラブに関する論文の要旨をまとめ、論点を整理しておくこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | | | | | | | |
| 3 | [テーマ]国レベルのスポーツ政策 [内容]わが国のスポーツ政策について、諸外国との比較も含め、解説する。 [授業外学習] (240分)事前に国レベルのスポーツ政策について調べておくこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | 11 | [テーマ]地域のスポーツイベント等への関与(1) [内容]実際に地域で展開されているスポーツイベント等に関与するなどして、その実態を体験してみる。 [授業外学習] (240分)受講者全員で訪ねるか、個々で訪ねるか、状況により判断し実践する。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | | | | | | | |
| 4 | [テーマ]地方自治体のスポーツ政策 [内容]地方自治体におけるスポーツ政策について解説する。 [授業外学習] (240分)事前に身近な地方自治体のスポーツ政策について調べておくこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | 12 | [テーマ]地域のスポーツイベント等への関与(2) [内容]実際に地域で展開されているスポーツイベント等に関与するなどし実態を体験するとともに、合わせて課題等についても考えてみる。 [授業外学習] (240分)実践(関与)した結果を事前に整理しまとめておく。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | | | | | | | |
| 5 | [テーマ]地域の活性化とその方法 [内容]地域の活性化とは何か、またその具体的な方法について解説する。 [授業外学習] (240分)事前に地元等の地域活性化策について調べておくこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | 13 | [テーマ]総合型地域スポーツクラブの事業計画の作成(1) [内容]これまでの受講内容を踏まえ、総合型地域スポーツクラブの事業計画の作成に取りかかる。 [授業外学習] (240分)事前に実際の総合型地域スポーツクラブの事業計画を収集し、構想を練っておくこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | | | | | | | |
| 6 | [テーマ]総合型地域スポーツクラブとその理念 [内容]総合型地域スポーツクラブ関連のビデオを鑑賞するとともに、その理念について解説する。 [授業外学習] (240分)授業時に観たビデオ以外を鑑賞し、さらに事例の理解を深める。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | 14 | [テーマ]総合型地域スポーツクラブの事業計画の作成(2) [内容]これまでの受講内容を踏まえ、総合型地域スポーツクラブの事業計画の作成を継続し、情報交換をする。 [授業外学習] (240分)総合型地域スポーツクラブの事業計画案を作成し、事前に見てもらふこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | | | | | | | |
| 7 | [テーマ]総合型地域スポーツクラブの現状 [内容]スポーツ庁等の調査資料を紹介し、総合型地域スポーツクラブの現状を解説する。 [授業外学習] (240分)事前にスポーツ庁のHP上で総合型地域スポーツクラブに関する内容を目を通しておくこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | 15 | [テーマ]総合型地域スポーツクラブの事業計画の発表 [内容]これまでの受講内容を踏まえ、総合型地域スポーツクラブの事業計画案を発表し、お互いに評価する。 [授業外学習] (240分)事前に総合型地域スポーツクラブの事業計画案発表のためのPPT等を準備すること。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | | | | | | | |
| 8 | [テーマ]総合型地域スポーツクラブの先進事例 [内容]宮城県内などのいくつかの総合型地域スポーツクラブの先進事例を紹介する。 [授業外学習] (240分)事前に宮城県内などの総合型地域スポーツクラブについて調べておくこと。事後は授業で得られた情報をまとめておくこと。 | 16 | [試験または課題] [方法]レポート課題 | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 授業内レポートや授業への取り組み姿勢等(50%)、授業外レポート等(40%)やポートフォリオ(10%)の内容で評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | 評価対象外 | 自ら地元等の地域およびそこでのスポーツ活動に関心を持ち、できれば休日や休暇中に積極的に地域活動やスポーツ活動に参加し、観察や調査を行うなど現状を理解してほしい。 | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | 50 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | ◎ | ○ | 40 | コメント等をつけ返却する。 | | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | ◎ | 10 | 加点アリ | | | | | |
| ポートフォリオ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| その他(授業態度) | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | スポーツマネジメント論特講 | | | | 参考書・参考資料等 | ①柳沢和雄他編(2022)テキスト 体育・スポーツ経営学:第4刷,大修館書店 ②スポーツ庁、地方自治体、日本スポーツ協会、笹川スポーツ財団等、各団体のHP-冊子等 | | | | |
| 教科書 | 特になし | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 永田秀隆:A棟3F(hd-nagata@sendai-u.ac.jp) | | | | オフィスアワー | 火曜日2時限(10:20~11:50) | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|---------|---------------|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 野外・レクリエーション論特講 | | | | 担当教員 | 仲野隆士/井上望 | | | | |
| | outdoor leisure&recreation | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義・演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| この分野における基礎的な諸理論の解説の後、関連する先行研究や文献などを検討する。 野外教育やレジャー・レクリエーションについて理解を深める。また、野外スポーツや野外教育を様々なデータや事例を基に深く学習する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 野外教育・活動及びレジャー・レクリエーション領域における今日的な問題や課題、取り組みや楽しみ方などについて、深く理解することができる。 野外教育やレジャー・レクリエーションに関する用語を理解し、現代社会においてどのように活用されているかを学ぶ。野外活動・レジャースポーツなどの魅力や取り組み方を体験的に学習する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 野外教育・レジャー・レクリエーション領域の理論的背景を学び、この分野における研究動向や取り組みなどが理解できる | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 実際のアウトドアのフィールドでの実践や交流を通して、自分のエモーショナルな感性を再確認・発見する | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | アウトドアプログラムのPDCAサイクルを実施することで、野外における技術や技能を磨く | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 前半の授業は、講義と受講生によるプレゼンとディスカッションによって進行する。これによって、野外教育・レジャー・レクリエーション領域の理論的背景を把握する。後半の授業では、野外教育の理論と実際を講義並びに演習形式で理解する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | <p>[テーマ] 野外・レジャー・レクリエーションの諸理論を学ぶ</p> <p>[内容] オリエンテーション(授業概要)として、2名の教員による授業の進め方と基本的な方針について説明する。レジャー・レクリエーションの基礎理論について解説する</p> <p>[授業外学修] (600分) 『レクリエーションの行動科学』のコピーを配布するので、5回目の授業までに内容を確認しておく。また、次回取り上げる論文について事前学習する</p> | 9 | <p>[テーマ] 野外教育のマネジメント</p> <p>[内容] 企画してきたプログラムを発表し、野外教育のプログラムデザインについて議論を深める。プログラムの運営に必要なマネジメントについて解説する。</p> <p>[授業外学修] (120分) 企画した野外教育プログラムの修正を行い、予算計画をたてる。</p> | | | | | | | |
| 2 | <p>[テーマ] レジャー・レクリエーション関連の研究動向</p> <p>[内容] レジャー・レクリエーション研究所(財 日本レクリエーション協会)における研究論文について批判的に検討する</p> <p>[授業外学修] (180分) 次回の授業でディスカッションする配布論文について事前学習しておく。</p> | 10 | 10~15回の6回分の授業については、集中授業として実施する。 学外での野外宿泊施設に1泊2日の日程で宿泊し、受講生が事前に計画した野外・レクリエーション活動を実際に実施する。 | | | | | | | |
| 3 | <p>[テーマ] ホイジンガ・カイヨワのブレイン論、デマズディエの余暇論</p> <p>[内容] ホイジンガ・カイヨワのブレイン論並びにデマズディエの余暇論を取り上げ解説しディスカッションを深める。</p> <p>[授業外学修] (120分) 可能な範囲でホイジンガ・カイヨワ・デマズディエについて調べ、まとめておく。</p> | 11 | 担当(仲野・井上) | | | | | | | |
| 4 | <p>[テーマ] レクリエーションの行動科学から学ぶ</p> <p>[内容] レクリエーション関連の学位論文を基に作成された文献を取り上げ、レクリエーション関連論文のまとめかたについて解説する</p> <p>[授業外学修] (180分) 次回発表するプレゼンテーションのPPTスライドの作成及び発表練習(15分程度)をする。</p> | 12 | 担当(仲野・井上) | | | | | | | |
| 5 | <p>[テーマ] 授業内プレゼン</p> <p>[内容] 受講生がレジャー・レクリエーションに関する研究論文を取り上げ、内容に関するプレゼンテーションを行い、その後ディスカッションを行う</p> <p>[授業外学修] (120分) 5回の授業を振り返り、学習した事を整理するとともに個人の研究面で役立つ情報について簡単にまとめて提出する。</p> | 13 | 担当(仲野・井上) | | | | | | | |
| 6 | <p>[テーマ] 野外教育の研究動向</p> <p>[内容] 国内外における野外教育の研究の動向を紹介し、議論を深める。</p> <p>[授業外学修] (180分) 海外の野外教育領域の研究論文を検索し、10回目の授業で発表できるように日本語で抄録を作成する。</p> | 14 | 担当(仲野・井上) | | | | | | | |
| 7 | <p>[テーマ] 野外教育プログラムの理論的背景</p> <p>[内容] 野外教育プログラムの考え方や背景となっている理論を解説する。</p> <p>[授業外学修] (180分) 海外の野外教育領域の研究論文を検索し、10回目の授業で発表できるように日本語で抄録を作成する。</p> | 15 | 担当(仲野・井上) | | | | | | | |
| 8 | <p>[テーマ] 野外教育のプログラムデザイン</p> <p>[内容] 調べてきた事例を発表し、野外教育プログラムについて議論を深める。野外教育プログラムのデザインについて解説する。</p> <p>[授業外学修] (120分) 実現可能な野外教育プログラムを企画し、マネジメントの部分での問題点について考えておく。</p> | 16 | <p>[試験または課題]</p> <p>[方法] 各担当教員毎に課題を提示し、受講生に提出させ評価する。</p> <p>担当(仲野・井上)</p> | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 授業の出席を前提とし、プレゼン内容と資料作成内容、ディスカッションへの貢献度、PDCAサイクルへの貢献度と取り組み姿勢によって総合的に評価を行う。後半は集中授業とし、実際に野外施設に宿泊し、計画した野外・レクリエーション活動を実施し体験的に学びを深める。また、15回目の授業終了時に各自が作成したポートフォリオを提出させ、内容により加点する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | 野外教育・レジャー・レクリエーション領域は実践的な学問である。そこで、授業では理論解説や実践事例の紹介を行った上で、受講生のディスカッションを行ったり、実践をイメージした課題に取り組んでもらうが、積極的に関わってもらいたい。 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | | | | 30 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | | 30 | | | | | |
| ポートフォリオ | ○ | | | | 30 | 提出されたレポート等については、教員が確認後コメントを記して本人に返却する。 | | | | |
| その他 | ○ | | ○ | | 10 | | | | | |
| 関連科目 | スポーツ科学概論(含、研究倫理)、スポーツマネジメント論特講 スポーツマネジメント論演習 | | | | 参考書・ 参考資料等 | ①池田勝・永吉宏英・西野仁・原田宗彦共著「レクリエーションの基礎理論」杏林書院、1989。②二宮浩彰筆「レクリエーションの行動科学」不昧堂出版、2007。③星野敏男・金子和正監修「野外教育の理論と実際」杏林書院、2011 | | | | |
| 教科書 | 指定なし | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 仲野研究室:A508 井上研究室:5体3階 | | | | オフィスアワー | 仲野:金曜2限 井上:木曜2限 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--------------------------|---|---------|-----------------------------|--|-------|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツ史特講 | | | | | 担当教員 | 藪 耕太郎 | | | |
| | 英語表記 | Topics in Sports History | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツは単なる気晴らしではない。それはまた、教育のみを目的とするものでもなければ、レクリエーションをその本質とするわけでもなく、ましてや競技的性格のみにその意味や役割を見出すこともできない。それでは果たしてスポーツとは何なのだろうか。この問題について、「労働と余暇」「規律と訓練」というテーマから考察することを、本講義の目的とする。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| ①スポーツ史を歴史学・社会学的な観点から解明する上で必要な知見の獲得 ②上記の知見を通じてスポーツを歴史的に追究できる能力の獲得 ③上記①②を、スポーツを取り巻く現状や課題と関連付けて考察できる能力の獲得 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツ史を歴史的な観点から解明する上で必要な知見を理解することができる | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | スポーツを歴史的に追究できる能力をもとに、スポーツを取り巻く現状や課題と関連付けて考察することができる | | | | | | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 教員が配布するレジメに基づいて講義を行う。レジメは各テーマごとにまとまった量を配布するので、各自事前に予習しておくこと。なお、各テーマの講義の深化を目的として、適宜討論の時間を講義時間中に設ける。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] ガイダンス [内容] 授業進行その他についての相互確認、および授業全体のテーマ設定についての説明 [授業外学修] (240分) シラバスの確認および参考書などの熟読 | 9 | [テーマ] 規律と訓練① [内容] 身体の管理 [授業外学修] (240分) M.フーコー『監獄の誕生』を読んでおく | | | | | | | |
| 2 | [テーマ] 労働と余暇① [内容] 古代オリンピックの成立と展開 [授業外学修] (240分) H.アーレント『人間の条件』を読んでおく | 10 | [テーマ] 規律と訓練② [内容] 健康観の変遷 [授業外学修] (240分) R. プロクター『健康帝国ナチス』を読んでおく | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] 労働と余暇② [内容] 古代ローマの余暇と政治 [授業外学修] (240分) P.プラントリッガー『パンとサーカス』を読んでおく | 11 | [テーマ] 規律と訓練③ [内容] 運動会とラジオ体操 [授業外学修] (240分) 吉見俊哉ら編著『運動会と日本近代』を読んでおく | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 労働と余暇③ [内容] ヨーロッパ近世社会における余暇 [授業外学修] (240分) R.マーカムソン『英国社会の民衆娯楽』を読んでおく | 12 | [テーマ] 規律と訓練④ [内容] スポーツと日本近代1(明治編) [授業外学修] (240分) 坂上康博『イデオロギー装置としてのスポーツ』を読んでおく | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 労働と余暇④ [内容] 近代イギリスにおける労働と余暇1(労働者階級) [授業外学修] (240分) 浜林正夫『パブと労働組合』を読んでおく | 13 | [テーマ] 規律と訓練⑤ [内容] スポーツと日本近代(大正・昭和初期編) [授業外学修] (240分) 坂上康博『イデオロギー装置としてのスポーツ』を読んでおく | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] 労働と余暇⑤ [内容] 近代イギリスにおける労働と余暇2(市民権) [授業外学修] (240分) 綾部 恒雄(監修)『結社のイギリス史』を読んでおく | 14 | [テーマ] 規律と訓練⑥ [内容] スポーツと武道 [授業外学修] (240分) 井上俊『武道の誕生』をよんでおく | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] 労働と余暇⑥ [内容] 大衆消費社会における労働と余暇 [授業外学修] (240分) T.ウェブレン『有閑階級の理論』を読んでおく | 15 | [テーマ] 規律と訓練⑦ [内容] 後半まとめ [授業外学修] (240分) 齋藤純一『公共性』を読んでおく | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] 労働と余暇⑦ [内容] 前半まとめ [授業外学修] (240分) N・エリアス『スポーツと文明化』を読んでおく | 16 | [試験または課題] 課題:スポーツを通じて歴史・社会を読むことの意味 [方法] 本講義の理解度および習熟度を総合的に判定する。 | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 授業への積極的な参加姿勢(50%)、授業外レポート(50%)とする。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | 積極的な受講姿勢(発言・質問その他)を強く望む。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | | | | | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | | 50% | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | | | | | |
| その他 | ○ | ○ | | 50% | 授業時間を通じて適宜フィードバックする。 | | | | | |
| 関連科目 | 人文学・社会科学系の全科目 | | | | | | | | | |
| 教科書 | なし | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 藪研究室(A棟305) E-mail:kt-yabu@sendai-u.ac.jp | | | | 参考書・参考資料等 | 上述の著作・論考の他、有賀郁敏編『近代ヨーロッパの探究8-スポーツ』2002、ミネルヴァ書房、および高津勝『日本近代スポーツ史』1995、創文企画を特に薦める。 | | | | |
| | | | | | オフィスアワー | 前期:月曜2コマ 後期:水曜2コマ | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|-------|---------|---------|---|-----------|--|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツコーチング論特講 | | | | | 担当教員 | 森本吉謙 | | | |
| | Sports Coaching theory | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| <p>スポーツ指導者の実務的な機能と役割は、選手の競技力向上を目的とした助言や助動的な行為といった直接的なコーチングに留まらず、スポーツ組織のマネジメントやトレーニング計画の立案、管理など多様性を持つものとなる。本講義では、そうした全体構造を踏まえて、コーチングの実践的理論について講述する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| <p>コーチングの一般体系と全体構造を知り、そこで求められる指導者の能力を理解する。そして、実際に指導をしていく上での様々な具体的な方法論を理論に基づき学ぶ。そこには、組織運営上のマネジメント側面およびトレーニング計画を立案、管理する選手育成の内容も含まれる。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 指導者の役割と実務を理解し、指導上の具体的な方法論について理論に基づき説明できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | コーチングにおいて、適切且つ段階的な配慮が出来る。 | | | | | | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| <p>本講義では、前半には競技組織(集団)の構造や、そこでの指導者の機能および役割から、指導者に求められるコーチングのマネジメント側面について解説する。後半は選手育成の側面から、スポーツトレーニングの構造的特徴およびトレーニング計画立案に際しての基本構成原理と方法論について、競技理論に基づいて講述する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | <p>[テーマ] 講義ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修](120分) 資料に基づき次回授業に対する内容の予習を行う</p> | | | | | 9 | <p>[テーマ] トレーニング課題と手段、方法の関係 [内容] トレーニングにおける「手段-方法-課題」の対応関係を説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | |
| 2 | <p>[テーマ] 指導者(コーチ)とは何か? [内容] 指導者の存在形態の多様性について説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | 10 | <p>[テーマ] トレーニングの原則 [内容] トレーニングの原則についてそれぞれの特性を説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | |
| 3 | <p>[テーマ] 指導者・選手関係の段階的変化 [内容] 選手の発達や競技力の変化に伴う指導者と選手の関係の在り方を説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | 11 | <p>[テーマ] 筋収縮の種類と筋力向上 [内容] 身体活動における筋収縮の種類と特徴および筋力の向上について説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | |
| 4 | <p>[テーマ] 指導者の実務的な機能と役割 [内容] 指導者にはどのような機能があり役割を果たしているか説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | 12 | <p>[テーマ] トップスポーツにおける筋力問題 [内容] 筋力向上がもたらす効果と内在する諸問題について説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | |
| 5 | <p>[テーマ] 競技組織における基本構造ブロック [内容] 競技組織(集団)における基本的な構造について説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | 13 | <p>[テーマ] スピード養成の基礎とスピード障害 [内容] スピード養成に関する基本的理論とスピード障害について説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | |
| 6 | <p>[テーマ] 競技組織の基本類型 [内容] 様々なタイプの競技組織の基本的な構造を説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | 14 | <p>[テーマ] 持久力のタイプと特徴 [内容] 運動における持久力のタイプとそれぞれの特徴について説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | |
| 7 | <p>[テーマ] 競技組織のライフサイクル・モデル [内容] 組織構造が諸引力(目標、理念)に導かれどのように変化していくか説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | 15 | <p>[テーマ] 巧緻性向上に対するアプローチ [内容] 巧緻性の向上をねらうランダム練習とブロック練習の特徴について説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、課題に向けた準備をしておく(60分)</p> | | | |
| 8 | <p>[テーマ] スポーツトレーニングの多面性と多義性 [内容] スポーツトレーニングに内在する多面性と多義性について説明する [授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | 16 | <p>[試験または課題] [方法] 授業の理解度・到達度を確かめるためにレポート課題を課す</p> | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| <p>期末に課すレポートにより評価を行う(評価割合80%)。また、授業内レポートを課す(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。</p> | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | ◎ | | | 80 | 私語、遅刻等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。授業計画は授業の進み方により前後する場合があります。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | ◎ | | 20 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | 試験の結果は、当該期の成績へと反映され、授業内の小テストやレポートは、返却時に内容について解説を実施する。 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | スポーツコーチング論演習 | | | | | 参考書・参考資料等 | Mintzberg on Management (Mintzberg), スポーツ・トレーニング理論(村木征人), スポーツマンと体力(ザチオルスキー) | | | |
| 教科書 | | | | | | オフィスアワー | 水曜日 14:20~15:50 | | | |
| 連絡先 | 研究室:A棟4階405 | | | | | オフィスアワー | 水曜日 14:20~15:50 | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---|---------|---|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツコーチング論演習 | | | | 担当教員 | 森本 吉謙 | | | | |
| | Sports Coaching seminar | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| <p>スポーツ指導者が選手育成あるいは組織マネジメントを遂行する際に直面する諸問題(課題)に対して、如何にして選手あるいは組織をより望ましい方法へと導くべきかについて、また、指導計画が現実的に機能するのか、そうでない場合にはどのように計画を修正、変更していくべきか議論していく。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| <p>コーチングの一般体系と全体構造を踏まえ、実践の場で起こりうる諸問題(課題)に対する様々な側面を理解する。そして、それらに如何にして対応すべきか議論を重ねることで、実践的なコーチング能力を身に付けていく。そこには、選手の育成方法のみならず、組織マネジメントを含めたより広義的な意味でのコーチングも含まれる。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツ実践の場での諸問題(課題)を理解する | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 事象に対して多面的な見解を示せるようになる | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 実践的なコーチング能力を身に付ける | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| <p>本演習では、テーマに沿って毎回示されるトピックスに対して、その理論的内容が実践の場において現実的に如何に機能していくのか、あるいは適宜どのように修正していく必要があるのか議論をし、スポーツ指導者としての対応能力を養っていく。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | <p>[テーマ] 講義ガイダンス</p> <p>[内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法</p> <p>[授業外学修](120分) 資料に基づき次回授業に対する内容の予習を行う</p> | 9 | <p>[テーマ] トレーニングにおける量と強度と質</p> <p>[内容] トレーニングにおける負荷の量と強度と質の関係について議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | | | |
| 2 | <p>[テーマ] トレーニング構成の原理</p> <p>[内容] トレーニング構成上の一般原理について議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | 10 | <p>[テーマ] トレーニングと脱トレーニングの時間関係</p> <p>[内容] トレーニング内容と期間の組み合わせ方から脱トレーニングの状態を議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、課題に向けた準備をしておく(60分)</p> | | | | | | | |
| 3 | <p>[テーマ] トレーニング構成における一般性・専門性の原理</p> <p>[内容] トレーニング計画上の一般的内容と専門的内容の関係性について議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | 11 | <p>[テーマ] トレーニング構成の基本単位</p> <p>[内容] トレーニングを構成する、課業、ミクロ、メゾ、マクロの基本単位について議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | | | |
| 4 | <p>[テーマ] トレーニング構成における連続性・逐次性の原理</p> <p>[内容] トレーニング内容の配列に関して連続性・逐次性の観点から議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | 12 | <p>[テーマ] スポーツトレーニング構成の実際①(トレーニング課業)</p> <p>[内容] トレーニング構成上のトレーニング課業のあり方について議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | | | |
| 5 | <p>[テーマ] トレーニング構成における漸新性の原理</p> <p>[内容] 漸進的なトレーニング内容の変化がもたらす効果について議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | 13 | <p>[テーマ] スポーツトレーニング構成の実際②(ミクロ周期)</p> <p>[内容] ミクロ周期におけるトレーニング構成の実例をもとに議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | | | |
| 6 | <p>[テーマ] トレーニング構成における波状性の原理</p> <p>[内容] トレーニング構成における波状性の原理の理論と実際について議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | 14 | <p>[テーマ] トレーニング構成の実際③(メゾ周期)</p> <p>[内容] メゾ周期におけるトレーニング構成の実例をもとに議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | | | |
| 7 | <p>[テーマ] 競技的状態の周期特性と期分け</p> <p>[内容] 競技的状態の周期特性(形成、維持、消失)について期分けと共に議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | 15 | <p>[テーマ] トレーニング構成の実際④(マクロ周期)</p> <p>[内容] マクロ周期におけるトレーニング構成の実例をもとに議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | | | | | | | |
| 8 | <p>[テーマ] 競技的状態の総合的指標</p> <p>[内容] 競技的状態(スポーツフォーム)の評価基準と競技達成率の関係を議論する</p> <p>[授業外学修](120分) 今回の授業の要点を整理し(60分)、次回授業の内容を予習しておく(60分)</p> | 16 | <p>[試験または課題]</p> <p>[方法] 授業の理解度・到達度を確かめるためにレポート課題を課す</p> | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| <p>期末に課すレポートにより評価を行う(評価割合80%)。また、授業内レポートを課す(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。</p> | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | ◎ | | | 80 | 私語、遅刻等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。授業計画は授業の進み方により前後する場合があります。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | ◎ | | 20 | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | 試験の結果は、当該期の成績へと反映され、授業内の小テストやレポートは、返却時に内容について解説を実施する。 | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | スポーツコーチング論特講 | | | | 参考書・参考資料等 | スポーツ・トレーニング理論(村木征人)、スポーツマンと体力(ザチオルスキー) | | | | |
| 教科書 | | | | | 参考書・参考資料等 | | | | | |
| 連絡先 | 研究室:A棟4階405 | | | | オフィスアワー | 木曜日 14:20~15:50 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|---|---------|---------|---|---------------------|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツバイオメカニクス特講 | | | | 担当教員 | 宮西智久/柴山一仁 | | | | |
| | Sport Biomechanics | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力(外力と内力)が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講では、学部で学習したスポーツバイオメカニクスの基礎事項を復習すると同時に、力学的な力がわれわれのスポーツや身体運動に及ぼす影響を、具体的な例を挙げて発展的に考証する。コラム的にスポーツバイオメカニクス研究の最新情報を紹介する。受講生の理解度に応じて授業を進める。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツバイオメカニクスとは何かを理解し、体育・スポーツの技術指導やトレーニング場面で直面する問題を解決するにあたってスポーツバイオメカニクスの知識や知見を高度に活用・応用することができる。すなわち、身近な体育・スポーツ運動について、合理的(効果的・効率的)な運動や安全な運動とは何かをスポーツバイオメカニクスの観点から科学的に捉え直し、活用・応用することができるようになる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツバイオメカニクスで用いるキー概念や専門語の意味について理解し、体育・スポーツ運動現象について論理的に説明することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | スポーツの運動における実践的主観を客観化することによって興味や関心を深める。 | | | | | | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 本講義は大きく6つのパートから構成されている。すなわち、パートI:スポーツバイオメカニクス序説(1回)、パートII:キネマティクス(並進運動のキネマティクス2回、回転運動のキネマティクス2回)、パートIII:キネティクス(並進運動のキネティクス3回、回転運動のキネティクス3回)、パートIV:仕事・エネルギー・パワー(1回)、パートV:流体力学(1回)、パートVI:筋収縮の力学(2回)。本講は、これらのパートについて順に系統だてて進められる。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | <p>[テーマ] スポーツバイオメカニクス序説</p> <p>[内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行った後、スポーツバイオメカニクスの歴史をひも解き、定義、目的、現代的意義を述べる。</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第1章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | 9 | <p>[テーマ] 回転運動のキネティクス I</p> <p>[内容] 力のモーメント(トルク)、回転運動の発生、力のモーメント計算</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第6章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | | | | | | | |
| 2 | <p>[テーマ] 力学と数学の基礎 / 並進運動のキネマティクス I</p> <p>[内容] 力学モデル、運動の形態(並進/回転/一般)と種類(等速/等加速度/加速度)、スカラー量とベクトル量、ベクトルの加算・減算、三角関数、行列、微分・積分、SI単位</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第2・3章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | 10 | <p>[テーマ] 回転運動のキネティクス II</p> <p>[内容] つり合い、てこの原理、重心とその測定法、重心の性質、姿勢の安定、慣性モーメント、平行軸の定理</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第6章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | | | | | | | |
| 3 | <p>[テーマ] 並進運動のキネマティクス II</p> <p>[内容] 位置、速度、加速度、加速度の正負、加速度と力の関係、等速度運動と等加速度運動、放物運動</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第3章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | 11 | <p>[テーマ] 回転運動のキネティクス III</p> <p>[内容] ニュートンの運動の三法則の回転版、回転の運動方程式、角運動量と角力積、角運動量保存の法則</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第6章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | | | | | | | |
| 4 | <p>[テーマ] 回転運動のキネマティクス I</p> <p>[内容] 角度、角速度、角加速度、角加速度の正負、角加速度と力のモーメントの関係</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第4章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | 12 | <p>[テーマ] 仕事・エネルギー・パワー</p> <p>[内容] 仕事と力、仕事と力学的エネルギー、衝突と力学的エネルギーの保存、仕事とパワー、パワーと力学的エネルギー、エネルギーの変換、力学的効率</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第7章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | | | | | | | |
| 5 | <p>[テーマ] 回転運動のキネマティクス II</p> <p>[内容] 回転運動変量の方向、角速度と速度の関係、等速円運動と等角加速度運動</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第4章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | 13 | <p>[テーマ] 流体力学:空気や水による力</p> <p>[内容] 物質の三態、アルキメデスの原理、浮力と浮心、層流と乱流、流体力(抗力・揚力)、ベルヌーイの定理、マグヌス効果</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第8章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | | | | | | | |
| 6 | <p>[テーマ] 並進運動のキネティクス I</p> <p>[内容] 力、力の三要素、ニュートンの運動の三法則の並進版、ダランベールの原理</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第5章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | 14 | <p>[テーマ] 筋収縮の力学 I</p> <p>[内容] 筋の種類と構造・機能、骨格筋の力発揮特性(カー長さ関係、カー速度関係、カーパワー関係)、筋収縮モデル</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第9章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | | | | | | | |
| 7 | <p>[テーマ] 並進運動のキネティクス II</p> <p>[内容] いろいろな力(万有引力と重力、垂直抗力と摩擦力、外力と内力)、運動量と力積、運動量保存の法則</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第5章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | 15 | <p>[テーマ] 筋収縮の力学 II</p> <p>[内容] 身体外部の物体へ発揮する力、関節モーメントの発生、筋張力計算、筋張力発揮増大に関わる要因</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第9章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | | | | | | | |
| 8 | <p>[テーマ] 並進運動のキネティクス III</p> <p>[内容] フリーボディダイアグラム、並進の運動方程式、加速度と力・速度・変位の関係</p> <p>[授業外学習](240分) 教科書第5章および巻末関連文献・参考図書の予習ならびに復習</p> | 16 | <p>[試験または課題]</p> <p>[方法] 試験、課題レポートの提出</p> | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 定期試験、課題レポート、授業態度等から総合的に判断する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | ◎ | | | 80 | ・学部開講のスポーツバイオメカニクスまたはバイオメカニクスの単位修得者。 ・教科書を必ず持参すること。教科書を持参しない者は減点します。 ・筆記用具・ノート・関数電卓を持参すること。 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | | | | - | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 解答の解説。 | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | | | 20 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | - | | | | | |
| その他 | | | | | - | | | | | |
| 関連科目 | スポーツバイオメカニクス演習 | | | | | Robertson, DGE著「Introduction to Biomechanics for Human Motion Analysis」Waterloo Biomechanics Hay, JG著「スポーツ技術のバイオメカニクス」Prentice Hall 阿江・藤井著「スポーツバイオメカニクス20講」朝倉書店 金子・福永編「バイオメカニクス」杏林書院 | | | | |
| 教科書 | 宮西編著「スポーツバイオメカニクス」化学同人 宮西著「スポーツバイオメカニクス完全準拠ワークブック」化学同人 その他:プリント配布 | | | | | 参考書・参考資料等 | | | | |
| 連絡先 | 管理研究棟4FA404(宮西), A415(柴山)号室 | | | | | オフィスアワー | 木曜日5時限(16:00~17:30) | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|-------|---------|---------|--|-----------|--|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツバイオメカニクス演習 | | | | | 担当教員 | 宮西智久/柴山一仁 | | | |
| | Research Method in Sport Biomechanics | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツバイオメカニクスにおける各種研究法の測定原理について学習した後、実験を通してデータ収集・解析・処理法について学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツバイオメカニクスの各種研究法について理解し、データ収集・解析・処理法の基礎的事項を学習する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツバイオメカニクス研究法に関する専門的基礎知識を理解することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | スポーツの運動における実践的主観を客観化することによって興味や関心を深める。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | スポーツバイオメカニクスの各種データ測定および処理解析法の基礎を修得することができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 本演習は、スポーツバイオメカニクス研究法の【理論編】【実験編】【データ解析編】から構成される。【理論編】では各種研究手法の測定原理やデータ解析法について解説する。【実験編】では各種研究法を用いた簡単な実験を行う。【データ解析編】ではデータ収集・解析・処理作業を行う。なお、時間的な関係から、主な研究法を集中的に取り上げて授業を進行する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ]【理論編】スポーツバイオメカニクス研究法概論 [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行った後、スポーツバイオメカニクス研究法を概説する。 | | | | | 9 | [テーマ]【実験編】フォースプラットフォーム法 [内容] 地面反力計測実験(例、垂直跳び、投打動作) | | | |
| 担当(全員) | [授業外学習](120分) 教科書「はじめに」予習 | | | | | 担当(柴山) | [授業外学習](120分) 教科書関連事項の予習ならびに復習 | | | |
| 2 | [テーマ]【理論編】2次元・3次元キネマティクス分析 [内容] 位置の記述、自由度、キネマティクスデータの収集、並進および回転運動のキネマティクス、座標系、移動座標系、座標変換、関節角、セグメント角、まとめ | | | | | 10 | [テーマ]【データ解析編】データ解析・処理① [内容] 身体測定点の座標データの数量化(デジタイジング) | | | |
| 担当(宮西) | [授業外学習](120分) 教科書第1・2章、配布プリント、参考書の予習ならびに復習 | | | | | 担当(柴山) | [授業外学習](120分) 教科書関連事項の予習ならびに復習 | | | |
| 3 | [テーマ]【理論編】2次元・3次元キネティクス分析 [内容] 逆動力学解析法、数値計算、分割法、3次元分析データ、人定計測法、まとめ | | | | | 11 | [テーマ]【データ解析編】データ解析・処理② [内容] 身体測定点の座標データのデータ修正、データ平滑化・補間など | | | |
| 担当(宮西) | [授業外学習](120分) 教科書第5・7章、配布プリント、参考書の予習ならびに復習 | | | | | 担当(柴山) | [授業外学習](120分) 教科書関連事項の予習ならびに復習 | | | |
| 4 | [テーマ]【理論編】身体部分慣性係数(BSP)、力とその測定法 [内容] BSPの測定法・推定法、ニュートンの運動法則、フリーボディダイアグラム、力のモーメント、力積と運動量、角力積と角運動量、力の測定(フォースプレートほか)、まとめ | | | | | 12 | [テーマ]【データ解析編】データ解析・処理③ [内容] 3次元モーションキャプチャ法を用いたデータの収集と処理 | | | |
| 担当(宮西) | [授業外学習](120分) 教科書第3・4章、配布プリント、参考書の予習ならびに復習 | | | | | 担当(柴山) | [授業外学習](120分) 教科書関連事項の予習ならびに復習 | | | |
| 5 | [テーマ]【理論編】エネルギー・仕事・パワー分析 [内容] 熱力学の法則、力学的エネルギーの保存、エルゴメトリー(直接的、間接的測定法)、力学的効率、まとめ | | | | | 13 | [テーマ]【データ解析編】データ解析・処理④ [内容] 地面反力データの解析・処理 | | | |
| 担当(宮西) | [授業外学習](120分) 教科書第6章、配布プリント、参考書の予習ならびに復習 | | | | | 担当(柴山) | [授業外学習](120分) 教科書関連事項の予習ならびに復習 | | | |
| 6 | [テーマ]【実験編】2次元画像解析法 [内容] 2次元動作実験(例、垂直跳び) | | | | | 14 | [テーマ]【データ解析編】データ解析・処理⑤ [内容] コンピュータプログラミング(言語)を用いた各種バイオメカニクスパラメータの算出 | | | |
| 担当(宮西) | [授業外学習](120分) 教科書関連事項の予習ならびに復習 | | | | | 担当(柴山) | [授業外学習](120分) 教科書関連事項の予習ならびに復習、各種コンピュータプログラム自習 | | | |
| 7 | [テーマ]【実験編】3次元画像解析法 [内容] 3次元動作実験(例、投打動作、ハードル走) | | | | | 15 | [テーマ]【データ解析編】データ解析・処理⑥ [内容] コンピュータプログラミング(言語)を用いた各種バイオメカニクスパラメータの算出 | | | |
| 担当(宮西) | [授業外学習](120分) 教科書関連事項の予習ならびに復習 | | | | | 担当(柴山) | [授業外学習](120分) 教科書関連事項の予習ならびに復習、各種コンピュータプログラム自習 | | | |
| 8 | [テーマ]【実験編】3次元モーションキャプチャ法 [内容] 3次元動作実験(例、垂直跳び、投打動作) | | | | | 16 | [試験または課題] [方法] 課題レポートの提出 | | | |
| 担当(宮西) | [授業外学習](120分) 教科書関連事項の予習ならびに復習 | | | | | 担当(全員) | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 課題レポート、授業態度等から総合的に判断する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | — | ・スポーツバイオメカニクス特講の受講者。 ・教科書を必ず持参すること。教科書を持参しない者は減点します。 ・筆記用具・ノート、関数電卓を持参すること。 ・実験やデータ解析は、作業上、他の曜日(土日、祝日、冬季休業日含む)に集中的に実施します。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | | ◎ | 60 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 課題の解説。 | | | | | |
| 授業外レポート | | | ○ | 40 | | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | — | | | | | | |
| その他 | | | | — | | | | | | |
| 関連科目 | スポーツバイオメカニクス特講 | | | | | | | | | |
| 教科書 | Robertson,DGE他著(阿江・宮西他訳)「身体運動のバイオメカニクス研究法」大修館書店 その他:プリント配布 | | | | | 参考書・参考資料等 | Winter, DA著(長野他訳)「バイオメカニクス」ラウトフラット 日本バイオメカニクス学会「バイオメカニクス研究」他学会誌論文 | | | |
| 連絡先 | 管理研究棟4FA404(宮西), A415(柴山)号室 | | | | | オフィスアワー | 木曜日5時限(16:00~17:30) | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|---------------------------------|------------|--|--|------------------|------------|---|------|---|
| 授業科目名 | トップスポーツコーチング演習 | | | | 担当教員 | 鈴木良太/南條充寿/阿部肇 | | | | |
| | 英語表記 | Advance Sports Coaching Seminar | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| ①指定されたトップレベルのコーチング現場へ指導者として体験的参加する機会を提供し、(受講者が)競技者側のニーズや課題などについて学んだことをテーマに、コーチングの本質や最新の情報を論述する。②専門分野と異なった競技のコーチング体験機会を提供し、(受講者が)自らのコーチング能力向上に必要な考え方や情報、方法等を分析的に解説する。(学習者同士のディスカッションの中から自ら発見することを重視する) | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| トップレベルのコーチングは高度化し、複雑化している。ここでは、社会のニーズや公共性、公益性を求められるトップコーチングのあり方やその方法等を、実際のトップコーチおよびスタッフから体験的に学び取る。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 現場コーチングを行なうにあたっての自己の課題を知り、併せてトップコーチングに不可欠な指導者の考え方や心構え、専門性などを理解する | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | トップコーチングのあり方や現場の課題など、体験をとおしてその本質と対峙する | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 競技者やチームの目的達成のために不可欠なトップコーチングの基礎スキルを体験し、その方法やトレーニング法について知る | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 授業は、トップコーチの活動現場において実施することを主体とする。具体的には、講師(トップコーチ)から自らのコーチング哲学や方針や指導上の留意点、課題などのプレゼンテーション、講師とのディスカッションの後に、観察視点や体験学習のポイントを明らかにして現場学習に臨む。現場学習の後は、講師への質疑応答(振り返り)などを行なう。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容] トップレベルの選手とコーチの特性などを考えさせ、履修者内でディスカッションする。 担当 (鈴木) | [授業外学修] (60分) | 9 | [テーマ] Team JAPANの競技力向上のシステム [内容] ナショナルトレーニングセンターの活用とその実態について考える。オリンピックにおいてメダル獲得を目指す、各競技団体の競技力向上の実際を考える。柔道競技におけるその実際と海外におけるシステムを比較し、今後を考える。 担当 (南條) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | | | | |
| 2 | [テーマ] 選手の才能を引き出す [内容] 競技者の思考状態をどのようにすることで、効果的なトレーニングが実践できるのか考える。決断力とメンタルの強化の重要性を考える。哲学(信念)を持って活動することの重要性と何よりも実践することが自信につながることを考える。 担当 (阿部) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | 10 | [テーマ] 競技力向上に必要なコーチングの要素1 [内容] コーチングについて必要な技術(コミュニケーション、プレゼンテーション)について、現状とその対策を考える。 担当 (南條) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | | | |
| 3 | [テーマ] 団体競技に求められるコミュニケーション1 [内容] 言語技術:自身が伝えたいことが、相手に確実に伝わっているのかを考える。 担当 (阿部) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | 11 | [テーマ] 競技力向上に必要なコーチングの要素2 [内容] 日本の現状を理解し、より良いコーチングの環境が整えられるよう、今後の対策を考える。 担当 (南條) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | | | |
| 4 | [テーマ] 団体競技に求められるコミュニケーション2 [内容] 言語技術:トップアスリートの個性を引き出すためのコミュニケーション。 担当 (阿部) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | 12 | [テーマ] 競技力向上に重要なことは? [内容] 競技力向上に重要であると思うことについてディスカッション形式で考える。 担当 (鈴木) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | | | |
| 5 | [テーマ] ボート競技の取り組み1 [内容] ボート競技の競技力向上のための取り組み。 「チームビルディング」 担当 (阿部) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | 13 | [テーマ] 理想のコーチング像1 [内容] 理想と現実のギャップについて考える。 担当 (鈴木) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | | | |
| 6 | [テーマ] ボート競技の取り組み2 [内容] 日本代表選手、オリンピック選手とのディスカッション。どのような思考、実践、取り組みを行っているのか聞き出す。 担当 (阿部) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | 14 | [テーマ] 理想のコーチング像2 [内容] 国際的な指導者のコーチングを例に考える。 担当 (鈴木) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | | | |
| 7 | [テーマ] オリンピックスポーツの歴史 [内容] オリンピックスポーツにおける意義をその歴史からみていく。 担当 (南條) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | 15 | [テーマ] メダリストを育成するためには? [内容] 日本国内、国際大会でメダルを獲得するために必要なコーチングについて考える。 担当 (鈴木) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | | | |
| 8 | [テーマ] オリンピック開催における目的と国家の狙い [内容] オリンピック開催におけるその競技者と競技団体の目的をみていく。国家の戦略についてもシステムを中心にみていく。 担当 (南條) | [授業外学修] (60分) | 振り返りレポート作成 | 16 | [試験または課題] レポート提出 [方法] これまでを振り返り、チーム、個人にとらわれることなく、これから実際にコーチングの現場に携わったことを想定させ、そのコーチングの方法、リスクマネジメント、運営等について考えてレポートを提出する。 担当 (鈴木) | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 積極的な授業参加と振り返りにおけるディスカッションの態度や内容等 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合 (%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | 以下の視点を念頭において授業に参加すること。 ・物事すべてを深く(観察)することから始まる。 ・学ぶことを忘れては指導することも忘れてはならない。 ・教育の価値は事実をすることではなく、価値を知ることである。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 40 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ○ | ○ | 50 | | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | その分野に応じた小テストは不定期に行います。修得した知識を活かして、自身の分野とリンクさせてプレゼンテーションを実施してもらいます。 | | | | | |
| その他 | | | | 10 | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 参考書・参考資料等 | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 鈴木良太研究室: A412、rt-suzuki@sendai-u.ac.jp | | | | オフィスアワー | 火曜日: 10:20~11:50 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|-------|---|------------|--|---|--|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツ情報マスメディア特講 | | | | 担当教員 | 粟木一博/石丸出穂/佐藤修 | | | | |
| | Sport Intelligence and Mass Media | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 高度な情報化社会とされる今日、われわれを取り巻く情報はその形態や活用方法において多岐にわたっている。スポーツを取り巻く環境も例外ではない。競技力向上の現場をはじめ、スポーツが社会に強い影響を及ぼしている背景には情報の存在がある。本講義においては、スポーツにおける情報戦略活動で用いられる情報およびメディアが伝える情報にはどのようなものがあり、それがどのように用いられているのかを学ぶ。さらに、それらの収集から発信に至るまでの過程を理解する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツと情報との関連性を広い範囲で学ぶことを目的としている。とくに、情報と個人、情報と組織、情報と社会とのかかわりにおいて生じる様々な事象について理解するとともに、そこに存在する倫理的問題や広範な価値観についても学ぶことを目的とする。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツと情報についての関連性を理解する。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | スポーツに関連する情報を積極的に調べ、活用しようとする態度を身に付ける | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 情報の基礎的な収集、分析・加工・編集、発信までのプロセスを説明することができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| スポーツと情報とのかかわりについて俯瞰した後、スポーツ情報戦略活動における情報の収集や加工、編集、発信の基礎について学ぶ。また、多量の情報を伝えるメディアの実例を紹介し、情報を扱う際に生じる多様な問題点について理解を深める。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体を俯瞰して、情報とスポーツとのかかわりについて解説し、スポーツと情報に関連するテーマを設定し議論する | 9 | [テーマ] マスメディアの社会的役割 [内容] 新聞記事、雑誌、論文などの活字資料を収集し、今日におけるマスメディアの問題を議論する。 | 担当 (佐藤) | [授業外学修] (240分) 新聞記事、雑誌、論文などから今日のマスメディアの問題を収集する | | | | | |
| 2 | [テーマ] スポーツ情報戦略とは何か(定義と用語) [内容] 「スポーツ情報戦略の必要性」「スポーツ情報戦略の現状」「原理・原則・定義」「用語」について解説し、議論する | 10 | [テーマ] ジャーナリズムの社会的役割 [内容] ジャーナリズムとマスメディアの区別について講義し、ジャーナリズムの社会的意味と役割について文献の内容を中心に議論する。 | 担当 (佐藤) | [授業外学修] (240分) ジャーナリズムの社会的意味と役割について述べている文献の収集と整理 | | | | | |
| 3 | [テーマ] スポーツ情報戦略の歴史 [内容] スポーツ情報戦略活動の歴史の変遷、その本質について考え、議論する | 11 | [テーマ] ジャーナリズムの機能 [内容] ジャーナリストの職能についての文献を読み、規範と実態との乖離問題について議論する。 | 担当 (佐藤) | [授業外学修] (240分) ジャーナリストの職能についての文献の収集と整理 | | | | | |
| 4 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動と情報の収集 [内容] スポーツ情報戦略活動で活用される情報のほとんどがオープンソースからの情報であることが知られている。この情報の収集方法について具体的な情報源からの事例を示し、収集の際に重視されるべき点について議論する | 12 | [テーマ] 新聞① [内容] 新聞とジャーナリズムについて文献を読み、議論する | 担当 (佐藤) | [授業外学修] (240分) 新聞とジャーナリズムについての文献を幅広く収集、整理してくる。 | | | | | |
| 5 | [テーマ] スポーツ情報活動と情報の分析 [内容] 「information」を「intelligence」に変化をさせるためには一定の志向性を持った分析や加工が情報に加えられなければならない。具体的な分析方法(統計的な手法をはじめとした分析手法)について事例を示しそれについて議論する | 13 | [テーマ] 新聞② [内容] 調査報道とその未来について文献を読み、議論する | 担当 (佐藤) | [授業外学修] (240分) 調査報道についての文献を収集、整理してくる。 | | | | | |
| 6 | [テーマ] スポーツ情報活動と情報の発信 [内容] 「intelligence」は明確な目標(target)や目的(effect)を持っている。これらの目的や目標に到達するために必要な要件について議論する | 14 | [テーマ] 放送制度① [内容] 日本および他国の放送制度について調べ、放送法制と構造、理念、価値を国際比較する | 担当 (佐藤) | [授業外学修] (240分) 日本及び他国の放送制度を調べ整理してくる | | | | | |
| 7 | [テーマ] スポーツ情報戦略と意思決定者 [内容] スポーツ現場における意思決定者としての情報戦略とは何か考え、議論する | 15 | [テーマ] 放送制度② [内容] 放送制度の在り方、各国の現状、放送と通信の融合及びデジタル化、グローバルイノベーション等を中心にディスカッションする。 | 担当 (佐藤) | [授業外学修] (240分) ディスカッションするための資料の収集と整理 | | | | | |
| 8 | [テーマ] スポーツ情報戦略の活用 [内容] スポーツ情報の戦略的な活用法(メッセージ、ターゲット、コンテンツ、オペレーション、ソース、エフェクト)を考え、議論する | 16 | [試験または課題] レポートの作成 [方法] これまで学んできた15回分の授業内容をどの程度実践に活用することができるかを確認するためのレポート作成を課す。 | 担当 (粟木) | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 授業の最終回に課されるレポートの内容を評価の対象とする。また、授業に臨むにあたり、その程度の準備がなされているのか、また、授業の内容の理解度はどの程度かという観点からポートフォリオに記載されている内容を持って評価とする。これまでの授業に対する理解度を評価するためにポートフォリオの確認を行う。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | ・授業の準備をしっかりして受講すること ・授業内では積極的に議論に参加する態度で臨むこと | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | | | | | | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ◎ | ◎ | 80 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | |
| ポートフォリオ | | ○ | ○ | ○ | 20 | 授業内でのディスカッションの内容の一部として取り上げ多角的に評価し、それをフィードバックとする | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | 参考書・参考資料等 | スポーツインテリジェンス、和久貴洋著、NHK出版新書 | | | |
| 教科書 | | | | | | 参考書・参考資料等 | 粟木:前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限 石丸:前期・水曜日2時限、後期・水曜日2時限 佐藤:前期・金曜日3時限、後期・金曜日3時限 | | | |
| 連絡先 | 粟木一博(研究室E棟2階) kz-awaki@sendai-u.ac.jp | | | | | オフィスアワー | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------------|--|---------|--|--------------|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツ・マスメディア論演習 | | | | 担当教員 | 佐藤 修 | | | | |
| | 英語表記 | Sports Mass Media | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義・演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツメディアに限らずメディア表現の出発点は、対象との出会いとその対象が持つ情報の獲得である。情報の獲得には「観察、データ収集、調査、分析」など様々あるが、当事者に直接話を聞き、問題の所在や情報を持つ人の考え方をすることも重要な方法である。これがインタビューである。インタビューとは単に話を聞くことではない。対話を通しいかに問題点と周辺情報を浮き彫りにするかということである。この科目ではインタビューを通し情報を得て、情報を獲得することを学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 学生が人と出会い、その人が持つ情報を聞きだし、その情報、課題を的確かつ説得力を持って表現できるかを学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 様々な情報収集法の一つ、「インタビュー」を理解できる | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | インタビューの奥深さ、面白さを理解できる | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 実際のインタビューからその難しさや技法を理解し利用できる | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 前半ではインタビューとは何かを考え、インタビューを通して得た材料を新聞雑誌などの記事にしてみる。また、後半では、実際のインタビュー術を体験するとともにインタビューした材料を様々な構成、表現することを学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容] 講義内容・成績評価説明 [授業外学修] (240分) 新聞、雑誌のインタビュー記事を探してその特長を整理して行く | 9 | [テーマ] インタビュー技術の実際①「準備」 [内容] 人が持つ情報を引き出すことは簡単ではない。そのための準備が必要である。 [授業外学修] (240分) インタビューする際に何をどのように準備して臨んだらよいかを考える。 | | | | | | | |
| 2 | [テーマ] インタビューとは ① [内容] 「インタビュー術！」をテキストにして取材の基本となる人から話を聞くことを学ぶ。授業外で新聞、雑誌のインタビュー記事を探してその特長を整理して行く。 [授業外学修] (240分) 新聞、雑誌のインタビュー記事を探してその特長を整理して行く | 10 | [テーマ] インタビュー技術の実際② [内容] インタビューは人の話を通して情報を得ることである。上手に話を聞き、情報を得るにはインタビュアーの技量もある。インタビューの良し悪しは相手との距離感、向き合い方、話し方、考え方で決まることがある。 [授業外学修] (240分) インタビューの特徴を整理し、イメージトレーニングを行う | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] インタビューとは ② [内容] インタビューをベースにして出版された本や雑誌を読んでインタビューがどう用いられているか、どう表現されているかを考える。 [授業外学修] (240分) 新聞、雑誌のインタビュー記事を探してその特長を整理して行く | 11 | [テーマ] 映像表現(テレビ)に於けるインタビュー [内容] インタビューをもとにしたテレビ番組を参考に、インタビューの重要性を改めて整理する。 [授業外学修] (240分) 各自、テレビ番組を見てインタビューの特徴を整理して行く。 | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 新聞・雑誌の記事を書く① [内容] 日頃から関心を持っていることを思い起こし何が記事になるかを考えてみる。その後、それを実際に文字に起こす。 [授業外学修] (240分) 取材相手とアポイントを取ってインタビューをして行く | 12 | [テーマ] インタビューの映像表現① [内容] 身近にいる人にインタビューを試みる。そのためにどんな話題を持っているか周辺をリサーチ。 [授業外学修] (240分) インタビュー案を作り検討する | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 新聞・雑誌の記事を書く② [内容] インタビューを録音したものを聞き、インタビューの問題点などを整理する。その後、文字に起こす。 [授業外学修] (240分) 取材相手とアポイントを取ってインタビューをして行く | 13 | [テーマ] インタビューの映像表現② [内容] 取材相手にアポを取り、インタビューに臨む。 [授業外学修] (240分) 取材したテープを見てインタビューの様子、内容など問題点を検証する | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] 新聞・雑誌の記事を書く③ [内容] インタビューを録音したものを聞き、インタビューの問題点などを整理する。その後、文字に起こす。 [授業外学修] (240分) 取材相手とアポイントを取ってインタビューをして行く | 14 | [テーマ] インタビューの映像表現③ [内容] 当初のインタビューを検討し、補充のインタビューを検討する。 [授業外学修] (240分) インタビューで得た内容を立体的に補強し、初めて見る人の理解を得られるか工夫する。 | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] 新聞・雑誌の記事を書く④ [内容] インタビューを録音したものを聞き、インタビューの問題点などを整理する。その後、文字に起こす。 [授業外学修] (240分) 取材相手とアポイントを取ってインタビューをして行く | 15 | [テーマ] インタビューの映像表現④ [内容] 完成したインタビュー作品をチェックし、インタビューを通して知れた内容に奥行や深みがあるか検討する。 [授業外学修] (240分) 反省点を整理し、今後の課題をまとめる。 | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] 新聞・雑誌の記事を書く⑤ [内容] これまで書いた記事に見出しやリードなどをつけて一本の記事を完成させる。また、反省点を整理し、今後の課題とする。 [授業外学修] (240分) どういう記事にするか、構想を練ってくる。 | 16 | [試験または課題] 課題発表もしくは試験 [方法] 授業の深化、理解度によって判断し事前に知らせます | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 講義の理解と演習での表現作品を総合して判断、出席は評価を受ける前提条件 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | ○ | ○ | ○ | 50 | ・2/3以上の授業出席がないと期末試験・課題発表の資格はない ・インタビューは人と人との触れ合い、理解の深さで変わるもの。 ・人間理解力、状況判断力を普段から高める努力を。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 50 | | | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | レポートを返却する際、今後の課題について説明 | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | スポーツ・マスメディア特講 | | | | 参考書・参考資料等 | | | | | |
| 教科書 | 「インタビュー術！」講談社現代新書 | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 佐藤修研究室:E棟2階 | | | | オフィスアワー | 前・後期 金曜日・3時限 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|-------|---|------------|--|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | スポーツ情報戦略論演習 | | | | 担当教員 | 粟木一博/石丸出穂 | | | | |
| | Sport Intelligence (S.) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツにおいて競技力を向上させるためには、関連する多様な情報を収集・取捨選択し、それを有用なものに加工・編集する能力が極めて重要である。特に情報を戦略的に利用することは志向性の高い目標を持ち、明確な意図のもとにそれらの情報を構成し、構成された内容を効果的に伝達することが目指されなければならない。本講義ではスポーツ情報戦略活動の本質を討議するとともに、実際に活動を体験する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 高い水準にあるコーチや競技者が身に着けるべき情報に関する知識を概観し、「information」と「intelligence」との違いを明確に認識する。さらに、戦略的な方向性を持つ情報(intelligence)を作り出す過程を体験する。さらに、そこで必要とされる、特殊なデータ収集方法、データ処理、統計的解析、円滑な人間関係の構築、組織論などに関する知識および能力を身に着けることを目的とする。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 情報戦略的かつ効果的な活用方法とはどのようなかを理解することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 情報を通じて人や組織に対して高い意識付けを持って情報戦略活動を行おうとする | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 目的や状況に応じて適切な情報収集を実践でき、それに対して妥当なデータ処理、分析を行うことができる | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 実際のスポーツ場面で取り扱われている情報を題材として取り上げ、情報の収集、加工、編集、配信に至る一連の過程を体験する。さらにこれらの情報を戦略的に活用するために必要となる要素について討議し、受講者自身が関わる現場での情報戦略活動を計画、展開する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容] 講義全体の内容を俯瞰し、これからの授業の進め方について解説をする。さらに、スポーツと情報のかかわりについて現有している知識を提示し、其れについて議論をする [授業外学修](180分) シラバスを熟読する | 9 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動における収集について [内容] スポーツ情報戦略活動における実際のスポーツ現場の収集について解説し、議論する [授業外学修](180分) オープンソースより、スポーツ現場における収集活動を調査する | 担当 (粟木) | 担当 (石丸) | | | | | |
| 2 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動とヒューマンリレーション① [内容] 情報を収集発信する際に円滑な人間関係の構築は必要不可欠となる。この回は心理学的、社会学的コミュニケーション理論を背景にその具体的な事例について議論する [授業外学修](240分) 社会学や心理学においてコミュニケーションがどのように取り扱われているかをレポートする | 10 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動における分析について [内容] スポーツ情報戦略活動における実際のスポーツ現場の分析方法について解説し、議論する [授業外学修](180分) 自身の専門スポーツの分析について、調査する | 担当 (粟木) | 担当 (石丸) | | | | | |
| 3 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動とヒューマンリレーション② [内容] グループダイナミクスおよびリーダーシップ理論を中心に社会心理学的な組織論からヒューマンリレーションにアプローチする。その具体的な事例について議論する。 [授業外学修](240分) グループダイナミクスの中心的な考え方についてレポートするまた、リーダーシップ理論の歴史について概観しておく | 11 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動における伝達について [内容] スポーツ情報戦略活動における実際のスポーツ現場の伝達やフィードバック方法について解説し、議論する [授業外学修](180分) フィードバックについての論文を調査する | 担当 (粟木) | 担当 (石丸) | | | | | |
| 4 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動とデータ処理① [内容] 情報の分析に必要とされる統計的なデータ処理手法について学ぶ。この回は特に記述統計学的手法について解説し、その具体的な事例を取り上げ議論する。 [授業外学修](240分) 代表値や相関係数の考え方など基礎的な記述統計学的手法についてレポートする | 12 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動で行われるミーティングについて [内容] スポーツ情報戦略活動では欠かせない、会議やミーティング方法を解説し、議論する [授業外学修](180分) ミーティングに関する文献、または書籍を調査する | 担当 (粟木) | 担当 (石丸) | | | | | |
| 5 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動とデータ処理② [内容] 情報の分析に必要とされる統計的なデータ処理手法について学ぶ。この回は特に推計学的手法について解説し、その具体的な事例を取り上げ議論する。 [授業外学修](240分) 推定や検定の基本となる確率論、確率分布に関する理論についてレポートする | 13 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動に必要なプレゼンテーションについて [内容] スポーツ情報戦略活動現場で必要なプレゼンテーション、フィードバックについて考え、議論する [授業外学修](180分) プレゼンテーションに関する文献、または書籍を調査する | 担当 (粟木) | 担当 (石丸) | | | | | |
| 6 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動とデータ処理③ [内容] 情報の分析に必要とされる統計的なデータ処理手法について学ぶ。この回は特に多変量解析的な手法について解説し、その具体的な事例を取り上げ議論する。 [授業外学修](240分) 因子分析、重回帰分析など多次元のデータの取り扱い方についてレポートする | 14 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動でのスポーツコーチングの重要性 [内容] スポーツ情報戦略活動のベースとも言えるスポーツコーチングの重要性について考え、議論する [授業外学修](180分) スポーツコーチングに関する書籍(例えば「コーチング学への招待」)を通読する | 担当 (粟木) | 担当 (石丸) | | | | | |
| 7 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動と政策① [内容] 政策のロジックモデルを構築する際に必要となる情報戦略活動に関して議論をする。 [授業外学修](240分) 具体的な政策ロジックモデルに関する情報や具体例を収集しておく | 15 | [テーマ] ソフトを使用したスポーツ情報戦略活動の可能性 [内容] スポーツコード、ダートフィッシュ、DataVolley、をはじめとする分析ソフトを解説し、身近にあるアプリケーションを利用したスポーツ情報戦略活動について考え、議論する [授業外学修](180分) 使用してきたアプリケーションについて、スポーツ現場での使用方法の可能性をまとめる | 担当 (粟木) | 担当 (石丸) | | | | | |
| 8 | [テーマ] スポーツ情報戦略活動と政策② [内容] 自分自身の活動フィールドにおいて到達すべき目標を設定し、それにつながる政策のロジックモデルを立案し、プレゼンテーションをする [授業外学修](240分) 前提となる受講者自身が活動するフィールドにおける到達目標を明確にしておく | 16 | [試験または課題] レポートの作成 [方法] これまで学んできた15回分の授業内容をどの程度実践に活用することができるかを確認するためのレポート作成を課す。 | 担当 (粟木) | 担当 (粟木) | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 授業の最終回に課されるレポートの内容を評価の対象とする。また、授業に臨むにあたり、その程度の準備がなされているのか、また、授業の内容の理解度はどの程度かという観点からポートフォリオに記載されている内容を持って評価とする。授業に対する理解度を確認するためにポートフォリオの提出を求める。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | ・授業の準備をしっかりとって受講すること ・授業内では積極的に議論に参加する態度で臨むこと | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | | | | | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 80 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| ポートフォリオ | ○ | ○ | ○ | 20 | 授業内でのディスカッションの内容の一部として取り上げ多角的に評価し、それをフィードバックとする | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | 参考書・参考資料等 | スポーツインテリジェンス、和久貴洋著、NHK出版新書 | | | | |
| 教科書 | | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 粟木一博(研究室E棟2階) kz-awaki@sendai-u.ac.jp | | | | オフィスアワー | 粟木:前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限 石丸:前期・水曜日2時限、後期・水曜日2時限 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---------|---------|---|-----------|---|---|------|---|
| 授業科目名 | トップスポーツ情報戦略論 | | | | | 担当教員 | 浅川伸/井上規之 | | | |
| | Top sport intelligence(S.) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 3 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| <p>トップスポーツのコーチングや競技力向上を目的とする組織の意思決定において、情報を戦略的かつ効果的に活用することは、成果の創出において不可欠な営みである。本構では、情報戦略活動が必要とされる背景やニーズを歴史から紐解くとともに、実際の情報戦略活動において求められる人材の役割や資質、能力について学ぶ。またスポーツ以外の諸領域における情報戦略活動についても、その理論や実例を扱いながら、情報戦略活動を行なう上での原理原則や高度なスキルについて深く検討する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 情報戦略活動を行なう上での原理原則を理解する。また、状況に応じた情報の戦略的かつ効果的な活用について、求められる情報活用スキルを適用しつつ、適切にその運用ができるようになる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 情報戦略に関わる歴史の変遷、社会的ニーズ、現状の課題、国際的動向などを、史実や事例を通じて深く知る。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 情報戦略の意義や価値、あるべき姿について本質的に考え、創造的に検討を加える視点や態度を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 情報戦略に必要な基本的及び応用的なスキルについて知り、状況に応じたスキルの適用について理解する。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 各授業テーマに沿った資料を用いた講義とワークショップを中心にすすめる。より理解を深めるための視覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。また、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行う。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ]オリエンテーション [内容]担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 担当(浅川) [授業外学修](180分)シラバスに目を通しておく | | | | | 9 | [テーマ]スポーツ情報戦略「組織」② [内容]情報戦略に関わる組織・機構について 担当(井上) [授業外学修](180分)スポーツ活動において情報は誰の手によって、また、どのような組織によって取り扱われているのかについて考える | | | |
| 2 | [テーマ]スポーツ情報戦略とは何か [内容]情報戦略の定義・機能・特徴 担当(浅川) [授業外学修](180分)身の周りでのどのような情報が取り扱われているのかについて考える | | | | | 10 | [テーマ]スポーツ情報戦略活動の実際① [内容]競技フィールドにおける情報戦略について 担当(井上) [授業外学修](180分)スポーツ活動において取り扱われている情報とスポーツにおける政策や施策との関連性について考える | | | |
| 3 | [テーマ]なぜスポーツ情報戦略なのか [内容]情報戦略の歴史の変遷・活動誕生の背景とニーズ 担当(浅川) [授業外学修](180分)スポーツ活動でのどのような情報が取り扱われているのかについて考える | | | | | 11 | [テーマ]スポーツ情報戦略活動の実際② [内容]スポーツ統括機関における情報戦略について 担当(井上) [授業外学修](180分)スポーツ活動において取り扱われている情報とスポーツにおける政策や施策との関連性について考える | | | |
| 4 | [テーマ]スポーツ情報戦略「プロダクト」① [内容]情報戦略で用いられる情報成果物・アウトプットについて 担当(浅川) [授業外学修](180分)スポーツ活動で扱われている情報がどのようなメディアを通じて伝えられているのかについて考える | | | | | 12 | [テーマ]スポーツ情報戦略活動の実際③ [内容]スポーツ政策における情報戦略について 担当(井上) [授業外学修](180分)スポーツ活動において取り扱われている情報とスポーツにおける政策や施策との関連性について考える | | | |
| 5 | [テーマ]スポーツ情報戦略「プロダクト」② [内容]情報戦略で用いられる情報成果物・アウトプットについて 担当(浅川) [授業外学修](180分)スポーツ活動で扱われている情報を必要としているターゲットに届ける方法について考える | | | | | 13 | [テーマ]情報を扱う「人」 [内容]スポーツ情報戦略人材に求められる資質・能力 担当(井上) [授業外学修](180分)スポーツにおいて情報を取り扱う人材にはどのような種類があるのかについて考える | | | |
| 6 | [テーマ]スポーツ情報戦略「プロセス」① [内容]情報戦略活動の段階と方法について 担当(浅川) [授業外学修](180分)スポーツ活動で取り扱われている情報がどのような場面で必要とされるのかについて考える | | | | | 14 | [テーマ]プレゼンテーション [内容]受講者によるプレゼンテーション(課題は授業内で事前に連絡) 担当(井上) [授業外学修](180分)これまでの授業内容を概観し、自分なりのスポーツ情報戦略モデルについて考える。 | | | |
| 7 | [テーマ]スポーツ情報戦略「プロセス」② [内容]情報戦略活動の段階と方法について 担当(浅川) [授業外学修](180分)スポーツ活動で取り扱われている情報がどのように加工・編集されているのかについて考える | | | | | 15 | [テーマ]総括 [内容]総括と自由討議 担当(井上) [授業外学修](180分)これまでの授業内容を概観し、自分なりのスポーツ情報戦略モデルについて考える。 | | | |
| 8 | [テーマ]スポーツ情報戦略「組織」① [内容]情報戦略に関わる組織・機構について 担当(浅川) [授業外学修](180分)スポーツ活動において情報は誰の手によって、また、どのような組織によって取り扱われているのかについて考える | | | | | 16 | [試験または課題]情報戦略に関するレポート課題 [方法]情報戦略に関するレポートを執筆する。テーマは事前に通知する。 担当(井上) | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 本構に対する貢献度(30%)、授業内外のレポート(30+20%)、及び最終課題(20%)を評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | ◎ | ○ | ○ | 20 | 成績評価方法の「その他」では、本講に対する貢献度を評価します。本講では、本質に向きあう真摯な態度や積極的な行動が重要であり、そのためには履修者自身の持つ視点や考え方、情報が相互に十分に共有されることが求められるのが理由です。一部集中講義では、ナショナルトレーニングセンターでの会議や日本スポーツ振興センターの活動の参加を予定しています。東京までの一泊二日分の旅費交通費は自己負担となります。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ◎ | ○ | 45 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | ○ | ◎ | ○ | 35 | レポートなどの成果物に関しては授業内で論評および討論を行い、それをフィードバックとする。 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | スポーツ情報戦略演習 | | | | | 参考書・参考資料等 | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 栗木研究室:E棟2階 TEL 0224-55-5079 | | | | | オフィスアワー | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|------------|--|---------|---|---|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 体力科学特講 | | | | 担当教員 | 高橋弘彦/内丸仁/竹村英和/小田桂吾 | | | | |
| | Physical Fitness Science | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 本科目はスポーツトレーナー領域の基盤科目(グレード1)であり、当領域の発展科目(グレード2;トレーニング科学演習・運動環境科学演習・アスレティックトレーニング演習)につなげる位置づけのもと、スポーツ生理学やスポーツ医学を含めた体力科学に関する基礎的事項について解説する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツ活動における生理学的応答と適応、健康管理、体力増進、傷害予防等のために必要な基礎知識、技術、対応、方法・方策等について深く理解する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 体力科学(含スポーツ生理学・スポーツ医学)の基礎的事項について説明することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 体力科学(含スポーツ生理学・スポーツ医学)の基礎をふまえた議論に積極的に参加することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 体力科学(含スポーツ生理学・スポーツ医学)の基礎的理論を活用することができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 講義は、スポーツ生理学(含トレーニング科学・運動環境科学)およびスポーツ医学(含アスレティックトレーニング)を専門とする各教員がオムニバスで担当し、ディスカッションを交えながら、資料に基づいた解説を行う。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ]オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 | 9 | [テーマ] 低・高酸素環境下における運動・トレーニング [内容] 低酸素および高酸素環境における運動時の生理学的応答とトレーニング効果について解説する。 | | | | | | | |
| 担当 (小田) | [授業外学修](120分) シラバスを熟読し各講義の概要に関して整理しておく | 担当 (内丸) | [授業外学修](240分) 低酸素および高酸素環境における運動・トレーニングの効果や活用について理解する。 | | | | | | | |
| 2 | [テーマ] 運動・栄養・休養とコンディショニング [内容] 超回復とコンディショニングの関係について、先行研究を基に運動・栄養・休養の側面から解説する。 | 10 | [テーマ] アスレティックリハビリテーションの基礎(評価) [内容] アスレティックリハビリテーションを行う際に必要な評価について解説する。 | | | | | | | |
| 担当 (内丸) | [授業外学修](240分) 各自のコンディショニング法の現状と改善点についてまとめる。 | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) スポーツ傷害別に必要な評価方法を理解し、実践できるようにする。 | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] 発育・発達と健康・体力 [内容] 発育・発達が健康・体力に及ぼす影響について、先行研究を基に解説する。 | 11 | [テーマ] アスレティックリハビリテーションの基礎(テーピング) [内容] アスレティックリハビリテーションを行う際に必要なテーピングの方法について説明する。 | | | | | | | |
| 担当 (竹村) | [授業外学修](240分) 各自の発育・発達と健康・体力の関係についてまとめる。 | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) スポーツ傷害別に必要なテーピングの方法を理解し、実践できるようにする。 | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 加齢に伴う体力の変化と健康増進 [内容] 加齢に伴う体力の変化と健康との関連について解説する。 | 12 | [テーマ] スポーツ傷害の概要 [内容] スポーツ傷害発症メカニズムよりスポーツ傷害に関する対応を検討する | | | | | | | |
| 担当 (竹村) | [授業外学修](240分) 各年代における体力の特徴についてまとめる。 | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) スポーツ傷害の概要と発症メカニズムの特徴を理解する | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 健康・体力増進と運動・トレーニング [内容] 健康・体力増進のための運動(ガイドライン等)について解説する。 | 13 | [テーマ] スポーツ傷害各論①(下肢) [内容] 下肢におけるスポーツ傷害発生メカニズムを理解しそれぞれの特徴を理解する。 | | | | | | | |
| 担当 (竹村) | [授業外学修](240分) 健康・体力増進において推奨される運動(種目・時間・強度・頻度)についてまとめる。 | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 下肢のスポーツ傷害とその発症メカニズムを理解する。 | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] 暑熱環境下における運動・トレーニング [内容] 暑熱環境下における運動・トレーニング時の生理学的応答と適応現象について解説する。 | 14 | [テーマ] スポーツ傷害各論②(上肢) [内容] 上肢におけるスポーツ傷害発生メカニズムを理解しそれぞれの特徴を理解する。 | | | | | | | |
| 担当 (高橋) | [授業外学修](240分) 暑熱生体反応に影響する環境因子と生体側因子について理解する。 | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 上肢のスポーツ傷害とその発症メカニズムを理解する。 | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] 寒冷環境下における運動・トレーニング [内容] 寒冷環境下における運動・トレーニング時の生理学的応答と適応現象について解説する。 | 15 | [テーマ] スポーツ傷害各論③(頭部・頸部・体幹) [内容] 頭部・頸部・体幹におけるスポーツ傷害発生メカニズムを理解しそれぞれの特徴を理解する。 | | | | | | | |
| 担当 (高橋) | [授業外学修](240分) 寒冷生体反応に影響する環境因子と生体側因子について理解する。 | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 頭部・頸部・体幹のスポーツ傷害とその発症メカニズムを理解する。 | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] スポーツ活動における生理学的応答と適応 [内容] 運動・スポーツ活動時の身体機能における変化、応答および適応について、骨格筋・神経系機能および呼吸循環機能を中心に解説する。 | 16 | [試験または課題] 各担当教員よりの指示に基づき課題等対応 [方法] 課題等に関するフィードバックを行う | | | | | | | |
| 担当 (内丸) | [授業外学修](240分) 運動時の各組織・器官での生理学的応答と適応について理解する。 | 担当 (小田) | | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 評価は、小テスト・授業内レポート(ディスカッション)(50%)と授業外レポート(50%)により行う。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | 評価対象外 | ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生および欠席した場合は、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。 内容が含まれるので、予習および授業後の復習を行うこと。 ・専門的な | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 50 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 50 | 提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながらフィードバックする。 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | 評価対象外 | | | | | | |
| その他 | | | | 減点 | | | | | | |
| 関連科目 | トレーニング科学演習、運動環境科学演習、アスレティックトレーニング演習 | | | | 参考書・参考資料等 | 講義テーマに沿った資料を配布する。 | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 内丸研究室:C棟2階、jn-uchimaru@sendai-u.ac.jp | | | | オフィスアワー | 高橋弘彦;木曜日4校時 竹村英和;火曜日4校時 小田桂吾;水曜日3校時 内丸 仁;水曜日2校時 ※全教員前期・後期共通 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|--|---------|---|---|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | トレーニング科学演習 | | | | 担当教員 | 竹村英和 | | | | |
| | Seminar of Training Science | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 適切なトレーニングプログラムは、トレーニングの原理・原則の応用に基づいて、プログラムデザインと呼ばれる手順を踏んで構築される。本演習では、トレーニングの原理・原則をふまえたトレーニングプログラムの構築方法について、最近の研究結果や具体例を基に討論・解説する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 筋系体力やエネルギー系体力等のスポーツ生理学の基礎をふまえ、競技種目の特異性に関する分析方法や年間トレーニングプログラムの構築および評価方法について理解する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 各種スポーツ種目の特異性やプログラムデザインを実施するための基礎的・専門的事項について説明できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 科学的手法を用いたトレーニングプログラムの構築について取り組むことができる。 | | | | | | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 授業テーマに沿った資料を用いて演習を行う。授業前半では主に基本的な理論を取りあげ、後半では競技種目の特異性分析や年間トレーニング計画の作成を行う。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | <p>[テーマ] トレーニング科学とは(含オリエンテーション)</p> <p>[内容] 科学的視点に基づくトレーニングの必要性、授業の目標と進め方、シラバスおよび成績評価について説明する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) スポーツ現場における「トレーニング科学」の必要性について調べる。</p> | 9 | <p>[テーマ] 各種スポーツ種目の特異性分析(3)</p> <p>[内容] 各自が実施していたスポーツ種目の特異性分析を基に討論を行う。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) 予め各自が実施していたスポーツ種目の特異性について分析を行う。</p> | | | | | | | |
| 2 | <p>[テーマ] 筋系体力</p> <p>[内容] 筋系体力の構成要素および生理学的特性に関する基礎的事項について解説する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) 筋系体力の要素と関連するトレーニングについて、授業前後でまとめる。</p> | 10 | <p>[テーマ] 年間トレーニングプログラムの立案(ピリオダイゼーション)(1)</p> <p>[内容] トレーニング期分け(ピリオダイゼーション)に関する基礎的・専門的事項について解説する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) トレーニング期分けに関する基本的用語や考え方について、授業前後でまとめる。</p> | | | | | | | |
| 3 | <p>[テーマ] エネルギー系体力</p> <p>[内容] エネルギー系体力の構成要素および生理学的特性に関する基礎的事項について解説する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) エネルギー系体力の要素と関連するトレーニングについて、授業前後でまとめる。</p> | 11 | <p>[テーマ] 年間トレーニングプログラムの立案(ピリオダイゼーション)(2)</p> <p>[内容] トレーニング期分けを行うための方法について解説し、実際に年間トレーニングプログラムを作成(計画)する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) 予め各自が実施していたスポーツ種目の年間トレーニングプログラムを作成する。</p> | | | | | | | |
| 4 | <p>[テーマ] 持久力とスポーツパフォーマンス</p> <p>[内容] 持久力に関わる生理学的特性とスポーツパフォーマンスに関する基礎的事項について解説する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) 持久力とトレーニング・パフォーマンスの関係について、授業前後でまとめる。</p> | 12 | <p>[テーマ] 年間トレーニングプログラムの立案(ピリオダイゼーション)(3)</p> <p>[内容] 各自が作成した年間トレーニングプログラムを基に討論を行う。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) 討論を基に、各自が作成したトレーニングプログラムを検証する。</p> | | | | | | | |
| 5 | <p>[テーマ] 筋力・パワーとスポーツパフォーマンス</p> <p>[内容] 筋力・パワーに関わる生理学的特性とスポーツパフォーマンスに関する基礎的事項について解説する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) 筋力・パワーとトレーニング・パフォーマンスの関係について、授業前後でまとめる。</p> | 13 | <p>[テーマ] トレーニングプログラムの評価(1)</p> <p>[内容] 年間トレーニングにおける生理・心理的パラメータを用いたコンディションチェックや総トレーニング量を評価するための方法について解説する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) コンディションチェックの指標および実用方法について、授業前後でまとめる。</p> | | | | | | | |
| 6 | <p>[テーマ] 神経系とスポーツパフォーマンス</p> <p>[内容] 神経系に関わる生理学的特性とスポーツパフォーマンスに関する基礎的事項について解説する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) 神経系とトレーニング・パフォーマンスの関係について、授業前後でまとめる。</p> | 14 | <p>[テーマ] トレーニングプログラムの評価(2)</p> <p>[内容] 各種トレーニングの負荷設定や生理的適応を評価するための方法について解説する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) 負荷設定や生理的適応の評価指標・実用方法について、授業前後でまとめる。</p> | | | | | | | |
| 7 | <p>[テーマ] 各種スポーツ種目の特異性分析(1)</p> <p>[内容] スポーツ種目の特異性を分析するための基礎的理論について解説するとともに、実際に分析を行う。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) スポーツ種目の特異性の概要について、授業前後でまとめる。</p> | 15 | <p>[テーマ] プログラムデザインの応用</p> <p>[内容] 計画・実践・分析・評価に基づいたプログラムデザインの実例について紹介する。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) プログラムデザインの実例について、文献を基に調べる。</p> | | | | | | | |
| 8 | <p>[テーマ] 各種スポーツ種目の特異性分析(2)</p> <p>[内容] スポーツ種目の特異性を分析するための専門的理論について解説するとともに、実際に分析を行う。</p> <p>担当 [授業外学修](240分) スポーツ種目の特異性について、授業前後で詳細にまとめる。</p> | 16 | <p>[試験または課題] レポート</p> <p>[方法] 筋系体力やエネルギー系体力等に関する基礎的事項、競技種目の特異性分析、年間トレーニングプログラムの構築および評価方法に関するレポートを課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 評価は、小テスト・授業内外のレポートおよびポートフォリオにより行う。各項目の評価割合は、小テスト・授業内レポートが60%、授業外レポートが30%、ポートフォリオが10%とする。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | 当該分野の基礎的内容について理解していることが望ましい。なお、学部において当該分野以外を専攻していた院生は、指定時間以上の予習・復習(授業外学修)を行うこと。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | | | 60% | 授業計画は、授業の進行状況により多少前後することがある。 | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | | | 30% | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| ポートフォリオ | | ◎ | | 10% | 小テストやレポート課題は、授業内で解説しながらフィードバックする。 | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 体力科学特講、運動環境科学演習 | | | | 参考書・参考資料等 | 「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版」「ストレンギング&コンディショニング 第4版」 | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 竹村研究室(C棟3階) | | | | オフィスアワー | 火曜日 14:20~15:50 | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---|-----------|--|--|-----|---|------|---|--|
| 授業科目名 | 運動環境科学演習 | | | | 担当教員 | 高橋弘彦/内丸仁 | | | | | |
| | Seminar of Exercise & Environment Science | | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | | |
| 物理的環境要因が運動時の生理的反応に及ぼす影響について講述するとともに、熱中症、低体温症、高山病および酸素中毒などの事故事例とその要因について解説する。また、人工気象室、常圧低・高酸素環境室および高酸素カプセルにて各種環境条件下での運動などを体験しながら、その生理的反応について計測・理解し、物理的環境要因の影響に関する知識を深める。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | | |
| 暑熱、寒冷、低酸素および高酸素環境などの物理的環境要因が運動時の生理的反応に及ぼす影響、および、運動・スポーツ活動時の注意点やトレーニング効果などについて理解することができる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 物理的環境因子の人体影響について理解し、各種環境下における運動の効果や運動時の事故を予防する知識を身につける。 | | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 生理学的な機能や効果さらには意義を理解した上で、物理的環境環境下で実際の活動(運動およびスポーツ)に取り組むことが出来るようになる。 | | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 環境生理学に関連する知識あるいは情報をもとに、対象者に適切な表現を持って説明・指導できるようにする。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | | |
| 学術論文や準備資料に基づいた講義・討論し、物理的環境要因の影響について、また、論文や資料に記載されていた物理的環境条件を再現し、そこでの運動時の生理的反応データを採取し、物理的環境要因の影響について検討する。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、資料準備の指示 [授業外学修] (60分) シラバスを熟読すること。 | 9 | [テーマ] 酸素と生理学的応答 [内容] 酸素環境の違いによる生体応答、異なる酸素環境下での運動時の生理学的応答 [授業外学修] (240分) 低酸素および高酸素環境での生理学的応答について調べておくこと | | | | | | | | |
| 2 | [テーマ] 温熱環境因子と生理学的応答、適応現象 [内容] 気温、湿度、風速、熱輻射等の温熱要素とその評価、およびそれらが生理学的応答に及ぼす影響および適応現象 [授業外学修] (240分) 温熱環境の評価・適応現象・生態学的法則について調べておくこと。 | 10 | [テーマ] 常酸素環境と生理学的応答1 [内容] 2回にわたって常酸素環境での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] 常温低湿環境と生理学的応答 [内容] 常温低湿環境下での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | 11 | [テーマ] 常酸素環境と生理学的応答2 [内容] 2回にわたって常酸素環境での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 常温高湿環境と生理学的応答 [内容] 常温高湿環境下での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | 12 | [テーマ] 低酸素環境と生理学的応答1 [内容] 2回にわたって低酸素環境(準高地相当)での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 高温低湿環境と生理学的応答 [内容] 高温低湿環境下での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | 13 | [テーマ] [テーマ] 低酸素環境と生理学的応答2 [内容] 2回にわたって低酸素環境(中等高地相当)での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] 高温高湿環境と生理学的応答 [内容] 高温高湿環境下での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | 14 | [テーマ] 高酸素環境と生理学的応答1 [内容] 高酸素環境での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] 低温低湿環境と生理学的応答 [内容] 低温低湿環境下での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | 15 | [テーマ] 高酸素環境と生理学的応答2 [内容] 運動後の高酸素カプセル利用時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] 低温高湿環境と生理学的応答 [内容] 低温高湿環境下での安静および運動時の生理学的応答について測定しデータを採取する。 [授業外学修] (240分) 採取したデータをまとめておくこと | 16 | [試験または課題] 各担当教員よりの指示に基づき課題等対応 [方法] 実験後にレポートの提出が必要となる。そのレポートを用いながら授業でまとめおよび口頭による試問を行う。 | | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | | |
| 出席状況、資料準備、レポート内容を総合して評価する。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・データ収集のための授業は、通常時間帯以外になる。 ・専門的な内容のため、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。 | | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | 評価対象外 | | | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | | | | | | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | | 50 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | 提出レポート・演習課題に関して相互理解を深めるためのディスカッションをおこなう。 | | | | | | |
| その他 | ◎ | ◎ | ◎ | 50(演習/実技) | | | | | | | |
| 関連科目 | 体力科学特講、トレーニング科学演習、アスレティックトレーニング演習 | | | | 参考書・参考資料等 | 別途指示 | | | | | |
| 教科書 | 別途指示 | | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 高橋弘研究室: C棟3階、hr-takahashi@sendai-u.ac.jp | | | | オフィスアワー | 高橋弘彦: 木曜日4校時(前期・後期共通) 内丸 仁: 水曜日2校時(前期・後期共通) | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|-------|---------|---------|---|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | アスレティックトレーニング演習 | | | | 担当教員 | 小田桂吾 | | | | |
| | Athletic Training Sminar | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツ現場で競技者の健康管理に必要な傷害および疾病の基礎情報を講義する。さらに、疫学研究および文献を通して、アスリートに必要な健康管理に関する情報を把握・検証し、スポーツ現場における実践的なトレーニングおよび予防方法に対する知識を深める。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツ現場で競技者の健康管理のために必要な傷害(発症メカニズムも含め)・疾病に対する基礎知識、技術、対応、方法・方策等について深く理解する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 様々なトレーニングに関する信頼性や問題点を考えることができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | リハビリテーションや予防トレーニングにおける科学的根拠の重要性と選手への心理的配慮も重要であることを認識できるようになる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 各々の症状に応じたトレーニングプログラム作成能力やリハビリテーションスキルを修得できる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 代表的なスポーツ傷害とそのアスレティックトレーニングについて検証・討議する。また、授業の内容をもとに各自でリハビリテーションや予防プログラムを考え、その内容について検証・討議する。これらの作業は個人もしくはグループで行う。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ]オリエンテーション、アイスブレイク [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 | | | | 9 | [テーマ] アスレティックトレーニングの実践④ [内容] 肩関節疾患に対する具体的なトレーニング方法について説明、実践し、その効果について検討する。 | | | | |
| 担当 (小田) | [授業外学修](120分) シラバスを熟読しておくこと | | | | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | |
| 2 | [テーマ]アスレティックトレーニング概論 [内容] 現代の傷害像と運動環境なども絡めながら、アスレティックトレーニングの意義について説明する。 | | | | 10 | [テーマ] アスレティックトレーニングの実践⑤ [内容] 投球障害に対する具体的なトレーニング方法について説明、実践し、その効果について検討する。 | | | | |
| 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に復習すること | | | | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | |
| 3 | [テーマ] アスレティックトレーニング「基礎内科系」 [内容] 内科系疾患に対するアスレティックトレーニングの進め方に関する基礎的事項や考え方を概略する。 | | | | 11 | [テーマ] アスレティックトレーニングの実践⑥ [内容] 下肢オーバーユース障害に対する具体的なトレーニング方法について説明、実践し、その効果について検討する。 | | | | |
| 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | |
| 4 | [テーマ] アスレティックトレーニング「基礎外科系」 [内容] 外科系疾患に対するアスレティックトレーニングの進め方に関する基礎的事項や考え方を概略する。 | | | | 12 | [テーマ] アスレティックトレーニングの実践⑦ [内容] 脳震盪、頭頸部外傷に対する具体的な対応、復帰に向けたトレーニング方法について説明、実践し、その効果について検討する。 | | | | |
| 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | |
| 5 | [テーマ] アスレティックトレーニング「女性のスポーツ医学」 [内容] 女性アスリートに対するアスレティックトレーニングの進め方に関する基礎的事項や考え方を概略する。 | | | | 13 | [テーマ] コンディショニング概論 [内容] パフォーマンス向上、競技復帰に向けたコンディショニングに関する基本的事項や考え方を概略する。 | | | | |
| 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | |
| 6 | [テーマ] アスレティックトレーニングの実践① [内容] 足関節疾患に対する具体的なトレーニング方法について説明、実践し、その効果について検討する。 | | | | 14 | [テーマ] アスレティックトレーニングプログラムに対する評価① [内容] アスレティックトレーニングに関するプレゼンテーションを行い、その内容を検証・討議する。 | | | | |
| 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に復習およびプレゼンテーションの準備を行うこと | | | | |
| 7 | [テーマ] アスレティックトレーニングの実践② [内容] 膝関節疾患に対する具体的なトレーニング方法について説明、実践し、その効果について検討する。 | | | | 15 | [テーマ] アスレティックトレーニングプログラムに対する評価② [内容] アスレティックトレーニングに関するプレゼンテーションを行い、その内容を検証・討議する。 | | | | |
| 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に復習およびプレゼンテーションの準備を行うこと | | | | |
| 8 | [テーマ] アスレティックトレーニングの実践③ [内容] 腰部疾患に対する具体的なトレーニング方法について説明、実践し、その効果について検討する。 | | | | 16 | [試験または課題] アスレティックトレーニングに関する実技試験 [方法] 実技試験形式評価に対する、フィードバックを行う | | | | |
| 担当 (小田) | [授業外学修](240分) 授業資料を基に予習・復習すること | | | | 担当 (小田) | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 評価は、授業内課題・実技(50%)と授業外レポート(50%)に基づいて行う。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | 評価割合(%) | ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。 ・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。 | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | 評価対象外 | | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | | | 50 | | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | | | 50 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | 評価対象外 | 提出レポート・演習課題に関して相互理解を深めるためのディスカッションをおこなう。 | | | | | |
| その他 | | | | 減点 | | | | | | |
| 関連科目 | なし | | | | 参考書・参考資料等 | 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨、日本スポーツ協会 | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | オフスアワー | 水曜:12:40～14:10 | | | | |
| 連絡先 | 小田研究室:管理棟5階、kg-oda@sendai-u.ac.jp | | | | オフスアワー | 水曜:12:40～14:10 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|--|---------|-----------|---|-----|---|------|------------------------|
| 授業科目名 | 運動・スポーツ栄養学特講 | | | | 担当教員 | 早川公康/長橋雅人 | | | | |
| | Nutrition of Exercise & Sports (L.) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 健康増進やスポーツ競技力向上を目指す現場において、運動・スポーツと栄養の指導に役立つ専門的事項について説明する。「食事の定義・意義」「サプリメントとは」「健康と食事」「健康とサプリメント」「スポーツと栄養」「スポーツと食事」「スポーツとサプリメント」「アスリートの栄養指導」「運動・栄養系の免許・資格」「食情報の実態」「食情報と行動」「食情報と社会的対応」「食情報とライフステージ」「食情報とツール」などについて講義する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 健康増進やスポーツ競技力向上の現場において、運動・スポーツと栄養の指導に役立つ専門的事項について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツ・運動時の栄養学の役割、食と情報、及び健康増進・競技力・トレーニング効果を高める栄養・食事について説明できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 健康増進やスポーツ競技力向上における運動と栄養の指導に役立つ専門的事項について主体的に考えることができる。 | | | | | | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| まず健康増進やスポーツ競技力向上のために重要となる栄養学について講義する。次に栄養指導時や対象者への理解にとって必要な食情報に纏わる事柄について講義する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価等について説明する 担当(早川) [授業外学習](240分)次回以降の授業テーマとその内容について、予習を行うこと | 9 | [テーマ] アスリートの栄養指導 [内容] アスリートの栄養指導について説明する 担当(早川) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 2 | [テーマ] 食事の定義・意義 [内容] 食事とは何か、その定義・意義を説明する 担当(早川) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 10 | [テーマ] 運動・栄養系の免許・資格 [内容] 運動・栄養系の免許・資格について説明する 担当(早川) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] サプリメントとは [内容] サプリメントとは何か、説明する 担当(早川) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 11 | [テーマ] 食情報の実態 [内容] 食情報に纏わる現状と問題点について説明する 担当(長橋) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 健康と食事 [内容] 健康と食事の関係について説明する 担当(早川) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 12 | [テーマ] 食情報と行動 [内容] 食情報と人の行動との関係性について説明する 担当(長橋) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 健康とサプリメント [内容] 健康とサプリメントの関係について説明する 担当(早川) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 13 | [テーマ] 食情報と社会的対応 [内容] 食情報に対する社会的対応について説明する 担当(長橋) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] スポーツと栄養 [内容] スポーツと栄養の関係について説明する 担当(早川) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 14 | [テーマ] 食情報とライフステージ [内容] スポーツ選手も含め、ライフステージを考慮した食情報との向き合い方について説明する 担当(長橋) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] スポーツと食事 [内容] スポーツと食事の関係について説明する 担当(早川) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 15 | [テーマ] 食情報とツール [内容] 食情報に対して適切に対応するためのツールについて説明する 担当(長橋) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] スポーツとサプリメント [内容] スポーツとサプリメントの関係について説明する 担当(早川) [授業外学習](240分)授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 16 | [試験または課題] 運動・スポーツと栄養に関する課題を課す [方法] レポートやテスト等 担当(全員) | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| レポートやテスト、その他(授業態度、他)による総合評価 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | ◎ | ◎ | | 75 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | |
| 授業外レポート | | | | | | 解答例を示し、解答を解説する。 | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | | | | | |
| その他 | | | ◎ | | 25 | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | |
| 教科書 | ・「スポーツ・健康のための食事・サプリメント学」早川公康著(現代図書) ・「トップアスリートの指導者に学ぶ」阿部肇・早川公康著(現代図書) | | | | 参考書・参考資料等 | HEALTHY EATING A GUIDE TO NUTRITION (NUTRITION FOR SPORTS AND EXERCISE) Meridian Education Corporation | | | | |
| 連絡先 | 研究室: 早川公康(F206)/長橋雅人(25記念館D棟2階) | | | | オフィスアワー | 長橋: 木(8:40~10:10) 早川: 月(14:20~15:50) | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|------------|--|---------|---|---|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 運動・スポーツ栄養学演習 | | | | 担当教員 | 早川公康/長橋雅人 | | | | |
| | Nutrition of Exercise & Sports (S.) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 健康増進やスポーツ競技力向上を目指す現場において、運動・スポーツと栄養の指導に役立つ専門的事項について、種々の演習を行う。「食事の定義・意義」「サプリメントとは」「健康と食事」「健康とサプリメント」「スポーツと栄養」「スポーツと食事」「スポーツとサプリメント」「アスリートの栄養指導」「運動・栄養系の免許・資格」「食情報の実態」「食情報と行動」「食情報と社会的対応」「食情報とライフステージ」「食情報とツール」などについて演習する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 健康増進やスポーツ競技力向上を目指す現場において、運動・スポーツと栄養の指導に役立つ専門的事項について、応用できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | スポーツ・運動時の栄養学の役割、食と情報、及び健康増進・競技力・トレーニング効果を高める栄養・食事について説明できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 健康増進や競技力向上における運動と栄養の指導に役立つ専門的事項について、主体的に考えることができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | スポーツ・運動時の栄養学、食と情報等を活用しながら、目的に沿って応用できる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| まず健康増進や競技力向上のために重要となる栄養学の役割について演習する。次に栄養指導時や対象者への理解にとって必要な食情報に纏わる事柄について演習する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 | 9 | [テーマ] アスリートの栄養指導 [内容] アスリートの栄養指導について演習する | | | | | | | |
| 担当 (早川) | [授業外学習] (240分) 次回以降の授業テーマとその内容について、予習を行うこと | 担当 (早川) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 2 | [テーマ] 食事とは [内容] 食事の定義・意義について演習する | 10 | [テーマ] 運動・栄養系資格について [内容] 運動・栄養系資格について演習する | | | | | | | |
| 担当 (早川) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 担当 (早川) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 3 | [テーマ] サプリメントとは [内容] サプリメントについて演習する | 11 | [テーマ] 食情報の実態 [内容] 食情報に纏わる現状と問題点について演習する | | | | | | | |
| 担当 (早川) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 担当 (長橋) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 4 | [テーマ] 健康と食事 [内容] 健康と食事の関係について演習する | 12 | [テーマ] 食情報と行動 [内容] 食情報と人の行動との関係性について演習する | | | | | | | |
| 担当 (早川) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 担当 (長橋) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 5 | [テーマ] 健康とサプリメント [内容] 健康とサプリメントの関係について演習する | 13 | [テーマ] 食情報と社会的対応 [内容] 食情報に対する社会的対応について演習する | | | | | | | |
| 担当 (早川) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 担当 (長橋) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 6 | [テーマ] スポーツと栄養 [内容] スポーツと栄養の関係について演習する | 14 | [テーマ] 食情報とライフステージ [内容] スポーツ選手も含め、ライフステージを考慮した食情報との向き合い方について演習する | | | | | | | |
| 担当 (早川) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 担当 (長橋) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 7 | [テーマ] スポーツと食事 [内容] スポーツと食事の関係について演習する | 15 | [テーマ] 食情報とツール [内容] 食情報に対して適切に対応するためのツールについて演習する | | | | | | | |
| 担当 (早川) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 担当 (長橋) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 8 | [テーマ] スポーツとサプリメント [内容] スポーツとサプリメントの関係について演習する | 16 | [試験または課題] 運動・スポーツと栄養に関する課題を課す [方法] レポートやテスト等 | | | | | | | |
| 担当 (早川) | [授業外学習] (240分) 授業テーマとその内容について、予習・復習を行うこと | 担当 (全員) | | | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| レポートやテスト、その他(授業態度、他)による総合評価 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 75 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ◎ | ◎ | 25 | | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | 解答例を示し、解答を解説する。 | | | | | |
| 関連科目 | | | | | 参考書・参考資料等 | HEALTHY EATING A GUIDE TO NUTRITION (NUTRITION FOR SPORTS AND EXERCISE) Meridian Education Corporation | | | | |
| 教科書 | ・「スポーツ・健康のための食事・サプリメント学」早川公康著(現代図書) ・「トップアスリートの指導者に学ぶ」阿部肇・早川公康著(現代図書) | | | | オフィスアワー | 長橋: 木(8:40~10:10) 早川: 月(14:20~15:50) | | | | |
| 連絡先 | 研究室: 早川公康(F206) / 長橋雅人(25記念館D棟2階) | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|-------|-------|---------|-----------|--|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 健康福祉論特講 | | | | 担当教員 | 橋本実/小松正子/大山さく子/小池和幸/関貴秋/笠原岳人/高崎義輝/後藤満枝/堀江竜弥 | | | | |
| | Health and Social Welfare (L.) | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 健康福祉の考え方と実際について医療、福祉、介護、リハビリテーション、健康づくりなどの側面から基礎理論を講義する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 健康福祉の考え方と実際について多様な側面から理解し、現状と課題などについて考察及びディスカッションする。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 健康福祉の基礎的な考え方について、医療、福祉、介護、リハビリテーションなどの視点から説明できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 健康福祉についての関心が高まる。 | | | | | | | | | |
| □ 技能表現的領域 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 健康福祉領域の9名の担当教員がそれぞれの専門分野をおとした健康福祉についてオムニバス形式で講義する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ]オリエンテーション [内容]健康福祉の考え方と受講方法。 担当(小池) [授業外学修] (30分)授業概要を事前に読む。 | | | | 9 | [テーマ]健康福祉と介護福祉2 [内容]介護福祉サービスと支援の実践について解説する。 担当(後藤) [授業外学修] (240分)小レポートの作成(課題分析)。 | | | | |
| 2 | [テーマ]健康づくりと介護予防1 [内容]我が国の今日の健康課題と対応について解説する。 担当(橋本) [授業外学修] (240分)小レポートの作成。 | | | | 10 | [テーマ]福祉レクリエーション1 [内容]福祉レクリエーションと周辺理論との関係について解説する。 担当(小池) [授業外学修] (240分)小レポートの作成。 | | | | |
| 3 | [テーマ]健康づくりと介護予防2 [内容]中高齢者の健康づくりと介護予防について解説する。 担当(橋本) [授業外学修] (240分)小レポートの作成。 | | | | 11 | [テーマ]福祉レクリエーション2 [内容]福祉レクリエーション支援の実践について解説する。 担当(小池) [授業外学修] (240分)事前資料を読む。小レポートの作成。 | | | | |
| 4 | [テーマ]ヘルスプロモーション1 [内容]健康情報とエビデンスの関係について。ヘルスプロモーションに関する文献検索も行いながら、健康情報への接し方を考える。 担当(小松) [授業外学修] (240分)各自の研究テーマに関する文献検索の実施。 | | | | 12 | [テーマ]障害者とスポーツ活動1 [内容]障害者を取り巻くスポーツ活動の実践について解説する。 担当(関矢) [授業外学修] (240分)レポートの作成。 | | | | |
| 5 | [テーマ]ヘルスプロモーション2 [内容]健康関連論文で使われることの多い統計手法を理解し、その結果解釈の注意点を学ぶ。 担当(小松) [授業外学修] (240分)各自の研究テーマの先行研究について分析方法に注目し、批判的検討を加えながら論文を読む練習をする。 | | | | 13 | [テーマ]障害者とスポーツ活動2 [内容]車椅子を使ったリハビリと中途障害者の社会復帰について解説する。 担当(関矢) [授業外学修] (240分)関連資料の熟読と考察。 | | | | |
| 6 | [テーマ]健康福祉とレクリエーション [内容]健康福祉とレクリエーションの関係について解説する。 担当(高崎) [授業外学修] (240分)配布された資料を読んでおく。 | | | | 14 | [テーマ]健康福祉とリハビリテーション1 [内容]加齢に伴う心身の変化とリハビリテーションの介入について解説する。 担当(笠原) [授業外学修] (240分)小レポートの作成。 | | | | |
| 7 | [テーマ]健康福祉と看護 [内容]「看護」「介護」と「健康福祉」について解説する。 担当(堀江) [授業外学修] (240分)配布された資料を読んでおく。 | | | | 15 | [テーマ]健康福祉とリハビリテーション2 [内容]我が国におけるリハビリテーションの現状と課題について解説する。 担当(笠原) [授業外学修] (240分)小レポートの作成。 | | | | |
| 8 | [テーマ]健康福祉と介護福祉1 [内容]介護福祉の現状および関連領域との関係について解説する。 担当(大山) [授業外学修] (240分)小レポートの作成(事例を基に課題検討) | | | | 16 | [試験または課題] [方法]レポート課題 担当(小池) | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 各担当教員毎の課題及びレポートと総合レポート、ポートフォリオの内容等を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | 授業を欠席する場合は事前に各担当教員へ連絡すること。 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | | | | | | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ○ | | 60 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | 授業内の振り返り及び後日、返却。 | | | | |
| その他 | | ◎ | ○ | | 40 | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 特になし | | | | 参考書・参考資料等 | 適宜プリント等を配布する。 | | | | |
| 連絡先 | 小池研究室:F棟2階 | | | | オフィスアワー | 水曜日14:20~15:50 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|--|-------|---------|---------|---|-----------------------------|---|------|---|
| 授業科目名 | 運動・スポーツ医科学論 | | | | 担当教員 | 橋本実/柴山茂樹 | | | | |
| | 英語表記 | Medical science of sports and exercise | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| 健康を維持増進には、運動・スポーツは欠くことができない。生活習慣病には、運動の効果が高いことが知られており、メタボリック・シンドロームにも有効なことで特定検診も始まった。高齢者に多い整形外科領域の疾患にも運動は効果が高い。これらのことを踏まえ健康づくり、福祉、介護、教育の各分野で活用できる先行研究や基礎概念等について解説する。また、この分野における状況や課題について最新事例や調査を基に講義する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| 学生が、どのような運動・スポーツが疾病予防や健康増進に重要なかを理解することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 学生が運動・スポーツが有効な疾病や実施方法について理解する。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 学生が健康づくりに関わる運動・スポーツへの関心が高まる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 学生が健康づくりに関わる運動・スポーツについて根拠を持って討論できる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| 授業の前半はテーマについて講義を行い。後半は講義をもとに課題について討論する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ]オリエンテーション [内容]各々健康福祉支援に関する概要の説明。授業のキーワードの説明。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | 9 | [テーマ]健康と運動・スポーツ① [内容]熱中症と運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) | | | | |
| 2 | [テーマ]健康と運動・スポーツ [内容]運動・スポーツと健康の関係について考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | 10 | [テーマ]健康と運動・スポーツ② [内容]熱中症と運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | |
| 3 | [テーマ]変形性疾患と運動・スポーツ① [内容]整形疾患と運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | 11 | [テーマ]健康と運動・スポーツ③ [内容]免疫と運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | |
| 4 | [テーマ]変形性疾患と運動・スポーツ② [内容]整形疾患と運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | 12 | [テーマ]健康と運動・スポーツ④ [内容]骨粗鬆症と運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | |
| 5 | [テーマ]生活習慣病と運動・スポーツ① [内容]糖尿病と運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | 13 | [テーマ]健康と運動・スポーツ⑤ [内容]ストレスと運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | |
| 6 | [テーマ]生活習慣病と運動・スポーツ② [内容]高血圧と運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | 14 | [テーマ]健康と運動・スポーツ⑥ [内容]健康管理からみた運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | |
| 7 | [テーマ]生活習慣病と運動・スポーツ③ [内容]脂質代謝異常症と運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | 15 | [テーマ]健康と運動・スポーツ⑦ [内容]健康管理からみた運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | |
| 8 | [テーマ]生活習慣病と運動・スポーツ④ [内容]高尿酸血症と運動・スポーツについて考察する。 [授業外学修](60分) 最新の情報を図書館とwebで検索し、確認すること | | | | 16 | [試験または課題] [方法]レポート課題 課題は講義内で随時提示する | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 課題及びレポートと総合レポート、ポートフォリオの内容等を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 授業を欠席する場合は事前に担当教員へ連絡すること。ICTツールを使って、レポートを提出する。 | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | ○ | ○ | | 25% | レポートについては評価コメントを添えて返却する。 | | | | |
| 授業外レポート | | ○ | ○ | | 25% | | | | | |
| ポートフォリオ | | ○ | ○ | | 30% | | | | | |
| その他 | | | | ○ | 20% | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | 参考書・参考資料等 | PubMedなどより最新の論文などを印刷しを配布する。 | | | |
| 教科書 | 適宜プリントを配布する。 | | | | | 参考書・参考資料等 | PubMedなどより最新の論文などを印刷しを配布する。 | | | |
| 連絡先 | | | | | | オフィスアワー | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|-------|---------|------------|---|--|---|------|---|--|
| 授業科目名 | 健康支援・介護予防演習 | | | | | 担当教員 | 笠原 岳人/江尻 愛美 | | | | |
| | Health support and care prevention exercises | | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 演習 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 | |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | | |
| 現在のわが国における生活習慣病予防や介護予防の現状を踏まえ、具体的な事例を取り上げプログラム論、マネジメント論、組織論など総合的に解説し、課題や支援方法等を演習をとおして論議する。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | | |
| 現在のわが国における、健康支援や介護予防の基本的な考え方、方向性及び具体的な取り組み方法等を理解することができる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 健康支援や介護予防の取り組みに関する基本的な知識や技術について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 各種のプログラムの取り組みを理解し、地方自治体においてどのように反映されているかを理解できる。 | | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 各種のプログラムの取り組みを用いて、健康づくりの取り組みのなかで使用することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | | |
| 各授業、テーマに沿った資料を参考にしながら進めていく。講義の一部ではグループ討議を交えた学習も取り入れる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容]講義内容に関する概要の説明 | | | | | 9 | [テーマ]各種プログラム(尿失禁プログラム) [内容]尿失禁プログラムの取り組みについて解説する。 | | | | |
| 担当 (笠原) | [授業外学修](240分) 少子高齢化社会に関する小レポート作成 | | | | 担当 (江尻) | [授業外学修](240分) 尿失禁プログラムに関する小レポート作成 | | | | | |
| 2 | [テーマ] 我が国における健康支援・介護予防の取り組みの背景 [内容]我が国において、健康支援・介護予防の取り組みがどのような背景でスタートし、今日に至るかを解説する。 | | | | | 10 | [テーマ]各種プログラム(口腔領域のケアプログラム) [内容]口腔領域のケアプログラムの取り組みについて解説する。 | | | | |
| 担当 (笠原) | [授業外学修](240分) 健康支援・介護予防の背景に関する小レポート作成 | | | | 担当 (江尻) | [授業外学修](240分) 口腔プログラムに関する小レポート作成 | | | | | |
| 3 | [テーマ] 健康支援・介護予防とまちづくり(1) [内容]健康支援・介護予防とまちづくりに向けた町づくりについて、各自治体の取り組みを例に挙げ解説する。 | | | | | 11 | [テーマ]各種プログラム(低栄養予防プログラム) [内容]低栄養予防プログラムの取り組みについて解説する。 | | | | |
| 担当 (笠原) | [授業外学修](240分) 健康支援・介護予防とまちづくりの小レポート作成 | | | | 担当 (江尻) | [授業外学修](240分) 低栄養プログラムに関する小レポート作成 | | | | | |
| 4 | [テーマ] 健康支援・介護予防とまちづくり(2) [内容]健康支援・介護予防とまちづくりに向けた町づくりについて、各自治体の取り組みを例に挙げ解説する。 | | | | | 12 | [テーマ]健康支援・介護予防の自治体の取組(1) [内容]健康支援・介護予防に関する各自治体の取り組みを例に挙げ解説する。 | | | | |
| 担当 (笠原) | [授業外学修](240分) 健康支援・介護予防とまちづくりの小レポート作成 | | | | 担当 (江尻) | [授業外学修](240分) 自治体の取り組みに関する小レポート作成 | | | | | |
| 5 | [テーマ] 健康行動に向けた取り組み(1) [内容]健康行動に向けた取り組みについて、行動変容の視点から解説する。 | | | | | 13 | [テーマ]健康支援・介護予防の自治体の取組(2) [内容]健康支援・介護予防に関する各自治体の取り組みを例に挙げ解説する。 | | | | |
| 担当 (笠原) | [授業外学修](240分) 健康行動に関する小レポート作成 | | | | 担当 (江尻) | [授業外学修](240分) 自治体の取り組みに関する小レポート作成 | | | | | |
| 6 | [テーマ] 健康行動に向けた取り組み(2) [内容]健康行動に向けた取り組みについて、行動変容の視点から解説する。 | | | | | 14 | [テーマ]健康支援・介護予防の自治体の取組(3) [内容]健康支援・介護予防に関する各自治体の取り組みを例に挙げ解説する。 | | | | |
| 担当 (笠原) | [授業外学修](240分) 健康行動に関する小レポート作成 | | | | 担当 (江尻) | [授業外学修](240分) 自治体の取り組みに関する小レポート作成 | | | | | |
| 7 | [テーマ] 健康行動に向けた取り組み(3) [内容]健康行動に向けた取り組みについて、行動変容の視点から解説する。 | | | | | 15 | [テーマ]まとめ [内容] 講義のまとめ | | | | |
| 担当 (笠原) | [授業外学修](240分) 健康行動に関する小レポート作成 | | | | 担当 (江尻) | [授業外学修](240分) 健康支援・介護予防に関する小レポート作成 | | | | | |
| 8 | [テーマ] 各種プログラム(自己管理型筋力増強プログラム) [内容]自己管理型筋力増強プログラムの取り組みについて解説する。 | | | | | 16 | [試験または課題] [方法]レポート課題の提出 | | | | |
| 担当 (江尻) | [授業外学修](240分) 筋力増強プログラムに関する小レポート作成 | | | | 担当 (笠原) | | | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | | |
| 各授業、テーマに沿った資料を配布し進めていく。各講義の後半に小テストを行い、理解度・到達度を確認する。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | ◎ | | | | 60% | ・2/3以上の出席がない学生は、単位を履修することができない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・本シラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。 ・授業計画は、授業の進み具合によって、多少変更が生じる場合もある | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | | | | | | | | | | |
| 授業外レポート | | | ◎ | | 20% | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| ポートフォリオ | ◎ | | | | 20% | レポート課題については、テーマに沿った記述内容とする。 | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | 参考書・参考資料等 | 介護予防(包括的高齢者運動トレーニング) 健康と良い友だち社 | | | | |
| 教科書 | 配布資料にて解説 | | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 笠原研究室:F棟2階207 | | | | | オフィスアワー | 木曜日(16時～17時30分) | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|---------|---------|--|---|-----|---|------|---|
| 授業科目名 | 養護教育学論 | | | | 担当教員 | 重巢吉美 | | | | |
| | Yogo Teacher Science and Art | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 選択 | 単位数 | 2 | グレード | 2 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| <p>養護教諭は学校教育法第37条において「養護をつかさどる」と定められた教育職員であり、「学校におけるすべての教育活動を通して、ヘルスプロモーションの理念に基づく健康教育と健康管理によって、子どもの発育・発達を支援を行う特別な免許を持つ教育職員」と定義されている。平成20年中教審答申では、保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動と5つの役割についても提示されている。これらの前提をふまえ、本授業においては、養護教諭の専門性を支える理論と技術の学問体系である「養護学」を概観するとともに、養護教諭の実践から固有の理論を導き出す「養護教育学」の内容および方法を理解し、もって、これからの学校教育活動における養護教諭の役割と養護実践の方策について考究する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| <p>養護学の諸理論と、養護実践の具体的展開方法を理解し、養護教諭の専門性について「理論と実践の往還」を行うことができる。 養護教諭としての資質能力の向上を図り、これからの学校教育活動における養護教諭の役割と養護実践の方策を論じることができる。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 養護学の諸理論を基盤とした養護実践の具体的展開方法について説明することができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 養護教諭の理論と技術の学問体系である養護学ならびに養護教育学の構築に関心意欲をもち、授業に積極的に参加できる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 養護教諭の専門性について「理論と実践の往還」を行い、養護教諭の教育実践の意義を説明できる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| <p>授業は担当者の専門領域を基盤としたテーマを毎回設定し、養護教諭の理論と実践について、講義や演習を通して学びを深める。 養護教諭の専門性についての「理論と実践の往還」を行うため、受講者のディスカッションと個人内の思考を促す時間を適宜設定する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | <p>[テーマ] 養護教育学論とは [内容] 養護学・養護教育学について、現状を概観する。 [授業外学習] 自らの実践について振り返り、課題を明確にしておくこと。(240分)</p> | | | | 9 | <p>[テーマ] 養護教諭の歴史-制度の沿革、役割の変遷- [内容] 養護教諭が誕生した頃の多くの文献・手記から、養護学・養護教育学を概観する。 [授業外学習] 「広瀬ます」について、調べておくこと。(240分)</p> | | | | |
| 2 | <p>[テーマ] 養護学・養護教育学の理論① [内容] 養護教諭の実践の基盤となる養護学の理論と養護実践の関係性を概説する。 [授業外学習] 養護教諭の実践にかかわる書籍等を講読しておく。(240分)</p> | | | | 10 | <p>[テーマ] 安全・安心な学校のづくりに向けた養護教諭の在り方 [内容] 養護教諭のヒアリの事例から、養護教諭の在り方を構築する。 [授業外学習] 養護教諭のヒアリの事例について文献等で調べておく。(240分)</p> | | | | |
| 3 | <p>[テーマ] 現代的な健康課題に対応する養護実践① [内容] エビデンスに基づいた養護教諭の実践の在り方について概説する。 [授業外学習] 様々な養護実践の報告等を、書籍や文献にて調べておく。(240分)</p> | | | | 11 | <p>[テーマ] チーム学校の連携力を高める演習① [内容] チーム学校としての危機管理(感染症対策 等)から、養護教諭の在り方を構築する。 [授業外学習] 学校組織の一員としての養護教諭について文献等で調べておく。(240分)</p> | | | | |
| 4 | <p>[テーマ] 現代的な健康課題に対応する養護実践② [内容] 事例等を踏まえ、養護教諭の実践の在り方について検討する。 [授業外学習] 様々な養護実践の報告等を、書籍や文献にて調べておく。(240分)</p> | | | | 12 | <p>[テーマ] チーム学校の連携力を高める演習② [内容] 演習:緊急時(エビデン・AEDの使用)に備える教職員への指導について、ディスカッションを行い、その具体案を作成する。 [授業外学習] 緊急時(エビデン・AEDの使用)に備える、教職員への指導の試案を持参すること。(240分)</p> | | | | |
| 5 | <p>[テーマ] 養護実践の省察① [内容] 養護教諭の実践の省察の在り方について概説する。 [授業外学習] 教師の省察について、関連する書籍や文献にて調べておく。(240分)</p> | | | | 13 | <p>[テーマ] 生きる力の構築に向けた健康教育実践① [内容] 保健委員会活動で取組んだ内容について概観する。 [授業外学習] 児童・生徒保健委員会活動を活発にするためのアイデアをまとめておくこと。(240分)</p> | | | | |
| 6 | <p>[テーマ] 養護実践の省察② [内容] 養護教諭の実践の省察のための方法について演習を行う。 [授業外学習] 教師の省察について、関連する書籍や文献にて調べておく。(240分)</p> | | | | 14 | <p>[テーマ] 生きる力の構築に向けた健康教育実践② [内容] 演習:「保健だより」の在り方について、ディスカッションし制作する。 [授業外学習] 指示する月の保健だよりを持参し、工夫した点とさらにレベルアップを図るために必要な点を考えておくこと。(240分)</p> | | | | |
| 7 | <p>[テーマ] 養護教諭の理論構築のための研究法① [内容] 質的研究法による文献クリティークを行い、養護教諭の理論構築の方法について概説する。 [授業外学習] 養護教諭にかかわる研究論文を探索熟読し、養護教諭の行う研究の意義について自らの見解をもつこと。(240分)</p> | | | | 15 | <p>[テーマ] 生きる力の構築に向けた健康教育実践③ [内容] 養護学・養護教育学の力を学校運営・経営に活かすことについてディスカッションする。 [授業外学習] 養護教諭から管理職へ登用をされた方のことを調べておく。(240分)</p> | | | | |
| 8 | <p>[テーマ] 養護学の理論構築のための研究法② [内容] 質的研究法による文献クリティークを行い、養護教諭の理論構築の方法について概説する。 [授業外学習] 養護教諭にかかわる研究論文を探索熟読し、養護教諭の行う研究の意義について自らの見解をもつこと。(240分)</p> | | | | 16 | <p>[試験または課題] 課題 [方法] 後日、レポートテーマを示す。</p> | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| <p>授業の参加状況、課題に対する対応状況、レポート内容などにより、授業の到達目標に対する到達度評価を行う。</p> | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | 自らの興味関心領域を大切にするとともに、課題意識をもって講義に臨むこと。受講者同志の積極的な交流を行うこと。 | | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ○ | ◎ | 20 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | | |
| 授業外レポート | ◎ | ○ | ○ | 50 | | | | | | |
| ポートフォリオ | ○ | ◎ | ○ | 20 | 講義およびメール等にて適宜フィードバックを行う。 | | | | | |
| その他 | ○ | ○ | ○ | 10 | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | 参考書・参考資料等 | 岡田加奈子・河田史宝他:養護教諭のための養護学概論―理論と実践―(東山書房2021) | | | | |
| 教科書 | | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 研究室:F棟2階209 | | | | オフィスアワー | 水14:20~15:50 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|-------|---------|---------|---|---|---|------|---|
| 授業科目名 | 子ども運動教育特講 | | | | 担当教員 | 久能和夫/針生弘/金賢植 | | | | |
| | Kinematics Education for children | | | | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | 履修方法 | 1年 | 選択 | 2年 | 必修 | 単位数 | 2 | グレード | 1 |
| 授業の概要 | | | | | | | | | | |
| <p>幼児教育者、保育士および幼児体育指導者にとって必要な幼児体育(運動あそび)に関する基礎知識、発育・発達段階に応じた指導、実践できるよう学習する。また、幼児期の子どもの発育発達への科学的アプローチに基づき講義する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の一般目標 | | | | | | | | | | |
| <p>子どもの発育発達について基礎知識を身に付けるとともに、幼児教育・保育の基本、保育の計画と観察・記録と評価、幼児のリズム運動と発達、幼児体育と健康・環境・人間関係、子どもの体力・運動能力、生活習慣の測定方法およびデータの分析を通じて幼児体育を豊かに展開するために必要な知識を習得する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | | | | | | |
| ■ 認知的領域 | 子どもの形態の発育、機能の発達を理解し、幼児体育指導員に必要な発育・発達への科学的知識を身につけることができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 情意的領域 | 子どもの発育特性に関する基礎知識、データ分析方法について関心を持つことができる。 | | | | | | | | | |
| ■ 技能表現的領域 | 幼児期の子どもの発育発達に合わせた幼児体育(運動あそび)環境の操作ができる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(全体) | | | | | | | | | | |
| <p>授業のテーマに沿った資料を用いた講義や実技を行い、理論と実践の融合を図る。授業全体は、各教員別に3分され、幼児教育・保育の基本～乳幼児の食事・睡眠・あそび・排泄(久能)、0～5歳児の育ちの基本～子どもと地域(針生)、近年の子どもの体の異変とその対策～幼児期の子どものヘルスプロモーション(金)を主要内容として講義を行う。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(詳細) | | | | | | | | | | |
| 回 | 授業テーマとその内容 | | | | | | | | | |
| 1 | [テーマ] オリエンテーション [内容]担当教員の紹介、授業の目標、授業の進め方、評価方法について説明する。 [授業外学修] 幼児教育・保育について予習していくこと。 | | | | 9 | [テーマ] 幼児体育・生活と季節 [内容] 幼児の体育(運動あそび)・生活と季節との関わりを習得する。 [授業外学修] 子どもと地域について予習していくこと。 | | | | |
| 2 | [テーマ] 幼児教育・保育の基本 [内容] 幼稚園・保育所の一日の流れや内容を習得する。 [授業外学修] 1～5歳児の保育内容について予習していくこと。 | | | | 10 | [テーマ] 子どもと地域 [内容] 子どもと地域という社会環境について解説する。 [授業外学修] 近年の子どもの体の異変とその対策について予習していくこと。 | | | | |
| 3 | [テーマ] 1～5歳児の保育内容 [内容] 1～5歳児の発達段階の特徴、子どもの姿を学ぶ。 [授業外学修] 保育の計画と観察・記録と評価について予習していくこと。 | | | | 11 | [テーマ] 近年の子どもの体の異変とその対策 [内容] 幼児期の子どもの生活リズムの乱れの対策を学ぶ。 [授業外学修] 幼児体育(運動あそび)と心と体の発達について予習していくこと。 | | | | |
| 4 | [テーマ] 保育の計画と観察・記録と評価 [内容] 保育の計画と観察・記録と評価の理論と実際を習得する。 [授業外学修] 乳幼児の食事・睡眠・あそび・排泄について予習していくこと。 | | | | 12 | [テーマ] 幼児体育(運動あそび)と心と体の発達 [内容] 乳幼児期の子どもの幼児体育(運動あそび)と心と体の発達について習得する。 [授業外学修] 体力・運動能力の測定方法および分析について予習していくこと。 | | | | |
| 5 | [テーマ] 乳幼児の食事・睡眠・あそび・排泄 [内容] 乳幼児の食事・睡眠・あそび・排泄について学ぶ。 [授業外学修] 0～5歳児の育ちの基本について予習していくこと。 | | | | 13 | [テーマ] 子どもの体力・運動能力の測定方法およびデータの分析 [内容] 文部科学省の体力・運動能力の測定方法およびデータの分析を習得する。 [授業外学修] 生活習慣の調査方法およびデータの分析について予習していくこと。 | | | | |
| 6 | [テーマ] 0～5歳児の育ちの基本 [内容] 乳幼児の発達と生活について学ぶ。 [授業外学修] 幼児のリズム運動と発達について予習していくこと。 | | | | 14 | [テーマ] 子どもの生活習慣の調査方法およびデータの分析 [内容] 発達段階に応じた運動会の表現演技を観ることで、あそびから演技への保育のプロセスを学ぶ。 [授業外学修] 幼児期の子どものヘルスプロモーションについて予習していくこと。 | | | | |
| 7 | [テーマ] 幼児のリズム運動と発達 [内容] 現代の子どもが抱えて・抱えられている発達上の問題点について解説する。 [授業外学修] 幼児体育と健康・環境・人間関係について予習していくこと。 | | | | 15 | [テーマ] 幼児期の子どものヘルスプロモーション [内容] 世界の子どものヘルスプロモーションについて習得する。 [授業外学修] 授業の復習をして、説明できるようにしておく。 | | | | |
| 8 | [テーマ] 幼児体育と健康・環境・人間関係 [内容] 健康な心と体を育ち、自ら健康で安全な生活を作り出す、心身の健康について解説する。 [授業外学修] 幼児体育・生活と季節について予習していくこと。 | | | | 16 | [テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、達成度を確かめるために期末テストを実施する。 [授業外学修] これまでの学習内容をまとめておく。 | | | | |
| 成績評価方法(方針) | | | | | | | | | | |
| 講義のテーマに関する理解度や質疑応答、授業内と議論、提出した課題を総合的に判断して評価する。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(詳細) | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 到達目標 | 認知的領域 | 情意的領域 | 技能表現的領域 | 評価割合(%) | 履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと) | | | | |
| 定期試験(期末試験) | | | | | | ・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することができない。 ・受講者等により授業計画には変更する場合がある。 | | | | |
| 小テスト・授業内レポート | | ◎ | ○ | ○ | 30 | 試験、小テストやレポート課題の結果のフィードバック方法 | | | | |
| 授業外レポート | | ◎ | ○ | ○ | 50 | | | | | |
| ポートフォリオ | | | | | | レポート・発表内容について、事後フィードバックおよび授業時に解説・評価を行う。 | | | | |
| その他 | | ○ | ○ | ○ | 20 | | | | | |
| 関連科目 | 子ども運動教育演習 | | | | | 参考書・参考資料等 | 「幼児体育(理論と実際)」:日本幼児体育学会 | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 久能研究室: 針生研究室: 金研究室:hs-kim@sendai-u.ac.jp | | | | | オフィスアワー | 久能: 針生: 金:LC棟203室(水曜日14:20～16:00) | | | |